

34-2661
1200501249658

74
661



始



THE ILLUSTRATED THOUSAND
INSECTS OF JAPAN
VOL. II
(HYMENOPTERA)
1930

訂 增

日 本 千 蟲 圖 解

第 貳 卷
膜翅目の部(蜂)

農 理
學 學
博 博
士 士
松 村
松 年
著

東 京 刀 江 書 院



34-2661

凡 例

- 一、本書には十八圖版を以つて三百四十四種の蜂類を説明せり。尤もこの他に十六種の變種及び雌雄の兩者を描き居れり。
- 一、本書には續千蟲圖解第三及び第四卷に記載せるものを訂正増補して記載せるが、殊に姫蜂の學名の如きは最近内田登一博士の調査せるものを採用せり。
- 一、本書の校正に際し内田登一博士及び河野廣道學士の助力を得たること少しとせず。依つて爰に謝意を公表す。

於札幌

松村松年識

昭和五年六月

訂増 日本千蟲圖解

第二卷 膜翅目之部

理學博士 農學博士

松村松年

(1) スズメバチ (胡蜂) 續千蟲三。九八頁 (N. 658) (第一圖(1)♀)

學名 *Vespa mandarina* Sm.

昆蟲學上の地位、胡蜂科 (*Vespidae*)。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 98, pl. XXXVIII.

f. 1, ♀, N. 658 (1911)

體は黒褐。頭は黄褐、後頭甚しく列らる。額片の前縁に二突起を具へ、單眼の部分並に後頭に暗褐毛あり。胸腹に黒褐毛を裝ひ、稜状部に普通四個の黄褐紋あり。各腹節の後縁及び尾節は黄褐。觸角の柄節及び翅底鱗の内側は暗黄褐。翅は黄褐、半透明。脚は黒褐、前腿節の半及び附節は暗褐。體長一寸乃至一寸四分。開張二寸五分乃至二寸六分。こは一名ヤマバチ又クマバチとも稱し、果實の成熟期に大害を加ふるものあり。又好んで樹液を吸收す。土中又は樹幹の洞窟に大なる巢を造營す。其毒甚だ猛烈なり。本邦何れの地にも普通なり。

分布——北海道、本州、四國、九州、朝鮮、支那。

(2) タイワンオホスズメバチ 續千蟲三。九八頁 (N. 659) (第一圖(2)♀(5)♀)

學名 *Vespa magnifica* Sm. subsp. *sonani* Mats.

昆蟲學上の地位、胡蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 98, pl. XXXVIII, f. 2, ♀,

日本千蟲圖解

雌は前種に酷似すれども、中胸の前縁に稍や判然せる黄褐のV字形あり。腹部は暗褐、黒褐の剛毛を具へ、第一及び第二腹節の前縁、後縁及び殘各節の二紋並に後縁は黄褐、尾節は黄色。翅は前種に比し濃色にして、稍や不透明。脚は黒褐、跗節は暗褐、光澤あり。職蜂にありては前胸背及び稜狀部は黄褐、中胸背にV字形の黄褐紋を缺く。體長九分——一寸五分。開張一寸八分——二寸七分。此は臺灣に普通なり。

分布——臺灣、支那(原種は印度に産す)。

(3) **キイロスズメバチ** 續千蟲三。九九頁 (N. 660) (第一圖 (3) (♀))

學名 *Vespa auraria* Sm.

昆蟲學上の地位、胡蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 99, pl. XXXVIII, f. 3, ♀, N. 660 (1911)

體は黒褐。頭頂の一紋、中胸背、稜狀部の十字溝、後胸背の中央、胸下及び腹部の斑紋は暗褐、黄褐の細毛を密生す。第一及び第二腹節の前半は暗褐、之れに各二個の判然せざる黄紋を具へ、第三節に黒褐紋あり。體長七分——九分。開張一寸三分——一寸七分。こは本邦稀ならざる種類なり。

分布——本州、支那。

(4) **ヒメスズメバチ** 續千蟲三。九九頁 (N. 661) (第一圖 (4) (♀))

學名 *Vespa ducahis* Sm.

昆蟲學上の地位、胡蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 93, pl. XXXVIII, f. 4, ♀, N. 661 (1911)

體は黒褐。後頭、單眼の周圍並に頭片の前縁に細毛を粗生す。頭、前胸背、稜狀部、第一及び第二腹節並に脚は黄褐。翅底鱗は暗褐。第一及び第二腹節の後縁に近く黒褐帯を具へ、第四、第五、第六及び第七節は黒褐、但し亞種 *subsp. pulchra* Bur. にありては第一及び第二腹節の黒褐帯は判然せず、且つ第三腹の中央に黄褐帯を有す。翅は赤褐、前縁及び脚の基節は暗褐。體長七分——一寸三分。開張一寸六分——二寸。之れは琉球及び臺灣に普通なれども、本邦には稀なり。

分布——本州、琉球、臺灣、支那、印度。

(5) **キヲビスズメバチ** 續千蟲三。一〇〇頁 (N. 662) (第一圖 (6) (♀))

學名 *Vespa flavofasciata* Cam.

昆蟲學上の地位、胡蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 100, pl. XXXVIII, f. 6, ♀, N. 662 (1911)

體は黒褐。觸角は暗褐、柄節は黄褐。頭、前胸背の一帯、中胸背の前縁にある二紋、稜狀部及び其下方の二紋並に初めの第二腹節の後縁に近き帯及び第二節の中央にある一帯黒褐。第二節にあるものは波状をなし、第三節の前縁は廣く黒褐、後縁は黄褐、殘節は黒褐。職蜂にありては第四節の後縁は黄褐、胸背に斑紋を缺く。翅は黄褐、前縁は黒褐。脚は黒褐、前跗節は黄褐。體長九分——一寸一分。開張一寸八分——二寸。之は本邦に餘り多からざる種類なり。

分布——本州、九州。

(6) **モンスズメバチ** 續千蟲三。一〇〇頁 (N. 663) (第一圖 (7) (8) (♀))

學名 *Vespa embro I. subsp. embroiformis* Sm.

昆蟲學上の地位、胡蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 100, pl. XXXVIII, f. 7-8, N. 633 (1911)
體は黒褐、前胸背、翅底鱗、第一腹節の中央帯及び後縁は黄褐。頭頂の一紋及び觸角の末端は黒褐。第二及び第三腹節の後縁並に殘節は黄色、第四及び第五腹節の兩側に各一黒紋あり。翅は黄褐にして、透明。脚は黒褐、腿節の末端、脛節及び跗節は黄褐。雄にありては第四及び第五腹節の斑紋判然せず。體長九分——一寸一分。開張一寸六分——一寸八分。之れは本邦何れの地方にも普通なり。

第八圖は亞種 *subsp. tartarea* Buy. と稱するものにして、其の異なる處は左の如し。

- 一、體小形なること。體長六分五厘——七分。開張一寸三分——一寸六分。
- 二、雄に於ては雌同様に腹部に黒紋を有す。
- 三、觸角は大部黄褐なること。

分布——樺太、北海道、本州、九州(原種は歐洲に産す)。

(7) **コガタモンズメバチ** 續千蟲三。一〇一頁 (N. 634) (第一圖(9)(♀))

學名 *Vespa parvula* André

昆蟲學上の地位、胡蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 101, pl. XXXVIII, f. 9, ♀, N. 634 (1911)

體は黒褐、細毛を裝ふ。頭及び各腹節の後縁は橙黄色。觸角は黒褐、柄節は黄褐。前胸背の細き一横紋及び第一腹節の前縁は黄褐。腹部は暗褐。尾節は黄色、第二節の兩側に普通黄褐紋あり。翅は黄褐、前縁は濃色。脚は黒褐、前肢は大部黄褐。體長六分——九分。開張一寸三分——一寸八分。これは何れの地方にも普通なり。

分布——北海道、本州、九州。

(8) **ヒメモンズメバチ** 續千蟲三。一〇二頁 (N. 635) (第一圖(10)(♀))

學名 *Vespa mongolica* André

昆蟲學上の地位、胡蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 102, pl. XXXVIII, f. 10, ♀, N. 635 (1911)

體は黒褐、細毛を密生す。頭、前胸背、中胸背の二紋、中胸側の一紋、稜状部の四紋、各腹節の後縁及び脚は黄褐。下面及び第二腹節の半は黄色。翅底鱗及び翅は黄褐、前縁濃色。第三腹節以下各節の基部は黒褐。前肢は大部黄色。體長(♀)七分——八分。開張一寸三分。これは餘り多からず。

分布——樺太、北海道、本州、滿洲。

(9) **オホクロスズメバチ** 續千蟲三。一〇二頁 (N. 636) 第一圖(11)(♀)

學名 *Vespa rufa I. subsp. sibirica* André

昆蟲學上の地位、胡蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 102, pl. XXXVIII, f. 11, ♀, N. 636 (1911)

體黒褐、細毛を密生す。大腮、額片(中央の黒線を除き)、腹眼間の三紋、觸角柄節の下面、前胸背の細き一横線及び後縁、稜状部の四紋、胸側の二紋、各腹節の後縁等は黄色乃至黄褐。第二腹節以下黄帯の兩側及び中央は半圓形に列らる。翅は黄褐、前縁は濃色。腿節の末端、脛節の大部及び跗節は黄色。體長五分五厘。開張一寸。こは本邦に餘り多からざれども、樺太には普通なり。

分布——樺太、北海道、本州、西比利亞。

(10) ツマゲロスズメバチ 續千蟲三。一〇三頁 (N. 667) 第一圖 (12) (♀)

學名 *Vespa formosana* Sounan

昆蟲學上の地位、胡蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 103, pl. XXXVIII, f. 12, ♀, N. 667 (1911)
體は黃褐。觸角間に一黒紋あり。中胸背の前縁及び中央の縦線は黒褐。後胸背の中央は暗色。第三腹節以下は黒褐。翅は黃褐、半透明、前縁脈及び中脈の基部は黒褐。體長七分——八分。開張一寸——一寸四分。これは琉球及び臺灣地方に普通なれども、未だ本邦に産するものあるを聞かず。
分布——琉球、臺灣、支那。

(11) クロスズメバチ 續千蟲三。一〇三頁 (N. 669) 第一圖 (13) (♀)

學名 *Vespa japonica* Sauss.

昆蟲學上の地位、胡蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 103, pl. XXXVII, f. 13, ♀, N. 668 (1911)
體黒色、細毛を装ふ。額片(中央の黒縦條を除き)、大腮、複眼間の三紋、前胸背の後縁、胸側の一紋、稜状部の二紋、各腹節の後縁並に脚は黄色なれども、少しく綠色を帯ぶ。脚基節の内方及び腿節の大部は黒色。翅は透明にして、少しく暗色を帯び、脈は暗褐なり。體長四分——六分五厘。開張八分——一寸二分。こは本邦何れの地方にも普通なり。

分布——樺太、北海道、本州、四國、九州、朝鮮。

(12) トビイロアシナガバチ 續千蟲三。一〇四頁 (N. 669) 第二圖 (1) (♀)

學名 *Polistes confusus* Sm.

昆蟲學上の地位、胡蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 104, pl. XXXIX, f. 1, ♀, N. 669 (1911)
體は暗褐。頭には小點刻を密布し、斑紋を缺く。複眼は灰褐。觸角は黒褐。前胸背の後縁は淡色、胸背に横皺多し。腹部は少しく金色を帯び、光線の工合にて少しく紫色を現はす。翅は黃褐にして、半透明、前縁及び前縁脈は黒褐。體長一寸餘。開張二寸四分。此は臺灣地方に普通なり。
分布——臺灣、支那、印度。

(13) アシナガバチ (長脚蜂) 續千蟲三。一〇四頁 (N. 670) 第二圖 (2) (♀)

學名 *Polistes hebraeus* F.

昆蟲學上の地位、胡蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 104, pl. XXXIX, f. 2, ♀, N. 670 (1911)
體は黒褐。頭、前胸の一横線、後縁、中胸背の二縦線、稜状部の二紋、其の下方の一横帯、後胸背の二縦線、胸側の二紋、胸下、各腹節の後縁及び脚は黃褐。觸角は暗褐、中央及び柄節の下面は黃褐。前頭には絹様の光澤ある短毛を密生す。各腹節の兩側に黃褐の一紋ありて、第二節にあるものは大、各節の横帯は兩側及び中央にて少しく刻らる。翅は黃褐、前縁は濃色。基節、腿節並に脛節の上面黒褐。こは本邦何れの地方にも普通なれども、北海道には産せず。體長七分——八分五厘。開張一寸二分——一寸三分。
分布——本州、四國、九州、琉球、臺灣、支那、印度。

(14) コアシナガバチ 續千蟲三。一〇五頁 (N. 671) (第二圖 (3) (♀))

學名 *Polistes yokohamae* Rad.

昆蟲學上の地位、胡蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 105, pl. XXXIX, f. 3, ♀, N. 671 (1911)

體は黒褐。前胸に黒刻を密希し、微毛を装ふ。觸角の末端は暗褐。額片、大腮、複眼の後方、前胸背、稜状部、翅底鱗、各腹節の後縁は黄褐。腹部は絹様の光澤を帯び、稍や卵形を呈す。翅は黄褐、前縁は濃色、外縁は淡色。脚は暗褐、基節及び跗節の上面は黄褐。こは本邦何れの地にも稀ならず。體長四分—五分五厘。開張一寸—一寸二分。

分布—北海道、本州、九州。

(15) コフタモンアシナガバチ 續千蟲三。一〇五頁 (N. 672) (第二圖 (4) (♀))

學名 *Polistes palliens* T.

昆蟲學上の地位、胡蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 105, pl. XXXIX, f. 4, ♀, N. 672 (1911)

體は黒褐。額片、前胸背の一横線及び後縁、翅底鱗、稜状部の四紋、後胸背の二縦條、胸側の二紋、各腹節の後縁、第一及び第二腹節の二紋並に胸下は黄色。翅は黄褐、外縁は少しく暗色を帯ぶ。脚は黄色、基節、腿節及び脛節の上面は大部黒色、脛節及び跗節の大部は黄褐。こは本邦普通なる種類なり。體長六分。開張一寸。

分布—樺太、北海道、本州、九州、滿洲、歐洲。

(16) ヤエヤマアシナガバチ 續千蟲三。一〇六頁 (N. 673) (第二圖 (5) (♀))

學名 *Polistes yuyeyamae* Mats.

昆蟲學上の地位、胡蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 106, pl. XXXIX, f. 5, ♀, N. 673 (1911)

體黄褐。胸下は黒色、頭頂(二黄紋を除き)、觸角の中央、中胸背(黄色四縦紋を除き)、後胸背の前縁及び一縦條、第一腹節の基部、第二腹節の前縁並に脚各節の基部は黒色、第一腹節の中央にある一横紋は黒色、第三及び第四節の兩側に黒き半環紋を装ふ。翅は黄褐にして、透明、外縁少しく暗色を帯ぶ。こは八重山地方には稀れならざるが如し。體長六分—七分五厘。開張一寸一分—一寸三分。

分布—沖繩(八重山)。

(17) ヒメアシナガバチ 續千蟲三。一〇七頁 (N. 674) (第二圖 (6) (♀))

學名 *Polistes erythrocerus* Cam.

昆蟲學上の地位、胡蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 107, pl. XXXIX, f. 6, ♀, N. 674 (1911)

體は黒褐。觸角は黄褐、柄節の上面は黒色。大腮、上唇、頬及び複眼は黄色乃至暗黄。胸背に淺き點刻を粗布し、微毛を装ふ。前胸背の兩側は黄褐。翅底鱗下の二紋、稜状部の四紋及び中胸背の二縦線、各腹節の後縁は黄色、但し第二、第三及び第四腹節の黄色部は兩側にて弓状に列らる。翅は黄褐、外縁は少しく黄褐を帯ぶ。脚は黄色、基節、腿節及び跗節の大半は黒褐、脛節の外方及び後脛節の大部は黒褐。本州には稀ならざる種類なり。體長六分五厘。開張一寸五分。

分布——本州。

(18) キボシアシナガバチ 續千蟲三。一〇七頁 (N. 675) (第二圖 (7) ♀)

學名 *Polistes mandarinus* Sauss.

昆蟲學上の地位、胡蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III. p. 107, pl. XXXIX. f. 7, ♀, N. 675 (1911)

體は黒褐、淺き點刻を具へ、微毛を裝ふ。前頭の兩側、頬、大腿及び觸角は赤褐。額片は黄色。前胸背、翅底鱗下の一紋及び稜狀部は黄褐。後者前後の兩縁及び後胸背の二紋は黄色。後胸と腹部と相連なる部分は黄色。各腹節の後縁は黄褐、第一腹節の兩側にある二紋は黄色。翅は黄褐、前縁は濃色。脚は褐色、腿節の下面は黒褐、跗節に赤褐の短刺あり。體長五分——六分。開張一寸。こは本邦に餘り多からず。

分布——本州。

(19) ホソアシナガバチ 續千蟲三。一〇八頁 (N. 676) (第二圖 (8) ♀)

學名 *Polybia orientalis* Suw.

昆蟲學上の地位、胡蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III. p. 108, pl. XXXIX. f. 8, ♀, N. 676 (1911)

體は黄色、頭頂の一紋及び觸角柄節の上面は黄褐。前胸の兩側に八字形の黒褐紋を具へ、中、後兩胸背の三縱條は黄褐。稜狀部の横溝は暗褐。腹背は暗褐、各節に二個の黄紋あり。翅透明にして、少しく灰黄色を帯び、前縁及び縁紋は黄褐。脚は黄色、跗節の大部は暗褐。體長六分五厘。開張一寸。此は九州地方には稀ならず。

分布——本州、九州、沖繩、臺灣、支那、シンガポール、印度。

(20) スズバチ (鈴蜂) 續千蟲三。一〇八頁 (N. 677) (第二圖 (9) ♀)

學名 *Eumenes japonica* Sauss.

昆蟲學上の地位、泥蜂科 (Eumenidae)。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III. p. 108, pl. XXXIX. f. 9, N. 677 (1911)

體は黒褐。額片觸角間の一紋、複眼及び觸角基部の内側、前胸背(後縁を除き)、胸側の一紋等は黄色乃至黄褐。翅底鱗、稜狀部及び第二腹節の末端黄褐。第二腹節は著しく膨大す。翅は透明、少しく暗褐を帯ぶ。脚は黒褐、腿節の末端及び脛節の大部は赤褐、微毛多し。體長八分。開張一寸三分。此は本邦何れの地にも普通なり。

分布——北海道、本州、九州。

(21) クロスチスズバチ 續千蟲三。一〇九頁 (N. 678) (第二圖 (10) ♀)

學名 *Eumenes esuriens* F.

昆蟲學上の地位、泥蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III. p. 109, pl. XXXIX. f. 10, ♀, N. 678 (1911)

頭頂は黒色。額片、觸角間の三角紋、複眼の内側、前胸背、中胸側の一紋、後胸背の三紋、第一、第二腹節の後縁並に尾端の三節等は黄色。觸角及び大腿は黄褐。中胸背は黒褐。翅底鱗は赤褐、内側は黄色。稜狀部は黄褐。第一及び第二腹節は黄褐、第一節の基部及び末端に近き一紋は黒色、第二節は黄褐。後肢の轉節及び腿節の内方は暗褐。體長七分五厘。開張一寸二分。此は臺灣地方に稀ならず。

分布——沖繩、臺灣。

(22) ハラナガスズバチ 續千蟲三。一〇九頁 (N. 679) (第二圖 (11) ♀)

學名 *Eumenes arcuata* F.

昆蟲學上の地位、泥蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 109, pl. XXXIX, f. II, ♀, N. 679 (1911)

體黒色。頭に點刻を具へ、微毛を裝ふ。複眼は灰色。額片(周圍は黒色)、觸角間の三角紋、前胸背の太き一帯、中胸側の一紋、稜狀部の二紋及び其の下方の一帯、後胸にある心臟形の環紋並に腹部の斑紋は黄白。中胸の兩側は鋭角をなして突出す。第一腹節は細長にして、全長の半を占め、六紋を有す。第二節の兩側に四個の横紋ありて、後縁に近きものは長くして、帶狀をなし、以下各節後縁の兩側に二横紋を具へ、何れも帶狀をなす。翅は暗色、半透明。脚は黒色、基節に一個の黄斑を存す。體長九分九厘。開張一寸四分五厘。此は臺灣地方に産すれども、餘り多からず。

分布——臺灣、支那、印度。

(23) トツクリバチ (徳利蜂) 續千蟲三。一一〇頁 (N. 680) (第二圖 (12) ♀)

學名 *Eumenes pomiformis* F.

昆蟲學上の地位、泥蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 110, pl. XXXIX, f. 12, ♀, N. 680 (1911)

體は黒色、點刻を密布す。額片の基部、觸角の一紋、觸角柄節の内側、前胸背の一横帯、中胸側の一紋、翅底鱗、稜狀部の四紋、腹部の斑紋及び脚の大部は黄色。翅は暗褐にして、稍々透明、前縁は黄褐。第一及び第二腹節の中央にある二紋及び各節の後縁は黄色、第三節以下の各節は光澤を帯ぶ。腿節の基部及び基節(外側に黄紋あり)は黄褐。此は樹枝若しくは壁に泥を以て球形の巢を作り、其の内に蜘蛛、蜈蚣等を貯へ以てその幼蟲の食物に供す。本邦何れの地にも普通なり。體長六分五厘。開張九分九厘。

分布——本州、四國、九州、支那、歐洲。

(24) キスチドロバチ 續千蟲三。一一一頁 (N. 681) (第二圖 (13) ♀)

學名 *Odynerus flavolineatus* Sm.

昆蟲學上の地位、泥蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 111, pl. XXXIX, f. 13, ♀, N. 681 (1911)

體は黒色、點刻を密布し、微毛を裝ふ。額片(兩側紋は黒色)、觸角上の一紋、觸角柄節の内側、前胸背の一横帯、中胸側の一紋、稜狀部の三紋、各腹節の後縁並に脚の大部は黄色。第一腹節の黄褐帯は中央にて三角形に列られ、第二腹節の黄帯は少しく波狀をなす。翅半透明、光線の工合にて紫色を現はす。基節及び腿節の基部は黒褐。體長四分六厘。開張七分二厘。此は沖繩地方に普通なり。

分布——沖繩、臺灣。

(25) ミカドドロバチ 續千蟲三。一一一頁 (N. 682) (第二圖 (14) ♀)

學名 *Odynerus mikado* Kirisch.

昆蟲學上の地位、泥蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 111, pl. XXXIX, f. 14, ♀, N. 682 (1911)

體は黒色、點刻を密布し、微毛を粗生す。額片、觸角間の一紋、觸角柄節の内側、前胸背の一帯、翅底鱗、稜狀部下方の一帯、各腹節の後縁及び脚の大部は黄色。第一腹節の點刻は他節のものに比し稍や密、第六腹節に黄

帯を缺く。翅は透明にして、暗色を帯ぶ。基節及び腿節(末端を除き)は黒色。體長三分三厘。開張六分二厘。多
は本邦稀ならざる種類なり。

分布——北海道、本州。

(26) クロバネドロバチ 續千蟲三。一一二頁 (N. 683) (第二圖(15)(♀))

學名 *Rhynehium flavomarginatum* Sm.

昆蟲學上の地位、泥蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 112, pl. XXXIX, f. 15, ♀, N. 683 (1911)

體は黒色、點刻を密布し、微毛を粗生す。額片、觸角間の一紋、柄節の下面、第一及び第二腹節の後縁は橙黄
色。第一腹節帯は中央にて太く、第二節帯の上縁に三個の切目を具へ、第二節の點刻は小にして、光澤を帯ぶ。
翅は暗褐、光線の工合にて紫色を帯ぶ。脚は黒褐。體長五分——六分。開張九分——一寸。此は中國地方に稀な
らず。

分布——本州、支那。

(27) シリアカドロバチ 續千蟲三。一一二頁 (N. 684) (第二圖(16)(♀))

學名 *Rhynehium Inemorthoidale* F.

昆蟲學上の地位、泥蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 112, pl. XXXIX, f. 16, ♀, N. 684 (1911)

體は黒褐。大腮、額片、觸角及び其の中間の一紋、頭頂(管様の黒紋を除き)、頬、前胸背、翅底鱗、稜狀部、
胸側の一紋、各腹節の後縁及び尾端の三帯並に前肢は黄褐、稜狀部に黄褐紋を缺くものあり。翅は黄褐、翅底及

び外縁少しく暗色を帯ぶ。脚は黒褐、腿節の末端、脛節及び跗節の暗褐なるものあり。體長五分——七分。開張
八分——一寸二分。此は本邦の暖國に稀ならず。

分布——九州、沖縄、臺灣、支那、印度。

(28) フトフタヲビドロバチ 續千蟲三。一一三頁 (N. 685) (第二圖(17)(♀))

學名 *Rhynehium mandarinum* Sauss.

昆蟲學上の地位、泥蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 113, pl. XXXIX, f. 17, ♀, N. 685 (1911)

體は黒色。額片、觸角柄節の下面、其の間室の一紋、複眼後の一紋、稜狀部の二紋、胸側の一紋、後胸背の兩
側にある一紋、第一及び第二腹節の後縁は橙黄色。翅底鱗の内側に弓形の黄紋及び後胸背の中央に赤褐の横紋を
有するものもあり。脚は暗褐。體長六分——七分。開張一寸——一寸二分。前種同様に本邦の暖國に普通なり。

分布——本州、九州、朝鮮、滿洲、琉球。

(29) クロドロバチ 續千蟲三。一一三頁 (N. 686) (第二圖(18)(♀))

學名 *Monolezamia indica* Sauss.

昆蟲學上の地位、泥蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 113, pl. XXXIX, f. 18, ♀, N. 686 (1911)

體黒色、粗大の點刻多し。額片の中央にある縦紋、觸角柄節下面の一縦紋及び其間室の一小紋は黄色。前胸背
の前縁及び頭は滑澤なり。翅底鱗には小點刻を粗布す。腹部の點刻は胸背のものより遙かに小なり。翅は暗色に
して、紫藍色を帯ぶ。脚は黒褐、跗節端は暗褐。體長八分。開張一寸三分。此は臺灣地方に産すれども稀なり。

分布——臺灣、支那、印度。

(30) オホキングチバチ 續千蟲三。一一四頁 (N. 687) (第二圖 (19) ♀)

學名 *Oruliro sapporensis* Mats.

昆蟲學上の地位、細腰蜂科 (Sphegidae)。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 114, pl. XXXIX, f. 19, N. 687 (1911)

體黑色。大腮(兩端は黑色)、觸角の柄節、前胸背の二紋、稜状部の兩側にある二紋、第二腹節以下各節の兩側にある一紋及び脚の斑紋は黄色。額片には銀白色の細毛を密生す。翅底鱗は暗褐、翅半透明にして、少しく暗褐を帯ぶ。腹部は頗る光澤を帯び、第二節にある紋は最大、第五節にあるものは中央にて相接續して一帯となる。

脚は黑色、基部の一紋、腿節の末端、脛節(下面の縦條を除き)及び跗節の大部は黄色。體長五分五厘——六分五厘。開帳八分——一寸。此は札幌地方に稀ならず。常に繖形科植物の花上に捕へ得べし。

分布——樺太、北海道。

(31) ツチスガリ 續千蟲三。一一五頁 (N. 688) (第二圖 (20) ♀)

學名 *Ceroeris unifasciata* Sm.

昆蟲學上の地位、細腰蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 115, pl. XXXIX, f. 20, N. 688 (1911)

體黑色、粗大の點刻を裝ふ。前頭、額片、大腮の基節、觸角柄節の下面、稜状部の前方及び第三腹節の一帯は橙黄色。觸角の下面及び各腹節の後縁は黄褐。翅は透明にして、少しく暗色を帯び、脈及び縁紋は暗褐。脚は黑色、基節の末端、腿節の基部、脛節の下面及び前跗節は黄色。體長三分五厘——四分。開張五分——八分。此は

札幌地方に普通なる種類なり。

分布——北海道、本州。

(32) ハナダカバチ 續千蟲三。一一五頁 (N. 689) (第二圖 (21) ♀)

學名 *Bembix nipponica* Sm.

昆蟲學上の地位、細腰蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 115, pl. XXXIX, f. 21, N. 689 (1911)

體は黄緑白。頭頂、中胸背の大圓紋、後胸(三紋を除き)及び胸下は黑色。觸角は黑色、柄節の下面は黄色。翅は透明、少しく黄色を帯び、脈は暗褐。腹部は圓錐形にして、第一節の基部、各節の後縁にある波状帯(第一節は廣く、次節より次第に細小す)、各節の前縁にある二紋及び各腹面節の一帯(第二節帯は大紋となる)は黑色。基節紋及び前腿節の下紋は黑色。體長七分——八分。開張一寸二分。此は中國地方に普通なれども、札幌地方には稀なり。砂中に造巢す。

分布——北海道、本州。

(33) キアシハナダカバチ 續千蟲三。一一六頁 (N. 690) (第二圖 (22) ♀)

學名 *Sphecius peckorum* Sm.

昆蟲學上の地位、細腰蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 116, pl. XXXIX, f. 22, ♀, N. 690 (1911)

體は黑褐。額片の前半、複眼の内側(此は光線の工合により銀色を帯ぶ)、前胸背の後縁、各腹節の二紋(第二節以下の紋は長形にして稍や帯状をなす)は黄色。翅は暗褐、半透明、翅底及び外縁は淡色。脚は黄褐、基節及

び腿節の基部は黒褐。腹面の中央に二黄紋あり。體長七分。開張一寸一分。此は東京地方の海岸に普通なる種類にして、前種同様に砂地に造巢す。

分布——本州、支那。

(34) ツツアナバチ 續千蟲三。一一六頁 (N. 691) (第二圖 (23) (♀))

學名 *Sphex nigripes* Sm.

昆蟲學上の地位、細腰蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 116, pl. XXXIX.

f. 23, ♀, N. 691 (1911)

體黑色。頭胸に黄色の細毛を密生し、前頭には銀白の細毛を密生す。翅透明、少しく黄色を帯び、外縁は暗色、脈の大部黄褐、前縁は黒褐。腹柄は長くして、殘節と同長。體長六分——七分。開張九分——一寸一分。此は本邦稀ならざる種類にして、竹、藁、蘆等の筒中に造巢す。

分布——本州、九州、支那。

(35) クロアナバチ 續千蟲三。一一七頁 (N. 692) (第二圖 (24) (♀))

學名 *Sphex nimbosus* Christ.

昆蟲學上の地位、細腰蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 117, pl. XXXIX, f. 24, ♀, N. 692 (1911)

體黑色、灰褐乃至黄白の細毛を密生し、顔及び前胸背の後縁に銀白色の短毛を密生す。觸角は黒褐、後胸背には横皺多し。翅は透明、黄色を帯び、翅底、前縁及び脈は黒褐、外縁は少しく暗色を帯ぶ。後翅は少しく黄色を

帯び、光線の工合にて少しく紫色を現はす。脚及び腹面は光澤を帯ぶ。體長七分——一寸。開張一寸二分——一寸五分。此は土中に造巢するの種類のにして、花上に普通なり。

分布——本州、四國、九州、沖繩、支那、印度。

(36) キイロアナバチ 續千蟲三。一一七頁 (N. 693) (第三圖 (1) (♀))

學名 *Sphex murulentus* F.

昆蟲學上の地位、細腰蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 117, pl. XI, f. 1, ♀, N. 693 (1911)

體黒褐。頭及び胸背に金色の短毛を密生す。大腮の基部、觸角の基部、翅底鱗、稜狀部及び脚の大部は黄褐。後胸背に約七個の横隆を具へ、末端には横皺を裝ひ、黄褐の長毛あり。翅は透明、少しく黄色を帯び、脈及び外縁は暗色、光線の工合にて紫藍色を現はす。腹部は光澤ある黒色、點刻少なし。基節及び轉節の大部は黒褐。體長八分。開張一寸四分。此は臺灣に普通なる種類なれども、未だ本邦に發見せられたることなし。

分布——琉球、臺灣。

(37) ルリジガバチ 續千蟲三。一一八頁 (N. 694) (第三圖 (2) (♀))

學名 *Sceliphron violaceum* F.

昆蟲學上の地位、腰細蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 118, pl. XI, f. 2, ♀, N. 694 (1911)

體は光澤ある青藍色、白毛の短毛多し。大腮及び觸角は黒色。後者の基部の二節は藍色。翅は半透明、暗褐を帯び、光線の工合により紫色を現はす。脚は青藍色、脛節は黒褐。體長五分——六分五厘。開張八分——一寸。

此は本邦普通なる種類にして、コウカバへ同様に便所の近傍に多し。

分布——本州、四國、九州、沖繩、臺灣、支那、印度。

(38) ジガバチ (似我蜂) 續千蟲三。一一八頁 (N. 635) (第三圖 (3) (♀))

學名 *Amnophila infesta* Sm.

昆蟲學上の地位、腰細蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 118, pl. XI, f. 3, ♀, N. 635 (1911)

體黑色。頭胸に黒褐の細毛を粗生し、前頭に粗大の點刻あり。頭頂及び胸背に點刻あれども、前頭のものより小なり。第二腹節末端の兩側及び第三節は赤黄、殘節は黒藍色。翅透明、少しく黄色を帯び、光線の工合により紫色を現はす。脚には灰白の短毛を密生す。體長七分——九分。開張九分——一寸五厘。此は本邦普通なる種類にして、道路に多し。

分布——北海道、本州、四國、九州。

(39) フジジガバチ 續千蟲三。一一九頁 (N. 636) (第三圖 (4) (♀))

學名 *Amnophila atripes* Sm.

昆蟲學上の地位、腰細蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 119, pl. XI, f. 4, ♀, N. 636 (1911)

體黑色。觸角の基部、第一、第二腹節及び脚(基節及び轉節を除き)は赤黄。胸背に横皺多く、稜狀部に縦皺あり。翅は透明、少しく黄褐を帯ぶ。第二腹節の前端は黑色、第三節以下の各節は黒藍色。跗節端は暗色。體長八分——一寸。開張九分——一寸二分。此は本邦の高山に普通なるものにして、余は始めて富士山に捕獲せるを以

て、この名を命せり。

分布——本州、沖繩、四國、九州、朝鮮、臺灣。

(40) ヒメキゴシジガバチ 續千蟲三。一一九頁 (N. 637) (第三圖 (5) (♀))

學名 *Zethiphon madraspatanum* F.

昆蟲學上の地位、腰細蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. p. 119, pl. XI, f. 5, ♀, N. 637 (1911)

體黑色。顔面に銀白の短毛を密生し、胸背に赤褐の細毛を粗生す。前胸背の二紋、翅底鱗、稜狀部の一紋、腹柄節、中胸側の一紋、轉節、腿節及び脛節の基部並に第一跗節(後肢)の大部は黄色。翅透明、暗褐を帯ぶ。此は本邦何れの地方にも普通なれども、未だ北海道に産するものあるを知らず。花上の蜚蠊、烏蠅を捕へ來り、己れの子供の食に供す。體長六分——七分。開張八分——一寸。

分布——本州、四國、九州、沖繩、臺灣、支那、印度。

(41) ジガバチモドキ 續千蟲三。一二〇頁 (N. 638) (第三圖 (6) (♀))

學名 *Typhoxylon obscurator* Sm.

昆蟲學上の地位、腰細蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 120, pl. XI, f. 6, ♀, N. 638 (1911)

體黑色。頭に銀白毛あり。翅底鱗は灰褐。後胸背に横皺多く、白毛を裝ふ。腹部は棍棒狀を呈し、第一節の末端、第二及び第三の兩節は赤褐、後縁の中央は少しく暗褐を帯ぶ。翅は透明、少しく黄褐を帯び、縁紋及び脈は暗褐。體長四分五厘。開張五分五厘。此は本邦稀なる種類なり。

分布——本州。

(42) トガリアナバチ 續千蟲三。一二〇頁 (N. 699) (第三圖 (7) ♀)

學名 *Trachytes samudersi* Sm.

昆蟲學上の地位、腰細蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 120, pl. XI, f. 7, ♀, N. 699 (1911)

體は暗褐。前頭及び額片に金色の短毛を密生す。複眼は暗褐。下唇鬚黃褐、基節少しく暗色を帯ぶ。觸角は黒褐。胸下に黄色の細毛を装ひ、胸背には淡褐の短毛を密生す。腹部は黒く、第二、第三兩節の後縁に銀色の光澤ある一帯あり。翅は黄色、外縁は暗褐。脚は黒褐、脛節の外方に金色の短毛を密生し、脛、跗兩節に赤褐の刺を具ふ。體長七分。開張一寸二分。此は本邦餘り多からざる種類なり。

分布——本州、臺灣、支那、印度。

(43) アカヲビトガリアナバチ 續千蟲三。一二一頁 (N. 700) (第三圖 (8) ♀)

學名 *Iarra amplipennis* Sm.

昆蟲學上の地位、腰細蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 121, pl. XI, f. 8, ♀, N. (1911)

體は黒色、黄色の微毛を粗生す。頭頂は凹陥し、點刻多く、大腿及び上唇は光澤ある褐色。翅底鱗は灰褐、中胸の兩側は著しく膨大す。腹部は紡錘形にして、光澤を帯び、第一、第二及第三節は赤褐、末端は黒色。翅は黒色、半透明、光線の工合によりて少しく紫色を帯ぶ。脚は短大、脛、跗兩節に赤褐の短刺を装ふ。體長六分。開張八分。此は本邦稀れならざる種類なり。

分布——本州、九州。

(44) アカスチツチバチ 續千蟲三。一二一頁 (N. 701) (第三圖 (9) ♀ (10) ♂)

學名 *Scolia fasciata* Sm.

昆蟲學上の地位。土蜂科 (Scolidae)。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 121, pl. XI, f. 9, ♀,

f. 10, ♂, N. 701 (1911)

體は黒色、少しく紫色を帯ぶ。頭大にして、淺き點刻を粗布し、細毛を密生し、複眼間に黄色の一紋を具へ、種類によりその黄紋を缺くものあり。觸角は黒色、短大。腹部は長く、點刻を密布し、黒色の剛毛を粗生し、光澤を帯び、第三節の兩側には橙黄色の二紋を装ふ、尤も此の紋の一帯となるものあり。翅は黄褐、外半は少しく暗色を帯ぶ。脚は黒褐、點刻を密布す。雄は小形、第三腹節紋の微小なるものあり。體長五分——七分五厘。開張九分——一寸五分。此は本邦稀なる種類なれども、北海道には普通なり。花上に捕へ得べし。

分布——北海道、本州、九州。

(附言) 學名の記載 (Trans. Ent. Soc. Louis, p. 185, 1875) に依れば、第二腹節兩側に黄紋ありと記せども、第三節の誤りなるべし。本邦産のものにして第二腹節に黄紋を有するものあるを見ず。Perez 氏の *Discolia signatiformis* は同種なり。

(45) キヲビツチバチ 續千蟲三。一二二頁 (N. 702) (第三圖 (11) ♂)

學名 *Scolia oculata* Mats.

日本千蟲圖解

昆蟲學上の地位、土蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 122, pl. XI, f. 11, ♂, N. 702 (1911)
 前種に酷似す。體黑色、同色の細毛を具へ、點刻を粗布す。胸背は前種に異ならずと雖ども、點刻は大にして、其の數遙に少なし。腹部は黒色にして、少しく紫色を帯び、細毛を密生す。雄にては第三節に太き黄色の二帯を具へ、雌にては兩側に黄色の眼狀紋ありて、其の中央は黒色。翅は暗褐、少しく紫色を帯ぶ。脚に細刺及び大刺多し。體長五分五厘——七分。開長一寸——一寸二分。此は前種と同様に道路上に捕獲し得るも稀なり。
 分布——北海道、本州、臺灣。

(46) **ヨツボシツチバチ** 續千蟲三。一二三頁 (N. 703) (第三圖 (12) (♀))

學名 *Scolia y-pustulata* F.

昆蟲學上の地位、土蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 123, pl. XI, f. 12, ♀, N. 703 (1911)

體黑色。頭には淺き點刻を具へ、光澤あり。胸背には淺き點刻あれども、稍や滑澤なり。腹部に點刻及び黒毛を具へ、第三、第四兩節の兩側に赤褐の二紋を有す。翅は暗褐なれども、光線の工合により美麗の藍色を帯び、稍や不透明なり。脚は短大、粗大の點刻を裝ふ。體長四分——六分。開長一寸——一寸五厘。此は沖繩及び臺灣地方に普通なれども、未だ本邦に發見せられしことなし。

分布——沖繩、臺灣、支那、印度。

(47) **ホツボツチバチ** 續千蟲三。一二四頁 (N. 704) (第三圖 (13) (♀))

學名 *Scolia hopponis* Mats.

昆蟲學上の地位、土蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 124, pl. XI, f. 13, ♀, N. 704 (1911)
 體暗褐。頭頂は、黄色にして、光澤あり。後頭、前胸及び中胸背の前縁に赤褐毛を裝ひ、胸背に少しく點刻あれども、稍や滑澤なり。第二腹節の兩側に黄色の點紋及び第三節の兩側に大なる黄紋ありて、後者は稍や相接續す。翅黄褐、前翅前縁の大部は濃色なり。脚は暗褐、點刻を粗布す。體長七分五厘。開長一寸三分。此は臺灣北埔地方に産すれども稀なり。
 分布——臺灣(北埔)。

(48) **オキナハルリツチバチ** 續千蟲三。一二五頁 (N. 705) (第三圖 (14) (♀))

學名 *Scolia carbonaria* Sauss.

昆蟲學上の地位、土蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 125, pl. XI, f. 14, ♀, N. 705 (1911)

體黑色、點刻を密布し、黒色の細毛を裝ふ。頭は光澤を帯び、各腹節の後縁には黒色の粗毛帯あり。翅は暗褐、半透明、少しく紫藍色を帯ぶ。脚は前種に異ならざるも、距及び刺は黄褐乃至黒褐、但し前肢の距は黄褐にして、鈎狀を呈し、其の末端は扁平なり。體長八分五厘。開長一寸一分。此は沖繩地方に稀ならず。
 分布——沖繩、印度。

(49) **オホモンハラナガツチバチ** 續千蟲三。一二五頁 (N. 706) (第三圖 (15) (♀))

學名 *Elis ocellata* Mats.

昆蟲學上の地位、土蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 125, pl. XI, f. 15, ♀, N. 706 (1911)

體黑色。頭に點刻を具へ、複眼の後縁に沿うて黄色の横紋あり。胸背に黄褐の細毛を裝ひ、點刻多し。前胸背の兩側にある一紋及び稜状部の下方にある一紋は黄色なり。腹部は長大にして、黄褐の細毛を粗生し、第一節の兩側にある小紋、第二節の眼状紋、第三節の後半及び第四、第五節の後縁は黄色。翅は黄褐、脚短大にして、黄色の細毛を具ふ。體長八分九厘。開張一寸三分。此は本邦稀なる種類にして、**モンツチバチ**に酷似すれど、遙かに大なり。

分布——本州。

(50) **ヒメハラナガツチバチ** 續千蟲三。一二六頁 (N. 707) (第三圖 (16) ♀)

學名 *Elis annulata* F.

昆蟲學上の地位、土蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 126, pl. XI, f. 16, ♀, N. 707 (19 J)

體黑色。雄の腹部は藍色を帶ぶ。頭、胸及び腹部の末端に淺き點刻を粗布し、光澤あり。頭には黄毛を粗生し、前頭の兩側に銀白の短毛を簇生す。觸角の基節に點刻を具へ、胸背に黄色の粗毛を裝ふ。腹部は長く、各節の後縁は黄色にして、同色の粗毛を密生す。翅は黄褐、外縁は少しく暗色を帶ぶ。腿、脛兩節に點刻を密布し、黄色の細刺を裝ひ、脛、跗兩節には黑色の刺あり。體長五分——八分。開張九分——一寸二分。此は本邦普通なる種類なれども、未だ北海道に捕獲せしことなし。

分布——本州、九州、臺灣、支那、印度。

(51) **モンハラナガツチバチ** 續千蟲三。一二七頁 (N. 708) (第三圖 (17) ♀)

學名 *Elis japonica* Shin.

昆蟲學上の地位、土蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 127, pl. XI, f. 17, ♀, N. 708 (1911)

體黑色。頭は稍や圓形、點刻を具ふ。胸背に點刻を密生し、前胸の兩側に黄色の一紋を裝ふ。雄にては中胸背に二個の黄紋あり。腹部は淺き點刻を粗布し、黄色の細毛を裝ひ、各節の後縁に黑色の剛毛を密生し、第一節乃至第四節の兩側に大なる黄紋を具へ、其内、第二及び第三節にあるものは眼状紋となることあり。翅は暗褐、半透明。脛跗節に黄褐の刺あり。體長(♂)五分五厘——五分七厘。開張八分八厘——一寸二分。本邦に少なからず。

分布——本州、九州。

(52) **ハラナガツチバチ** 續千蟲三。一二七頁 (N. 709) (第三圖 (18) ♀)

學名 *Elis grossa* F.

昆蟲學上の地位、土蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 127, pl. XI, f. 18, ♀, N. 709 (1911)

體黑色、雄にては黒藍色。頭に點刻を粗布し、前頭に赤褐の粗毛を密生す。腹部は長大、淺き點刻を具へ、光澤を帶び、各節の後縁黄色にして、同色の粗毛を密生す、但し第五、第六兩節の後縁には黑色の粗毛ありて、帶狀をなす。翅は透明、黄褐、外縁の大部は少しく暗色を帶ぶ。腿、脛兩節は太く、黄色の細刺を裝ひ、脛、跗兩節には黒褐の剛刺あり。體長(♂)七分——九分九厘。開張一寸二分——一寸七分。此は本邦に普通なる種類なれども、北海道に産せず。

分布——本州、臺灣、支那、印度。

(53) キスチハラナガツチバチ 續千蟲三。一二八頁 (N. 710) (第三圖 (19) ♀)

學名 *Elis aurulenta* Sm.

昆蟲學上の地位、土蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 128, pl. XL, 19, f. 19, ♀, N. 710 (1911)

體黒褐。頭は球形を呈し、前頭、後頭、前胸、後胸、脚及び各腹部の後縁に黄褐毛あり。觸角の柄節、脚及び各腹部の後縁は黄褐。翅は透明、黄褐。雄は細く、全體黄褐毛を裝ひ、腹部は黒藍色を呈す。體長七分——八分五厘。開張一寸——一寸二分。此は本邦に稀なれども、沖繩地方には普通なり。

分布——九州、沖繩。

(54) クロツチバチ 續千蟲三。一二八頁 (N. 711) (第三圖 (20) ♀)

學名 *Tiphia fuscipennis* Sm.

昆蟲學上の地位、土蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 128, pl. XL, f. 20, ♀, N. 711 (1911)

體黒色。腹部は光澤を帯び、黄白の細毛を裝ふ。大腿は暗褐。後胸背に三條の縦隆あり。翅は透明、淡き暗褐、脈及び縁紋は黒褐、黄白毛多し。脚に黄白毛を密生し、脚刺は赤褐。體長三分五厘——四分。開張六分——七分。此は本邦何れの地方にも普通なり。土中に造巢し、幼蟲は金龜子の幼蟲を捕食す。

分布——北海道、本州。

(55) ルリベツカフ 續千蟲三。一二九頁 (N. 712) (第三圖 (21) ♀)

學名 *Macromeris violacea* F.

昆蟲學上の地位、鼈甲蜂科(Pompilidae)。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 129, pl. XL, f. 21, ♀, N.

712 (1911)

體黒藍色、天鵞絨様の光澤を帯び、點刻あれども判然せず、黒毛多し。兩鬚及び觸角は黒褐。翅は瑠璃色にして、美麗なり。脚は頗る長く、爪二分。體長七分。開張一寸八分。此は臺灣地方に産すれども餘り多からず。

分布——臺灣、支那、印度。

(56) オホモンクロベツカフ 續千蟲三。一二九頁 (N. 713) (第三圖 (22) ♀)

學名 *Pompilus atrocissimus* D. T.

昆蟲學上の地位、鼈甲蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 129, pl. XL, f. 22, ♀, N. 713 (1911)

體黒色、天鵞絨様の光澤を帯び、黒色の微毛を裝ふ。額片の前縁は弓狀に刻らる。後胸背の中央に一縦溝あり。第二腹節は橙黄色、後縁は黒色。翅は黒褐にして、少しく紫色を帯び、半透明、翅底は淡色にして、稍や透明。距は長く、其の内側には櫛齒様の小刺を並列す。體長四分——七分。開張八分——一寸三分。此は本邦に普通なる種類にして、蜘蛛を捕へ來り、土中に埋め、その仔蟲の食となす。

分布——北海道、本州。

(57) カホモンクロベツカフ 續千蟲三。一三〇頁 (N. 714) (第三圖 (23) ♀)

學名 *Pompilus fallaciosus* Mats.

日本千蟲圖解

昆蟲學上の地位。鼈甲蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 130, pl. XI, f. 53, ♂, N. 714 (1911)

前種に酷似すれども、其の異なる所は左の如し。

- 一、體大形なること。體長七分——九分。開張一寸四分——一寸七分。
- 二、複眼の内側に橙黄色の一縦紋ありて、稍や楔状をなし、複眼の後縁に沿うて赤褐紋あり。
- 三、額片の前方は端直にして、弓状に列られず、上唇の前縁及び大腮の基部は赤褐。
- 四、翅は少しく淡色にして、翅底は透明ならず、翅端は暗色、少しく紫色を帯ぶ。
- 五、第三腹節の前縁に黄色の一帯ありて、其の紋の中央は後縁にて少しく列らる。
- 六、距、刺及び爪端は黄褐。

分布——北海道、本州。

(58) ツマキベツカフ 續千蟲三。一三一頁 (N. 715) (第三圖 (24) (♀))

學名 *Pompilus analis* F.

昆蟲學上の地位。鼈甲蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 131, pl. XI, f. 24, ♀, N. 715 (1911)

體黑色、銀色の光澤ある短毛を密生す。胸背の中央に一縦溝あり。第二腹節以下赤褐、第五、第六の兩節には赤褐の粗毛を裝ふ。翅は透明、少しく暗色を帯び、脈及び縁紋黒褐、外半の脈は黄褐。爪の末端は黄褐。體長六分五厘。開張一寸。此は沖繩地方に稀ならず。

分布——沖繩、支那、印度。

(59) キヲビベツカフ 續千蟲三。一三一頁 (N. 716) (第四圖 (1) (♂) 第三圖 (25) (♀))

學名 *Pompilus unifasciatus* Sm.

昆蟲學上の地位。鼈甲蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 131, pl. XI, f. 1, ♂, N. 716 (1911)

雌にては體黒褐。頭、觸角、胸背、翅及び脚は黄褐。前胸背の縦紋、稜状部及び翅底鱗は淡色。第二腹節の前縁に黄褐の一帯あれども、雌にありてはこれを缺く。翅は鼈甲様の光澤を帯び、翅端及び前縁脈は黒褐。基節、轉節及び跗節端は黒褐。尾節は黄褐。雄にありては體遙に小形、觸角の末端、頭頂、中胸及び後胸背は褐色、後者には横皺多く、翅は少しく暗色を帯ぶ。體長五分——八分。開張九分——一寸五分。此は中國地方に普通なる種類にして、花上に多し。

分布——本州、支那、印度。

附言) 之れは、ベツカフバチ *Salix flavus* L. に酷似すれども、脛節の外縁に齒状突起列なきを以て、容易に區別することを得べし。

(60) ヲキナハルリベツカフ 續千蟲三。一三二頁 (N. 718) (第四圖 (2) (♀))

學名 *Pompilus ignobilis* Sauss.

昆蟲學上の地位。鼈甲蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., III, p. 132, pl. XI, f. 2, ♀, N. 718 (1911)

體黒藍色、天鵝絨様の光澤を帯ぶ。觸角の下面には櫛齒様の細毛を密生す。翅は暗色、光線の工合により美麗の瑠璃色を現はす。後肢は頗る長く、距には櫛齒状の小刺列あり。體長五分——六分五厘。開張一寸二分——一

寸四分。これは沖繩地方に普通なり。

分布——沖繩、支那、印度。

(61) ハラグロベツカフ 續千蟲三。一三二頁 (N. 719) (第四圖)(3)(♀)

學名 *Pompilus abdominalis* Mats.

昆蟲學上の地位、鼈甲蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 132, pl. XI, f. 3, ♀, N. 719 (1911)

體は黃褐。腹部黑褐。前胸背の縦線は淡色、中胸背の二縦紋は暗色。翅は鼈甲様の透明にして、外縁少しく暗色を帯ぶ。尾節の末端は黃褐。脚は長く、各跗節の基部は暗褐。體長五分五厘。開張一寸一分。此は八重山地方に産すれども稀なるが如し。

分布——沖繩(八重山)。

(62) ヲキナハベツカフ 續千蟲三。一三三頁 (N. 712) (第四圖)(4)(♂)

學名 *Salix fenestratus* Sm.

昆蟲學上の地位、鼈甲蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 133, pl. XI, f. 4, ♂, N. 712 (1911)

體翅黃褐。顔及び前胸は橙黄色。大腮の末端は黑褐。觸角の末端は少しく暗色を帯ぶ。單眼の兩側に褐色の小紋あり。中後兩胸背の前後縁及び中胸背の兩側は褐色、後胸背に横皺多し。第一及び第二腹部の後縁は廣く暗褐、第三節以下にありては各節の前縁は淡色。前胸背の前縁、中後の兩胸片並に腿節の内側は黑褐。後肢は頗る長く、各跗節の基部並に跗節の末端は暗褐。翅は黃褐、半透明、外縁は少しく暗色を帯び、脈は翅底の半部にありて暗

褐。體長(♂)六分五厘。開張一寸三分。此は沖繩(八重山)地方に産すれども、稀なるが如し。

分布——沖繩(八重山)。

(63) モンベツカフ 續千蟲三。一三四頁 (N. 720) (第四圖)(5)(♀)

學名 *Pompilus bioenlatus* Bingham

昆蟲學上の地位、鼈甲蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 134, pl. XI, f. 5, ♀, N. 720 (1911)

體は黑褐。頭、觸角、前胸背、翅底鱗、中胸背の一紋、稜狀部、翅及び脚は黃褐。頭頂の一紋、觸角の末端、翅の外縁等は暗褐。翅は鼈甲様の透明なれども、少しく暗色を帯び、翅の中央淡色なるを以て紋を有するが如し。基節、轉節、腿節(末端を除く)並に跗節端は暗褐。第二腹部の兩側に黃紋を有するものあり。體長五分八厘。開張一寸一分。此は本邦に稀なる種類なり。

分布——本州、印度。

(64) テラウチベツカフ 續千蟲三。一三五頁 (N. 721) (第四圖)(6)(♀)

學名 *Salix tenaculi* Mats.

昆蟲學上の地位、鼈甲蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 135, pl. XII,

f. 6, ♀, N. 721 (1911)

此はヲキナハベツカフに酷似すれども、其の異なる處は左の如し。
一、體小形なること。(♂)體長五分——五分五厘。開張一寸——一寸一分。

- 二、觸角は太くして短かく、末端暗色を呈せざること。
 - 三、顔長くして稍や圓錐形を呈し、體と同色、大腿の末端少しく暗色を帯び、頭頂に暗色紋を缺く。
 - 四、中胸背兩側の縦條は黒褐。
 - 五、腹基部は黒褐、各節の後縁は淡褐なれども、餘り判然せず。
 - 六、脚は遙に短かし。
 - 七、翅の末端は少しく暗色を帯べども、餘り判明せず。臺灣には稀ならず。
- 分布——臺灣(魚池)。

(65) **キズネベツカフ** 續千蟲三。一三六頁 (N. 772) (第四圖(7)(♀))

學名 *Salix internalis* Mats.

昆蟲學上の地位、鼈甲蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. III, p. 136, pl. XII, f. 7, ♀, N. 722 (1911)

體黑色、天鵞絨様の光澤を帯び、黄褐の頭毛を密生す。觸角は暗褐、第一及び第二節の末端は黄褐、其の内側に黄白の縦紋を装ふ。大腿の末端に近く褐色の部分あり。後胸背は中央に三縦溝を具へ、兩側にあるものは唯だ前縁にて判然す。翅は透明、少しく黄色を帯び、外縁は廣く暗色、脈及び縁紋は暗褐。第一及び第二腹節の基部に各二個の黄白紋ありて、第二節にあるものは微小なるを以て餘り判然せず。脚は黒褐、脛節及び跗節は暗褐、但し前肢の脛節及び脛節の内側は黄褐。體長六分。開張一寸二分。こは本邦稀なるが如し。

分布——本州。

(66) **ムツボシベツカフ** 續千蟲三。一三七頁 (N. 723) (第四圖(8)(♀))

學名 *Pompilus propinquus* Sm.

昆蟲學上の地位、鼈甲蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. III, p. 137, pl. XII, f. 8, ♀, N. 723 (1911)

體は黑色、黑色の細毛多し。大腿の中央は赤褐にして、光澤あり。翅は半透明、淡き暗色を帯び、外縁は暗色、脈は灰黄、但し前縁、前縁脈及び中脈は黒色。第一、第二及び第三腹節の兩側に各一個の橙黄紋ありて、其の内、第二節にあるものは最も大なり。脚は黒色、後脛節の外半(末端を除き)は橙黄色。體長四分。開張六分八厘。此は本邦餘り多からざる種類なり。

分布——本州(青森)。

(67) **オホシロフベツカフ** 續千蟲三。一三八頁 (N. 724) (第四圖(9)(♀))

學名 *Pompilus arrogans* Sm.

昆蟲學上の地位、鼈甲蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. III, p. 138, pl. XII, f. 9, ♀, N. 724 (1911)

體黑色、複眼の内側にある細長の一紋、前胸背の後縁(中央を除き)、第二及び第三腹節の基部にある各二紋は黄白。翅透明、少しく暗色を帯び、外縁は暗色。脚及び縁紋は暗褐。後肢内側の脚刺は其の基部にて櫛齒状の小刺を簇生す。體長四分三厘。開張八分。此は本邦にあまり多からず。

分布——北海道、本州、九州。

(68) アカボシベツカフ 續千蟲三。一三八頁 (N. 725) (第四圖 (10) ♀)

學名 *Pompilus reflexus* Sm.

昆蟲學上の地位、鼈甲蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 138, pl. XII, f. 10, ♀, N. 725 (1911)

體黒褐。頭は圓形に膨大す。翅は透明、少しく暗色を帯び、外縁は淡き暗色。縁紋、前縁、前縁脈及び中脈は黒褐。第一及び第二腹節は大部赤褐、但し第一節にありては前縁にて、第二節にありては後縁にて黒褐色を帯ぶ。後脚刺の基部に櫛齒狀の小刺を簇生す。體長三分五厘。開張五分三厘。此は本邦に餘り多からず。

分布——北海道、本州、臺灣。

(69) ベツカフバチ (鼈甲蜂) 續千蟲三。一三九頁 (N. 726) (第四圖 (11) ♀)

學名 *Salix flavus* F.

昆蟲學上の地位、鼈甲蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 139, pl. XII, f. 11, N. 726 (1911)

體は黒褐、金色の短毛を密生す。頭、觸角、兩鬚、大腮の基部、前中の兩胸背、脚及び翅は橙黄色。後者は殊に鼈甲様の光澤を帯び、光線の工合によりて紫光を放ち、外縁は暗色、基部は黒褐。轉節に齒狀突起を並列す。花上に多し。體長七分——八分五厘。開長一寸三分——一寸五分。此は中國地方に稀ならず。

分布——本州、九州、沖繩、臺灣、支那、印度。

(70) クロバベツカフ 續千蟲三。一三九頁 (N. 727) (第四圖 (12) ♀)

學名 *Salix sinensis* Sm.

昆蟲學上の地位、鼈甲蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 139, pl. XII, f. 12, N. 727 (1911)

體は黒褐、金色の微毛を密生す。頭、大腮の基部、前、中の兩胸背、翅底鱗、腹部(第一節を除き)及び脚は黄褐。觸角附着部の前方は少しく暗色を帯ぶ。翅は黒藍色にして、半透明。後胸背に横皺多し。第一腹節及び脚の基節並に轉節は黒褐、脛節の上面には齒狀突起を排列す。體長五分——五分五厘。開張九分——一寸。此は臺灣地方に稀ならず。

分布——沖繩、臺灣、支那、印度。

(71) クロベツカフ 續千蟲三。一四〇頁 (N. 728) (第四圖 (13) ♀)

學名 *Salix irritabilis* Sm.

昆蟲學上の地位、鼈甲蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 140, pl. XII, f. 13, ♀, N. 728 (1911)

體黒色、暗褐の細毛多し。大腮及び腹部は頗る光澤を帯ぶ。第一及び第二腹節の後縁に少しく赤褐を帯ぶるものあり。翅は透明、少しく暗色を帯び、外縁に近く廣き判然せざる暗色帯を具へ、外縁暗色、脈は黄褐、縁紋、前縁、前縁脈及び中脈は黒褐。後脛節の上面に齒狀突起を排列す。體長四分——六分。開張六分——九分。此は札幌地方に普通なり。

分布——北海道、本州。

(72) タイワンアリバチ 續千蟲三。一四〇頁 (N. 729) (第四圖 (14) ♀)

學名 *Mutilla formosana* Mats.

昆蟲學上の地位、蟻蜂科 (*Mutillidae*)。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 140, pl. XII, f. 14, ♀, N. 729 (1911)

體黑色、粗大の點刻多く、黒毛及び黄毛多し。胸部赤褐、大腿の中央は褐色、頸は暗色を帯ぶ。第二腹節の中央にある二圓紋、第三及び第四節の前縁の二紋は灰白、但し第三節にあるものは横帯となることあり。第三腹節の下面に黄褐帯を有す。脚に黄色の細毛を具へ、跗節に黄褐の剛毛あり。雄は黒色、腹節は尾端の二節を除き赤褐。翅は半透明、黒藍色を帯び、前胸は灰白。體長三分五厘——六分。開張五分——八分。此は臺灣に普通なり。分布——臺灣。

(73) オホセイボウ 續千蟲三。一四一頁 (N. 730) (第四圖 (15) ♀)

學名 *Stilbna cyanurum* Först. subsp. *amethystinum* F.

昆蟲學上の地位、青蜂科 (*Myrusidae*)。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 141, pl. XII, f. 15, ♀, N. 730 (1911)

體青藍色、光線の工合によりて紫色を帯ぶ。頭小。觸角の末端は黒褐。中胸背に四縱溝ありて、兩側にあるものは短かし。稜狀部には網目様の點刻ありて、其の後方に深き凹陥を有す。腹部に粗大の點刻を具へ、尾端には四齒あり。翅は透明、少しく暗色を帯ぶ。脚及び體下は青綠色、灰黄の微毛を裝ふ。體長四分八厘。開張七分。此は本邦に餘り多からず。花蜂の巢に寄生す。

分布——本州、九州、沖繩、臺灣、印度、支那。

(74) オホアリ 續千蟲三。一四二頁 (N. 731) (第四圖 (16) ♀)

學名 *Camponotus ligniperdas* L.

昆蟲學上の地位、蟻科 (*Formicidae*)。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 142, pl. XII, f. 16, N. 731 (1911)

體は光澤ある黒色。觸角柄節は黒褐、柄節の基部。中胸背の兩側、胸側、後胸、腹柄、第一腹節の前半並に後腿節の内側は赤褐。各腹節の後縁は黄褐にして、黄色の粗毛あり。職蟻にては胸部側扁にして、赤褐なり。雄は全部暗黒。翅は半透明にして、灰黄色。體長三分五厘。開張六分五厘——一寸二分。此は本邦何れの地方にも普通なり。

分布——北海道、本州、四國、九州、朝鮮、支那、歐洲。

(75) トゲアリ 續千蟲三。一四二頁 (N. 732) (第四圖 (17) ♀)

學名 *Polyrhachis lanellidens* Sm.

昆蟲學上の地位、蟻科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 142, pl. XII, f. 17, ♀, N. 732 (1911)

職蟻の體は光澤ある黒色。觸角の基部、胸部の鈎狀突起並に腹柄は赤褐。腹部は稍や球形を呈し、各節の後縁は細く黄褐。脚は黒色、各節の末端及び爪は赤褐。此は本邦にあまり多からず。職蟻體長七分七厘。

分布——本州、四國、臺灣、支那。

(76) ハヒロトゲアリ 續千蟲三。一四三頁 (N. 733) (第四圖 (18) ♀)

學名 *Polylachis tyrannicus* Sm.

昆蟲學上の地位、蟻科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 143, pl. XII, f. 18, ♀, N. 733 (1911)

職蟻の體は黒色、絹様の白毛を密生す。觸角は體と稍や同長、柄節の兩端及び鞭節末端は赤褐。觸角間に二縱隆あり。胸部の兩側は龍骨狀に突出し、各節の前縁に鋭齒を具へ、其の内、前胸にあるものは長し。尙は後胸の中央にも同様の鋭齒あり。腹柄節の後縁に四齒ありて、中央の二齒は長く、稍や直立す。腹部は球形にして、黄白毛を密生す。脚は黒褐、脛節の大部赤褐。雄は職蟻に酷似すれども、黒色にして、絹絲様の光澤少なく、胸部の兩側に一鋭齒を裝ふ。尾端の數節に絹絲様の短毛を密生す。翅は透明にして、少しく暗色を帯び、脈の兩側(細く)及び縁紋は黒褐。雌は雄に酷似すれども、腹部大にして、全部絹絲様の細毛を密生す。體長二分七厘——三分。此は臺灣地方に普通なり。

分布——臺灣、支那、印度。

(77) アカアリ 續千蟲三。一四三頁 (N. 734) (第四圖 (19) (♀))

學名 *Formica rufa* L.

昆蟲學上の地位、蟻科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 143, pl. XII, f. 19, ♀, N. 734 (1911)

職蟻の體は赤褐。大腮、觸角及び脚は濃色。腹部は暗褐、腹柄及び第二腹節の兩側は赤褐、各腹節の後縁は細く黄褐、腹柄上の突起は稍や圓形。雌にありては額片、頭頂、前胸背の後縁及び中胸背の全部は黒褐。腹部は光澤を帯び、各節の後縁並に尾節赤褐、腹柄上の突起は末端の中央にて少しく凹陥す。翅は透明にして、少しく黄色を帯ぶ。體長二分五厘——三分。此は本邦何れの地方にも普通なり。

分布——北海道、本州、歐洲。

(78) クロクマアリ 續千蟲三。一四四頁 (N. 735) (第四圖 (20) (♀))

學名 *Lasius fuscus* L.

昆蟲學上の地位、蟻科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 144, pl. XII, f. 20, ♀, N. 735 (1911)

職蟻は光澤ある黒色。頭は大にして、凹陥す。大腮の下面は赤褐。觸角及び脚は暗褐。脛節及び跗節の兩節は黄褐。腹柄節の突起は稍や卵形にして、其の兩側は赤褐、各腹節の後縁狭く淡黄褐。雌にありては觸角及び脚は赤褐。雄にありては脛節及び脛節黒褐。翅は透明にして、翅底少しく褐色を帯ぶ。體長一分五厘——二分。此は普通樹幹に造巢するものなれども亦地中に巢を營むことあり。

分布——北海道、本州、歐洲。

(79) ミツバチ (蜜蜂) 續千蟲三。一四四頁 (N. 736) (第四圖 (21) (♀))

學名 *Apis indica* F. subspp. japonica Hanks.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科 (Apidae)。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 144, pl. XII, f. ♀, 21, N. 736 (1911)

職蜂は體暗褐。頭胸に灰黄の細毛を密生す。觸角基部、小腮、上唇鬚、稜狀部、第一腹節の前縁、各腹節の後縁及び腹面は黄褐。翅は透明、少しく黄色を帯び、脈は灰黄、前縁、前縁脈及び中脈の一部は黒褐。脚は光澤ある黒褐、脛節外縁の中央は赤褐、内側は黄褐。雌にありては腹部圓錐形にして、長し。觸角の柄節、翅底鱗及び脚は黄褐なり。體長四分——六分。開張六分——八分。本邦何れの地方にも普通なれども、その野生を見ず。

分布——北海道、本州、四國、九州。

(80) キイロマルハナバチ 續千蟲三。一四五頁 (N. 737) (第四圖) (♀)

學名 *Bombus tersatus* Sm.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 145, pl. XII, f. 22, ♀, N. 737 (1911)

體は暗褐、黄褐の長毛を密生す。顔長く、複眼下は滑澤、額片に少しく點刻を粗布す。觸角間に黄色及び黑色の長毛あり。胸側は淡色。翅は透明、少しく黄褐を帯び、外縁は暗色、脈は暗褐。腹部の長毛は胸背にあるものより少しく淡色。各腹節の後縁に判然せざる暗色の一帯あり、尾節は暗色。脚は黒褐、後脛節の外側は光澤ある赤褐、跗節は黄褐。體長五分——九分。開張九分——一寸五分。此は札幌地方に普通なり。

分布——樺太、北海道、本州、朝鮮。

81) トラマルハナバチ 續千蟲三。一四六頁 (N. 738) (第四圖) (♀)

學名 *Bombus diversus* Sm.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 146, pl. XII, f. 23, ♀, N. 738 (1911)

體は黑色、額には長黒毛を密生す。頭頂、胸部及び腹部に橙黄色の長毛を密生す。後胸に毛を缺く。第二及び第三腹節に長黒毛を裝ひ、第四及び第五節に灰黄色を簇生す。他は前種に酷似す。體長四分——七分。開張七分——一寸四分。此は札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道、本州。

(82) ウスイロマルハナバチ 續千蟲三。一四六頁 (N. 739) (第四圖) (♀)

學名 *Bombus equestris* F.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 146, pl. XII, f. N. 24, ♀, N. 739 (1911)

體黑色、淡綠黄の長毛を密生す。顔は長く、前頭及び頸には黄白毛を密生し、頭頂には黒毛を混す。中胸背の中央には黒毛多し。各腹節の前縁は稍や裸にして、少しく之れに黒褐毛を裝ひ、第二節の前縁に灰白毛の一帯を具へ、各節の後縁には黄白毛の一帯あり。腹面は黑色、少しく黄白毛を裝ふ。翅半透明、中央は淡色にして、稍や透明、前縁及び脈は黒褐。跗節に黄褐の短毛を裝ひ、爪の基部は黄褐。體長四分五厘——七分。開張八分——一寸二分。此は札幌地方に普通なり。

分布——北海道、本州。

(82) オホマルハナバチ 續千蟲三。一四七頁 (N. 740) (第四圖) (♀)

學名 *Bombus sapporensis* Kohw.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. III, p. 147, pl. XII, f. 25, ♀, N. 740 (1911)

體は黑色。頭、胸、第一及び第三腹節並に腹面の長毛は黑色。額片に黄褐毛あり。頸(前胸)は黄白、第二腹節に黄毛帯を具へ、第四腹節以下は黄褐毛を密生す。翅は半透明、少しく灰黄を帯び、外縁は淡き暗色、中央は透明、脈は黄褐、前縁及び中脈は黒褐。脚は黒褐色、跗節に黄褐毛を裝ひ、第三節以下は暗褐。體長四分——八分五厘。開張七分——一寸五分。此は札幌地方に普通なり。

分布——樺太、北海道。

(84) マルハナバチ 續千蟲四。一頁 (N. 741) 第五圖 (1) ♀

學名 *Bombus speciosus* Sm.

昆蟲學の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 1, pl. XIII, f. 1, ♀, N. 741 (1911)

頭には黒毛を密生し、頭には點刻を粗布す。後頭には黄毛あり。胸背には黄毛を密生し、翅根の兩間に黒色の毛帯を装ふ。第一腹節には黄毛あれども、少なく、第二腹節に黄毛を密生し、其の前半は少しく褐色を帯び、第三及び第四節は黒色、第五、第六及び第七の三節は赤褐。腹面には灰白の長毛を密生す。翅は暗灰色を帯び、中央少しく透明、脈は黒褐。脚は黒色、跗節は黄褐。體長五分——六分。此は札幌地方に稀ならず。

分布——北海道、本州。

(85) クロマルハナバチ 續千蟲四。一頁 (N. 742) 第五圖 (2) ♀

學名 *Bombus ignitus* Sm.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 1, pl. XIII, f. 2, ♀, N. 742 (1912)

全體黒色の長毛を密生す。但し第四、第五、及び第六節は光澤ある黄褐の長毛を密生す。大腿の末端には褐色の短毛を密生せり。翅は暗灰白、中央は少しく淡色にして、稍や透明、翅脈は褐色、前縁脈は黒褐。脛節及び跗節は褐色。體長五分——七分。此は東京地方に普通なる種類なれども、北海道に産するものあるを見ず。

分布——本州、四國、九州。

(86) コマルハナバチ 續千蟲四。二頁 (N. 743) 第五圖 (3) ♀

學名 *Bombus ardens* Sm.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 2, pl. XIII, f. 3, ♀, N. 743 (1912)

全體黄色の長毛を密生す。額長く、大腿の末端は黄褐。前胸背の中央にある長毛は少しく褐色を帯び、各腹節の中央にある毛は少しく暗色を帯ぶ。尾端は橙黄色。體下には灰黄の長毛を粗生す。翅は透明、少しく黄色を帯び、翅端稍や暗色を呈し、脈は褐色。脚は黒褐、跗節は褐色、爪端は黒色。體長(♀)五分。此は札幌地方に稀ならず。

分布——北海道、本州。

(87) ヨシダマルハナバチ 續千蟲四。二頁 (N. 744) 第五圖 (4) ♀

學名 *Bombus yoshitae* Mats.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 2, pl. XIII, f. 4, ♀, N. 744 (1912)

全體黒色の長毛を密生す。額片に毛を缺き、滑澤にして、點刻を粗布す。口部に黄褐の短毛を密生す。前胸背には少しく灰色毛を混じ、第二腹節前三分の二に黄色の長毛帯あり。第五、第六及び第七腹節には黄褐の長毛を密生す。翅は暗灰色、中央は稍や透明にして、暗黄色を帯び、脈は褐色、前縁は黒褐。脚は黒褐、脛節及び跗節は黄褐。體長(♀)七分五厘。此は頗るクロマルハナバチ(85)に酷似すれども、第二腹節に黄毛帯あるを以て容易に區別することを得べし。此は吉田貞次氏の採集に係るものなり。稀なるが如し。

分布——本州(米澤)。

(88) **タイワンマルハナバチ** 續千蟲四。三頁 (N. 745) (第五圖 (5) (♀))

學名 *Promlus bicoloratus* Sm.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 3, pl. XIII, f. 5, ♀, N. 745 (1912)

全體天鵞絨様の光澤ある黒褐毛を密生す。額片は滑澤にして、少しく點刻を具へ、口部に金色の短毛を裝ふ。第三腹節以下に金色の光澤ある赤褐長毛を密生す。翅は稍や透明、少しく黄褐を帯び、脈は黄褐、前縁の基半部は黒褐。脚は褐色、腿節及び脛節に金色の光澤ある赤褐毛を密生す。體長七分——一寸。此は臺灣の高山に普通なり。

分布——臺灣。

(89) **トガリハナバチ** 續千蟲四。四頁 (N. 746) (第五圖 (6) (♀))

學名 *Coelioxys fenestrata* Sm.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 4, pl. XIII, f. 6, ♀, N. 746 (1912)

體は黒色、光線の工合にて少しく紫色を現はす。額は黄褐の短毛を密生す。頭頂は暗褐。胸部は稍や球形にして、粗大の點を密布し、後胸の後縁は截斷狀に終はり、其の兩側に黄色短毛を密生す。翅は黒藍色、翅底の三分の一は透明にして、少しく黄色を帯ぶ。雌の腹部は圓錐形にして、尾端尖り、上方に突出し、第一、第二、第三及び第四腹節の後縁は細く白色。腹面も腹背と同様に白線を横走す。胸片には黄褐の短毛を密生す。脚黒色、脛節及び跗節に黄褐の短毛を密生せり。體長六分——八分。此は本州に産すれども、餘り多からず。

分布——本州。

(90) **ヤノトガリハナバチ** 續千蟲四。五頁 (N. 747) (第五圖 (7) (♀))

學名 *Coelioxys yanonis* Mats.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 5, pl. XIII, f. 7, ♀, N. 747 (1912)

體は黒色。頭に黄褐の短毛を密生し、頭頂及び額片には黒褐の短毛を密生す。胸部は稍や球形を呈し、粗大の點刻を密布す。稜狀部の兩側に鈎狀の一突起あり。中胸側及び從胸背の後縁に黄色の短毛を密生す。翅は透明、翅端の半部は少しく暗色を帯び、脈は褐色なり。腹部は圓錐形を呈し、初めの五節の後縁は細く黄色、尾節は前二節と同長にして、尖り、少しく下向す。中胸片の中央に黄毛の短毛を密生す。脚は黒褐、距及び爪は黄褐。體長三分五厘——四分五厘。これは始めて矢野宗幹氏の九州城野にて採集せるものなり。

分布——本州、九州。

(91) **ハラアカハナバチ** 續千蟲四。六頁 (N. 748) (第五圖 (8) (♀))

學名 *Parevaspis basalis* Rits.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 6, pl. XIII, f. 8, ♀, N. 748 (1912)

體は黒色。頭には粗大の點刻を密布し、額の兩側に灰白の長毛を粗生し、口部には金色の黄褐毛を裝ふ。胸部にある點刻は頭部にあるものよりも小にして、其の數多く、兩側にあるものは粗にして、且つ大なり。稜狀部にあるものは大にして、稍や網目狀をなす。翅は暗色、少しく紫色を帯び、翅底の三分の一は透明にして、少しく

暗黄を帯ぶ。腹部は黄褐にして、光澤を有し、第一腹節の前三分の二は黒色、點刻を粗布すれども、各節の後縁は細く滑澤にして、點刻を缺き、各節は稍や同幅にして、下方に弓曲す。胸片には光澤ある灰白の短毛を密生す。脚は黒色、距及び爪は黄褐、但し爪の末端は黒色、脛節には黄褐の短毛を密生す。體長五分。此は餘り多からず。花上に捕獲し得べし。

分布——本州、九州。

(92) **ネジロハキリバチ** 續千蟲四。六頁 (N. 749) (第五圖) (♀)

學名 *Megachile thoracica* Sm.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 6, pl. XIII, f. 9, ♀, N. 749 (1912)

體は黒色。頭には小點刻を密布す。額片の前縁には二小齒あり。大脛は縦溝を具へ、點刻少なし。胸部の點刻は頭部にあるものよりも小にして、其の數は多し。後胸には絹様の長白毛を密生す。翅は暗色にして、紫色を帯び、翅底の半部は透明、少しく暗黄を帯ぶ。腹部は光澤を有し、第一節の後縁及び第二節の前縁に白色の短毛を密生し、第三節後縁の兩側にも白毛塊を裝ひ、大形の點刻を粗布し、各節の中央にある弓狀の横溝は深くして、判然す。腹面に灰黄毛を密生す。脚は黒色、灰色毛多く、爪は黄褐、末端は黒褐。體長五分内外。此は臺灣地方に稀ならず。

分布——臺灣、支那、馬來、印度。

(93) **オホハキリバチ** 續千蟲四。七頁 (N. 750) (第五圖) (♀)

學名 *Megachile döderleini* Fries.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 7, pl. XIII, f. 10, ♀, N. 750 (1912)

體は黒色。頭には點刻を密布す。額片の兩側は凹陥し、前縁に多數の小齒を列ぬ。大脛は大にして、末端は三角形に膨大し、尖端に二齒を具へ、點刻は長くして、其の數少なく、その外側に一縦溝を裝ふ。胸部は黄褐の短毛を密生し、後胸にあるものは長くして、少しく淡色なり。翅は暗色、少しく紫色を帯び、翅底の半部は透明、少しく暗黄を帯ぶ。腹部は稍や楕圓形にして、第一節の兩側に黄褐毛を裝ひ、粗大の點刻を粗布し、各節の前縁にあるものは大、後半にあるものは小、第二節及び第三節兩側の後縁に白毛を列ね、腹面に黒毛を密布すれども、第二節にあるものは黄褐なり。脚は黒色、距及び爪は黄褐、爪の末端は黒褐、脛節及び脛節に黄褐毛多し。體長七分。此は本邦最大のハキリバチにして、東京地方に稀ならず。薔薇其他、果樹葉を圓形に切り、幼蟲の食物及び造巢に供す。其の害餘り大ならず。

分布——本州、四國、九州。

(94) **ヒロウドハキリバチ** 續千蟲四。八頁 (N. 751) (第五圖) (♀)

學名 *Lithurgus collaris* Sm.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 8, pl. XIII, f. 11, ♀, N. 751 (1912)

體は黒色。頭は小點刻を密布し、顔の中央に天鵝絨様の黒毛を密生し、額片の兩側に黄褐の長毛を裝ふ。大脛は三角形にして、三齒を具へ、細き隆起を縦走し、其内、大脛背部にあるものは最大。頬の近邊にも黄褐の長毛あり。胸部に頭部と同様の點刻を密布す。胸側には暗灰色の長毛を密生す。翅は透明、末端は少しく暗色を帯び、

脈は褐色。腹部は稍や光澤を帯び、第四及び第五腹節の後縁に暗灰色の短毛を列ね、尙、第二及び第三腹節の兩側にも同様の房状毛を具へ、腹面には黄褐の長毛を密生し、此は光線の工合により金色の光澤を現はす。胸面には暗灰色の長毛あり。脚は黒色、脛節及び跗節に黄褐毛を裝ひ、距及び爪は黄色、末端は暗色なり。體長(♀)五分。此は越後地方に産すれども稀なり。

分布——本州。

(95) アカツノハキリバチ 續千蟲四。八頁 (N. 752) (第五圖) (♀)

學名 *Osmia rufa* L.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 8, pl. XLII, f. 12, ♀, N. 752 (1912)

體は黒褐、少しく青銅色の光澤を帯ぶ。頭は微小の點刻を密布す。觸角の基部に黄褐の長毛塊を裝ふ。額片滑澤、光澤を有し、兩側に角状突起ありて、其の末端三角形をなす。大腿に二縱隆ありて、判然す。胸部に頭同様の點刻を密布し、中縱隆起を備へ、側部に黄褐長毛あり。翅透明、少しく灰色を帯び、脈暗褐。腹部に胸部同様の點刻を具へ、第二、第三及び第四節の後縁に黄褐毛を粗生し、第五及び第六節の全部及び各腹節の兩側に黄褐の長毛を裝ふ。腹面にも同様の長毛あり。脚は暗褐、光澤ある黄褐毛を裝ひ、跗節の大部、距及び爪は黄褐、但し爪の末端は少しく暗色を帯ぶ。體長三分五厘——四分五厘。此は本邦何れの地方に至るも稀ならず。薪木の堆積せる處に多し。

分布——北海道、本州、九州、西比利亞、歐洲。

(96) シロホシハナバチ 續千蟲四。九頁 (N. 753) (第五圖) (♂)

學名 *Crociza histrio* F.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 9, pl. XLII, f. 13, ♀, N. 753 (1912)

體黒色、斑紋は總て青白色。頭頂圓く、黒色を呈し、點刻を密布し、殘部青色毛を密生す。上唇直角をなして下向し、此の部分黒褐、觸角暗褐、柄節黒色。胸部は點刻を粗布し、黒毛を粗生し、前縁には三個、中央には五個、稜状部の基部に青白の二毛紋ありて、何れも横列す。但し翅底鱗の内方にある一紋は長し。稜状部の後縁は三角形に刻らる。翅は暗色、縁紋の内方は少しく透明、脈は黒色、後翅は稍や透明にして、末端は少しく暗色を帯ぶ。腹部は光澤ある銅鐵様の青色を帯び、各節の兩側に青白の一毛紋を具へ、第一節にあるものは横帯をなす。尙胸側の一紋、胸面の一紋及び各脛節の一紋も青白なり。雄は雌に比し體細小。體長三分——四分。これは九州、琉球及び臺灣に普通なり。

分布——九州、琉球、臺灣、支那、馬來、印度。

(97) シロスチハナバチ 續千蟲四。一〇頁 (N. 754) (第五圖) (♂)

學名 *Anthophora florea* Sm.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 10, pl. XLII, f. 14, ♀, N. 754 (1912)

體は黒色。後頭に黄褐毛を密生す。額片の後縁にある一横條、兩側にある一斜條、中央の一縱條及び前縁は黄白。上唇は黄白、基部は黒褐、黒毛を粗生す。口吻黄褐にして、長く、基部は少しく暗色を帯ぶ。胸部は黄褐毛を密生す。翅底鱗は黄褐。翅は半透明、少しく暗色を帯び、脈は黒褐。第一及び第二腹節は暗褐、其の後縁は灰黄、殘部の腹節は黒色、第三及び第四節の後縁は灰白。體下は光澤ある栗色。脚は黒色、黄褐毛を密生し、其の

中後脛節の外側にあるものは長く、距は黒色、跗節は黒褐、爪の基部は黄褐。體長五分五厘。これは京都地方に稀ならず。

分布——本州、九州、支那。

(98) アヲスヂハナバチ 續千蟲四。一〇頁 (N. 755) (第五圖) (♀)

學名 *Anthophora zouata* L.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 10, pl. XIII, f. 15, ♀, N. 755 (1912)

體は黒色。額片は黄白、二個の大黒紋あり。上唇は黄白、褐毛を粗生し、前後の兩縁は黒色、大腮の基部は黄白、口吻は黄褐、後頭及び胸部に黄褐毛を密生す。翅底鱗は黄褐。翅は半透明、少しく暗色を帯び、脈は黒褐。第一腹部の基部に黄褐毛を粗生し、各節の後縁は金屬性の光澤ある青色にして、後節に至るに従ひ其の幅を増す。脚は黒色、脛節及び第一跗節に光澤ある灰白毛を密生す。但し前肢の脛節にあるものは少しく黄色を帯び、爪の基部は褐色。體長四分。此は琉球地方に稀ならず。前種に酷似すれども、腹部に青色帯を有するを以て、容易に區別することを得べし。

分布——沖繩、臺灣。

(99) ヒゲナガハナバチ 續千蟲四。一一頁 (N. 756) (第五圖) (16) (♀)

學名 *Eucera difficilis* Perz.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 11, pl. XIII, f. 16, ♀, N. 756 (1912)

體は黒色、額片及び上唇は黄色、黄白毛を密生し、頭頂には黄褐毛を粗生す。觸角は體より長く、半以上の各節少しく弓曲す。胸部に黄褐毛を密生し、天鵞絨様の光澤を帯ぶ。頭下、胸側及び胸下に灰白毛を密生す。翅底鱗は黄褐。翅は透明、外縁の三分の一は少しく暗色を帯び、脈は黄褐、前縁脈及び中脈は黒褐。各腹節の後縁は灰色、但し第四及び第五節の後縁灰白、第六及び尾節には黄毛を装ふ。脚は黒色、黄白毛を具へ、距、跗節の末端及び爪は黄褐、爪の末端は暗褐。體長五分。此は札幌地方に普通なり。

分布——北海道、本州、歐洲。

(100) クマバチ 續千蟲四。一二頁 (N. 757) (第五圖) (17) (♀)

學名 *Xylocopa circumvolans* Sm.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 12, pl. XIII, f. 17, ♀, N. 757 (1912)

體は黒色。後頭及び頭頂には大形の點刻を粗布し、前頭には小形の點刻を密布し、後頭縁の中央に黄毛を簇生す。胸部に黄毛を密生し、其の中央に滑澤の部分あり。翅底鱗及び翅は黒藍色にして、後者は不透明。腹部に大形の點刻を粗布し、之れより各一本の短毛を生ず。第四節以下には點刻多く、第五及び第六節には長黒毛を密生す。胸下、腹面及び脚に黒毛多し。脚は黒色、跗節の末端及び爪の基部は黄褐。體長七分。此は東京地方に普通なり。時々軒下に巢を造り、築柱に穿孔し、大害を加ふることあり。五月頃、藤の花に多し。北海道に産せず。

分布——本州、四國、九州。

(101) タイワンクマバチ 續千蟲四。一二頁 (N. 758) (第五圖) (18) (♀)

學名 *Xylocopa auripennis* Farg.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thous, Ins. Jap. Suppl. IV, p. 12, pl. XLII, f. 18, ♀, N. 758 (1912)

體黑色。頭に粗大の點刻を密布す。口吻は黒色、其の周圍は赤褐、大腿の基部に近く赤褐の部分あり。胸背の中央は滑澤にして、其の周圍には點刻を密布し、兩側及び後縁に黒毛多し。翅底鱗は黒色。翅は不透明にして、黒藍色、翅底の半部は金色の光澤ある紺色。胸下には黒毛を密生す。腹面には點刻多し。脚に長黒毛を密生し、跗節及び爪は暗褐、爪の基部は黄褐。體長八分。此は臺灣地方に普通なり。

分布——臺灣、支那、馬來、印度。

(102) ヲガサハラクマバチ 續千蟲四。一三頁 (N. 759) (第五圖 (19) (♀))

學名 *Xylocopa ogasawarensis* Mats.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thous, Ins. Jap. Suppl. IV, p. 13, pl. XLII, f. 19, ♀, N. 759 (1912)

體光澤ある黒褐。前頭にある點刻は多く、後頭には少なく、頬には更に一層少なし。上唇の中央に一突起を裝ひ、其の兩側には赤褐の總狀毛あり。尙、後頭の後縁に暗褐の長毛を密生す。大腿には二縱溝ありて、内方にあるものは太く、之れに點刻を裝ふ。口吻は黒褐、末端は少しく淡色。胸背の中央は滑澤、其の周圍に點刻及び暗褐毛多し。翅底鱗は黒褐、其の周縁は赤褐。翅は黒褐にして、少しく藍色を帯び、半透明。腹部は胸部より遙かに廣く、第一、第二及び第三節に點刻少しと雖も、第六及び第七節には多く、黒褐毛を粗生し、兩側及び腹面には光澤ある赤褐毛を密生す。尾節後縁の中央に一縱溝を裝ふ。脚殊に脛節及び第一跗節には赤褐の長毛を密生す。體長九分五厘。此は小笠原島に産すれども、其の數多からず。

分布——小笠原島(父島)。

(103) オホアヲスチハナバチ 續千蟲四。一四頁 (N. 760) (第五圖 (20) (♀))

學名 *Nomia chalybeata* Sm.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thous, Ins. Jap. Suppl. IV, p. 14, pl. XLII, f. 20, ♀, N. 760 (1912)

體は黒色。顔には黄褐の短毛を密生し、中央に低き一縱隆を具へ、頭頂には小點刻を粗布す。胸部には點刻を密布し、周圍には暗褐毛を密生す。翅底鱗は黄褐、基部は暗褐。翅は透明にして、少しく暗黄を帯び、末端は少しく暗色、脈は黄褐、前縁は黒褐。腹部に點刻多く、第二節以下各腹節の後縁は青色にして、點刻を缺く。脚は黒色、脛節及び跗節には黄褐毛多く、第一跗節の外側には灰白毛を裝ひ、距及び爪は黄褐、但し爪の末端は黒褐。體長四分五厘。此は臺灣及び琉球地方に稀ならず。

分布——琉球、臺灣、支那、印度。

(104) マツオホキバチ 續千蟲四。一五頁 (N. 761) (第五圖 (21) (♀))

學名 *Strex matsumurae* Rohw.

昆蟲學上の地位、樹蜂科(Stictidae)。Thous, Ins. Jap. Suppl. IV, p. 15, pl. XLII, f. 21, ♀, N. 761 (1912)

雌にては體上黄色、體下黒色、黄褐毛多し。頭に粗大の點刻を密布し、後頭に三縱溝を裝ひ、單眼の部分少しく暗色を帯ぶ。觸角は黄色、末端少しく暗色を帯ぶ。大腿の末端は黒色。中胸背は黒色、中央に暗黄の二弓狀紋を縦走し、後胸背は黒褐、基部の兩側に一黄紋あり。翅は透明、少しく黄褐を帯び、脈は黄褐。腹部の中央は黒

褐。第八及び第九節の後縁は黒褐。脚は黄色、基節及び腿節は黒褐。雄にては腹部暗黄、各節の後縁暗色、尙ほ腹背に同色の縦條ありて、之れは第六節に達す。脚は扁平にして、黒色。體長七分——一寸。尾角二分。産卵管九分。此は札幌地方に普通なる種類なれども、雄は稀なり。幼蟲はトマツ、エゾマツ等の材部に蠶入して、大害を加ふ。

分布——樺太、北海道。

(105) マツキバチ 續千蟲四。一五頁 (N. 762) (第五圖 (22) (♀))

學名 *Sirex japonica* Sim.

昆蟲學上の地位、樹蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 15, pl. XIII, f. 22, ♀, N. 762 (1912)

體上黄色、體下は黒色。前頭及び頭頂の中央は黒褐、大腿の末端は黒色、觸角は黄色。中後の兩胸は黒色にして、粗大の點刻多く、後胸背基部の一致及び後縁は暗黄。翅は透明、少しく黄色を帯び、末端は暗褐、脈は黄褐。第一腹節基部の兩側は暗褐、第三節以下第七節迄黒色、第八節の後縁及び尾節の中央は黒色。産卵管の基部は黒褐。脚は黄色、基節、轉節及び腿節基部の一圓並に後腿節の末端は黒褐。雄は全體黄色にして、尾端の三節黒褐。尙ほ後腿節及び第一跗節の大部も黒褐なり。體長七分——一寸。尾角一分二厘。産卵管七分。此は東京地方に産する普通なる種類にして、幼蟲は松、杉、樅等の材部に蠶入して、大害を加ふ。

分布——本州、九州。

(106) カラフトキバチ 續千蟲四。一六頁 (N. 763) (第五圖 (23) (♀))

學名 *Sirex cingus* I.

昆蟲學上の地位、樹蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 16, pl. XIII, f. 23, ♀, N. 763 (1912)

體は光澤ある黒色。頬は黄色、點刻を粗布す。頭頂には點刻多し。觸角は黄色。前胸の點刻は粗大なり。後胸背部の兩側にある一致は黄色。翅透明、少しく黄褐を帯び、縁暗褐、脈は黄褐。第一、第二、第七、第八腹節並に尾角は黄色、第一節の基部、第三節以下の四節、第八節中央の後縁、第七節(兩側は黄色)及び産卵管は黒色。産卵管の基部は少しく黄色を帯ぶ。脚は黄色、基節、轉節及び腿節は黒色。雄は腹部黄色、第一節及び尾端の三節は黒色。體長七分——八分。尾角一分五厘。産卵管五分五厘。此は樺太地方に産すれども、未だ北海道にて捕獲せられしことなし。此は産卵管を以て時に鉛箱の如き金屬性のものに穿孔することあり。幼蟲は松、トマツ、エゾマツ等の材部を食す。

分布——樺太、歐洲。

(107) クロキバチ 續千蟲四。一七頁 (N. 764) (第五圖 (24) (♀))

學名 *Sirex antennalis* Marl.

昆蟲學上の地位、樹蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 17, pl. XIII, f. 24, ♀, N. 764 (1912)

體は黒色。頬は灰白、觸角は黒色、着部は灰色、末端の半部は白色、但し末端の六節は暗色を呈す。前胸には粗大の點刻を密布し、中胸にあるものは小なり。稜状部の兩側にある一致は白色。翅は透明、少しく暗色を帯び、脈は暗褐。第一、第二、第七及び第八腹節の兩側にある一致は白色、但し第七節にある斑紋は小なり。尾節の兩側にも灰白の一大紋を裝ふ。脚は黒色、脛節及び第一跗節の基部は白色、爪は黄褐。體長八分——九分。尾角一

分五厘。産卵管七分。此は札幌地方に稀ならず。

分布——北海道、本州。

(108) ニトベキバチ 續千蟲四。一七頁 (N. 765) (第六圖 (1) ♀)

學名 *Sirex nitobei* Mats.

昆蟲學上の地位、樹蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 17, pl. XIII, f. 1, ♀, N. 765 (1912)

體は黒藍色。頭には小點刻を密布し、灰色の短毛多し。大腮は黒色、三齒を具へ、基部に粗大の點刻あり。觸角黒色、基部の兩三節は黒藍色。前胸背は粗糙にして、點刻及び顆粒多く、中後の兩胸背には頭部同様の點刻を密布す。翅は透明、外半は暗色を帯び、脈は黒褐、前翅の前縁は暗色。腹部は基部及び尾節を除き瑠璃色、基節に點刻多く、灰色毛を粗生す。尾節は滑澤にして、基部少しく黄褐を帯び、尾角は短かく、尾節の兩側に點刻を粗布す。産卵管の基部は黄褐。脚は黒藍色、腿節の末端及び脛節の兩端並に爪は黄色。雄は稍や雌と同色なれども、觸角基部の大半、脚及び腹部(初めの三節を除き)の大部は黄褐、但し後腿節及び同第一跗節は黒色。腹面は黄褐、末端の二節は黒褐。翅は鼈甲様の黄褐。體長(♂)七分——八分、(♀)九分五厘。此は新渡戸稻雄氏に依りて始めて發見せられたるものなり。

分布——本州(青森)。

(109) ヒメキバチ 續千蟲四。一八頁 (N. 766) (第六圖 (2) ♀)

學名 *Sirex sinuatus* Mats.

昆蟲學上の地位、樹蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 18, pl. XIII, f. 2, ♀, N. 766 (1912)

此はマツキバチ(105)に酷似すれども、其の異なる處は左の如し。

- 一、形遙に小なること。體長六分五厘。産卵管五分。
 - 二、中胸背に於ける點刻は多く、且つ深きこと。
 - 三、翅は全部黄褐にして、(105)の如く翅端暗色を呈せず。縁紋は暗褐。
 - 四、初めの四腹節黄色にして、其の内、第一及び第四節に多少褐色を帯びたる部分あり、第五、第六及び第七節は大部黒色、第八節の前半は黄色、後半は黒色にして、其の前縁は黄色によりて三角形に列らる、第九節は黒褐、下面には黄色の二紋あり。
 - 五、後脛節の末端は黄色にして、(105)の如く暗色ならず。
- 分布——本州。

(110) ヒラアシキバチ 續千蟲四。二〇頁 (N. 767) (第六圖 (3) ♀)

學名 *Tremex similis* Marl.

昆蟲學上の地位、樹蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 20, pl. XIII, f. 3, ♀, N. 767 (1912)

體は黄色。腹部は金色の光澤を帯び、頭には點刻を粗布し、前頭には黄毛を密生す。口部は黒色、觸角は短かくして、黄色、末端の大半は暗色。前胸背に粗大の點刻を具へ、又、小顆粒を粗布し、黄毛多し。中後の兩胸は黒色、中央には點刻を密布し、暗色毛多し。翅は鼈甲様の黄色、脈は黄褐、翅底少しく暗色を帯ぶ。第一腹節は黒色、黒褐毛多く、以下各節は黄色、但し第四、第五、第六及び第七節には各一個の黒帯ありて、後方に至るに

從ひ次第に其の幅を増し、第八節の中央に三錐形の黒紋を具へ、第九節兩側の基部に三角形の黒紋を裝ふ。尾角の末端は黒褐。産卵管の末端は少しく褐色を帯ぶ。胸側、胸下及び各腹面節の兩側は黒色。脚は黄褐、後肢の大部は黒色にして、脛節及び第一跗節の下面並に殘跗節は黄褐。體長一寸一分。産卵管七分。此は本邦に餘り多からず。

分布——本州。

(111) **タイワンヒラアシキバチ** 續千蟲四。二〇頁 (N. 768) (第六圖 (4) ♀)

學名 *Tenites formosanus* Mats.

昆蟲學上の地位、樹蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 20, pl. XIII, f. 4, ♀, N. 768 (1912)

體は黒色。頭には點刻を密布し、前頭及び口部の兩側に黄色を密生す。觸角は紡錘狀にして、黒色を呈し、末端少しく黄褐を帯ぶ。前胸背は黄色、小顆粒を粗布し、中後の兩胸背には點刻及び小顆粒多く、黄毛を密生す。稜状部の下方に黄色の二紋あり。翅は籠甲様の黄色、前翅前縁の中央紋及び翅端は褐色を帯び、脈は黄褐、後翅底に暗色紋を具へ、外縁は少しく暗色を帯ぶ。第二及び第三腹節の中央帯は金色の光澤ある橙黄色、第七節の前縁及び第八節の前半は橙黄色、第一節及び第七節以下の各節に黄褐毛を密生し、尾節に粗大の點刻及び顆粒多し。産卵管の基部及び末端は黄褐。胸下及び腹面の中央は黄色。脚は黒色、脛節及び第一跗節の末端を除き黄色、爪は褐色、末端は黒褐。體長一寸。産卵管六分五厘。これは臺灣の高山地帯に稀ならず。

分布——臺灣。

(114) **コルリキバチ** 續千蟲四。二二頁 (N. 769) (第六圖 (5) ♀)

學名 *Sirex juvenis* L.

昆蟲學上の地位、樹蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 22, pl. XIII, f. 5, ♀, N. 769 (1912)

體は黒藍色、暗色の長毛多し。前頭には點刻を密布すれども、後頭には少なし。觸角は暗褐、第二節乃至第七節は黄色。前胸には粗大の點刻及び顆粒多し、中後の兩胸背にある點刻及び顆粒は前胸にあるものよりも遙かに小なり。翅は半透明、少しく暗黄を帯び、脈は黒藍色、翅端少しく暗色を帯ぶ。腹節には點刻少なく、光澤を帯び、第八節の背上に淺き一縦溝あり。尾角は割合に長く、其の兩側に黄色の短毛を裝ふ。産卵管の基部は黄褐。脚は黄色、基節は黒藍色、爪の末端は少しく褐色を帯ぶ。體長六分五厘。産卵管四分。こは樺太地方に産すれども餘り多からず。

分布——樺太、西比利亞、歐洲。

(115) **ヒゲジロコキバチ** 續千蟲四。二二頁 (N. 770) (第六圖 (6) ♀)

學名 *Sirex oguniae* Mats.

昆蟲學上の地位、樹蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 22, pl. XIII, f. 6, ♀, N. 770 (1912)

體は黒色、暗色の長毛多し。頭には點刻を密布すれども、頬滑澤にして、灰白なり。頭頂には淺き三縦溝を裝ふ。觸角は黒色、第十一、第十二及び第十三の三節は白色、末端は暗褐。前胸背には粗大の點刻を具へ、中後の兩胸背にあるものは稍や小なり。翅は半透明にして、少しく暗色を帯び、脈は暗褐、縁紋は黒褐にして、少しく紫

色を帯ぶ。腹部は光線の工合に依りて少しく紫色を帯び、第八節の兩側に灰白の一紋を裝ふ。尾角は長く、滑澤にして、兩側に顆粒多し。産卵管の基部は黄褐。脚は黒色、脛節及び第一跗節の基部は白色、爪は黄褐。體長五分。産卵管三分。此は樺太に産すれども稀なり。

分布——樺太。

(116) クロヒラアシキバチ 續千蟲四。二三頁 (N. 771) (第六圖 (7) ♀)

學名 *Tremex apicalis* Mats.

昆蟲學上の地位、樹蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 23, pl. XIII, f. 7, ♀, N. 771(1912)

體は黒色、暗褐の軟毛を裝ふ。頭に點刻多く、頬にあるもの少し。觸角黒色、末端の八九節白色。前胸背の點刻粗大、兩側にあるもの更に大、中後の兩胸背にあるものは前胸にあるものより小、中胸背の中央に判然せる一縦條を裝ふ。翅透明、少しく黄色を帯び、末端の三分の一暗褐、少しく藍色を帯び、脈黒褐。腹部細長、少しく藍色を帯び、第一節及び尾節を除き各節の兩側に一白紋ありて、其の一、三及び八節にあるものは大、九節の兩側に點刻多し。各腹節の中央白色、尾角短かく、兩側に顆粒多し。産卵管黒褐、末端及び基部黄褐。脚黒色、脛節及び第一跗節の大部并に第五跗節は白色、但し脛節及び第一跗節の末端は黒褐、爪は黄白。雄は全體黒色。體長七分—一寸。産卵管六分。此は札幌地方に産すれども餘り多からず。幼蟲はトマツの幹に蠶入す。

分布——北海道。

(117) クピナガバチ 續千蟲四。二四頁 (N. 772) (第六圖 (8) ♀)

學名 *Xiphydria jezeousis* Mats.

昆蟲學上の地位、樹蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 24, pl. XIII, f. 8, ♀, N. 772(1912)

體は黒色。頭は光澤を帯び、二個の黄白紋を裝ひ、後頭の兩側縁も亦黄白なり。觸角は黒色にして、末端の大半は黄白。頭は長く、中央に黄白の一縦條あり。胸背には粗大の點刻多く、稜狀部下方の兩側に各一白紋あり。翅は透明、少しく暗黄色を帯び、縁紋及び脈は暗褐、光線の工合により少しく紫色を現はす。腹部は黒色、第三節及第八節の兩側に黄白紋を裝ふ。産卵管の基部は黄褐。脚は黒褐、脛節及び脛節の末端は赤褐。雄は小形なれども、紋條は雌に異ならず。體長四分—八分。此は札幌地方に普通なる種類にして、幼蟲はハンノキに蠶入す。成蟲は家屋に入り來りて蠶兒を食することあり。

分布——樺太、北海道、本州。

(118) ルリアシフトハバチ 續千蟲四。二五頁 (N. 773) (第六圖 (9) ♀)

學名 *Cimbex femorata* L. subsp. *japonica* Kby.

昆蟲學上の地位、葉蜂科 (Tenthredinidae)。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 25, pl. XIII, f. 9, ♀, 10, ♂, N. 773(1912)

體は黒藍色。觸角は黄色、基部の小片は黄褐。頭には黒褐毛多く、微小の點刻を裝ふ。胸背にある點刻は頭にあるものより判然す。翅は半透明、少しく暗色を帯び、縁紋は黒褐、前翅の外縁は暗色を帯ぶ。腹部は楕圓形にして、第一節の裸出部、並に第三、第四及び第五節の兩側にある各紋は黄白、尾節及び腹面は黄褐。脚は黒藍色、脛節は黄褐、跗節は黄色、爪は黄褐、末端は暗褐。雄は雌と同色なれども、其の異なる處は翅に藍色の光澤を帯び、

腹側の斑紋黄褐を呈し、腿節の頗る大なるにあり。此は札幌地方に産すれども餘り多からず。幼蟲は柳の葉を食す。體長七分五厘—一寸。

分布——北海道、本州。(原種は樺太、北海道及び歐洲に産す。)

(119) **キイロアシフトハバチ** 續千蟲四。二六頁 (N. 774) (第六圖 (11) (♀) (14) (♀))

學名 *Cimbex femorata* L. subsp. *silvarum* F.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 26, pl. XLIII, f. 11, ♂, f. 14, ♀.

N. 774 (1912)

雌にては體は黒藍色。頭、觸角、前胸背、稜狀部、胸側の一紋、第一腹節の後半、第三節以下の各節、腹面の末端及び脚は黄褐。頭は光澤を帯び、小點刻を粗布し、黄毛多し。胸背にある點刻は頭部にあるものよりも遙かに多く、其の内、縮刻となるものあり。翅は半透明、少しく黄褐を帯び、脈は黄褐。腹部は橢圓形にして、小點刻を密布し、第三節以下各節の中央に一回紋を裝ふ。腿節及び脛節端の下部は黒藍色。爪は黄褐、末端は黒褐。雄の雌と異なるところは頭部及び胸背の黒褐なること、翅端の暗色を帯ぶること、第一腹部にある裸出部の大にして白色なること、腿節全部の黒色にして肥大せること並に腹面の全部黄褐なることにあり。體長(♂)九分五厘、(♀)九分。此は稀なる種類なり。

分布——北海道、本州、亞比利亞。

(120) **スズキアシフトハバチ** 續千蟲四。二七頁 (N. 775) (第六圖 (12) (♂))

學名 *Cimbex curvulata* Konow

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 27, pl. XLIII, f. 12, ♂, N. 775 (1912)

體は黄褐、暗灰色の軟毛多し。頭片は黄色、其の兩側は黒褐。大腮は黄褐、末端は黒褐。觸角は黄褐。頭頂は黒褐。前胸背は黄色、中胸背は黒褐、點刻を密布し、稜狀部及び中胸背の後縁は黄色。翅は半透明、前翅の前半部は黄褐を帯び、其の後半、翅端並に後翅は鼈甲様の黄色。脈は黄褐。腹部は長橢圓形、初めの三四節は黄褐、各節の前縁及び接合部は黒褐、第三節以下各節の中央及び兩側に黒褐紋を裝ひ、第四節若しくは第五節以下の各節は黄色、尾節には黒褐紋を缺き、第一節の裸出部は黄白。中胸片及び後胸片の中央紋は黒褐。脚は黄褐、中後兩肢の正面は脛節及び跗節を除き黒褐、點刻多く、後腿節の中央に黒褐紋を裝ひ、後脛節は弓狀に彎曲す。雌は雄と略ぼ同色なれども、形小にして、腿節は肥大せず。體長七分五厘—九分。此は京都鈴木元治郎氏の採集に係るものにして、稀なるが如し。

分布——本州(京都)、朝鮮。

(121) **ホシアシフトハバチ** 續千蟲四。二八頁 (N. 776) (第六圖 (13) (♀))

學名 *Agenocimbex juncunda* Moos

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 28, pl. XLIII, f. 13, ♀, N. 776 (1912)

頭、中胸背、胸片、翅底及び脚は黒藍色。頭には黄色及び灰色毛多し。觸角及び大腮は黒色。前胸は橙黄色にして、同色の短毛を密生し、中胸背には小點刻多し。翅は透明にして、鼈甲様の黄色を帯び、脈は黄褐、縁紋は栗色。腹部は黄色、各節の中央及び兩側に黒紋を裝ひ、第一及び第二節の中央にある紋は大にして、稍々四角形

をなし、尾端の二節に紋を缺く。尙、腹面の兩側にも黒藍色紋を連ぬ。脚には灰白毛を密生す。體長五分。此は九州地方に稀ならざるが如し。

分布——本州、九州。

(122) ヤウラウアシフトハバチ 續千蟲四。二九頁 (N. 777) (第六圖 (15) (♀))

學名 Okamotoius (Cimbex) yorofui Marl.

昆蟲學上の地位、葉蜂科、Thoms. Ins. Jap. Suppl., p. 29, pl. XIII, f. 15, ♀, N. 777 (1912)

體は黒色と黄色と相半す。頭及び中後の兩胸背は黒綠色にして、銅色の光澤を帯ぶ。顔は黄色、大腮の内側は黒褐。觸角は暗褐、基節は黄色。前胸背及び翅底鱗は黄色、前者には點刻を密布し、稜狀部は隆起し、黄色、後胸背の中央も黄色なり。腹部は長楕圓形にして、黄色、第一節の基部、第二及び第三節の大部(兩側を除き)、第四、第五及び第六節の中央紋、第七及び第八節の前縁は黒色、腹面は大部黄色、中央に暗褐紋を裝ふ。翅は半透明、前翅の前縁に黒褐の太き一縦條ありて、その基部にて細し。脈は黒褐。胸面の大部は黒銅色。脚は黄色、基節の基部紋及び後腿節の大部は黒銅色。體長六分。此は本州に産すれども、稀なるが如し。

分布——本州(岐阜、京都)。

(123) カラフトアシフトハバチ 續千蟲四。二九頁 (N. 778) (第七圖 (1) (♀))

學名 Cimbex femorata L.

昆蟲學上の地位、葉蜂科、Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 29, pl. XIV, f. 1, ♀, N. 778 (1912)

體は光澤ある黒色。觸角は黄色、基部は暗褐。大腮は黒褐。頭には小點刻を粗布し、灰色の軟毛多し。胸背にある點刻は頭部にあるものよりは大きなり。翅は半透明、籠甲様の黄色を帯び、脈、縁紋及び翅端は暗色。腹部の第一節にある裸出部は灰白にして、細し。尾端には灰白の短毛を裝ひ、産卵管は褐色。脚は黄色、基節、轉節及び腿節は黒色、爪の末端は褐色。體長六分五厘。これは樺太及び北海道に産す。

分布——樺太、北海道、歐洲。

(124) ヒラクチハバチ 續千蟲四。三〇頁 (N. 779) (第七圖 (2) (♂))

學名 Trichosoma jozankannum Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科、Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 30, pl. XIV, f. 2, ♂, N. 779 (1912)

體は黒色、灰白毛多く、光澤の工合にて少しく綠色を帯ぶ。觸角は黒褐、中央は黄褐。頭には小點刻を粗布し、前頭には軟黒毛を密生し、單眼は赤褐、上唇は大にして、半圓形をなし、大腮の末端は黒褐。胸背の點刻は頭部に於けるものよりも大にして、稍密なり。翅は半透明、少しく籠甲様の黄色を帯び、縁紋及び翅端は暗色、脈は翅底の半部に於て黄色、翅端の半部に於て黒褐。腹部は長楕圓形にして、尾端の二突起は黄色、腹面は光澤を帯び、各節の後縁は赤褐。脚は黒藍色、脛節及び跗節は黄色、爪の末端は少しく褐色を帯ぶ。體長六分五厘。此は札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道。

(125) オホヒラクチハバチ 續千蟲四。三一頁 (N. 770) (第七圖 (3) (♂))

學名 *Trichosoma albobiosum* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 31, pl. XLIV, f. 3, ♂, N. 770 (1912)

此は前種に酷似すれども、左の諸點に依つて容易に區別することを得べし。

- 一、形遙に大にして、灰白毛を密生す。體長八分五厘。
- 二、額片及び上唇は黄色。後者は稍圓形をなす。大腮は黒褐にして、基部は暗黄。
- 三、翅は細長にして、翅端は少しく暗色を帯び、縁紋の下方少しく暗色を帯ぶ。
- 四、腹面は黄褐、尾節は稍圓形をなし、短き黒毛を裝ふ。
- 五、脚は黒色、轉節及び跗節は黄褐、脛節は暗褐なり。

此は東京地方に産すれども稀なり。

分布——本州。

(126) ニトベヒラクチハバチ 續千蟲四。三三頁 (N. 781) (第七圖 (4) (♀))

學名 *Clavellaria nikobei* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 32, pl. XLIV, f. 4, ♀, N. 781 (1912)

體は黒色。觸角黒褐、末端の球桿は黄褐。頭には暗色及び灰色の長毛を裝ひ、點刻を缺く。額片及び上唇は黄色、光澤を帯び、上唇は額片より少しく大にして、稍や圓形なり。大腮は栗色にして、末端は少しく淡色。胸背は光澤を帯び、點刻を粗布す。翅底鱗は黒褐。翅は半透明、少しく黄色を帯び、縁紋及び脈は暗褐、第一副前縁脈及び外縁は少しく暗色を帯ぶ。腹部は長楕圓形にして、第二節を除き各腹節の後縁は黄白、尾端に至るに従ひ

其の幅を増し、黄褐の短毛を粗生す。腹面は黒褐、各節の後縁及び尾節は黄褐。脚は黒色、轉節、脛節及び跗節は黄色。體長七分。此は青森に産すれども稀なり。幼蟲は草樹の葉を食す。
分布——本州。

(127) ネジロコンボウハバチ 續千蟲四。三三頁 (N. 782) (第七圖 (5) (♀))

學名 *Abia lewisii* Cam.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 33, pl. XLIV, f. 5, ♀, N. 782 (1912)

體は暗綠色、暗色の長毛多し。觸角は黒色、末端の球桿は赤褐、頭には小點刻を密布し、大腮の末端は暗褐。胸背は少しく光澤を帯び、小點刻を粗布す。翅は透明、中央に暗色の三紋あり、翅端も亦少しく暗色を帯び、脈は翅底を除き黒褐。腹部は楕圓形にして、光澤を帯び、灰白の短毛を密生し、基節後縁の大部並に腹面基部の大部分は灰白なり。脚は黒綠、脛節の末端、脛節及び跗節は黄白。此は本州に産すれども稀なり。體長二分。
分布——本州 (岐阜、京都)。

(128) ルリコンボウハバチ 續千蟲四。三四頁 (N. 783) (第七圖 (6) (♀))

學名 *Abia bantainana* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 34, pl. XLIV, f. 6, ♀, N. 783 (1912)

體は黒藍色、黒毛を裝ふ。觸角は黒色、眼は黄褐。胸背には小點刻を密布す。翅は半透明、少しく黄褐を帯び、縁紋は黒褐、脈は黄褐、中央にあるものは少しく黒褐を帯ぶ。腹部は長楕圓形、小點刻を密布し、各節緊縮を有

し、其の内、第一及第二節に於けるもの最も判然し、尾端には灰白の短毛多く、腹面は暗褐。脚は黒色、爪及び距は黄褐。體長四分二厘。此は岩代國盤梯山に於て鈴木元次郎氏の捕獲せるものなるが頗る珍種なり。
分布——本州(岩代)。

(129) クロモンチユレンジ 續千蟲四。三四頁 (N. 784) (第七圖) (7) (♀)

學名 *Hylotoma (Arge) nigritarsis* Sm.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 34, pl. XLIV, f. 7, ♀, N. 784(1912)

全體藍色、光澤を帯び、灰色の短毛を裝ふ。觸角黒色、三節なるを以て他と區別すること易し。頭胸に小點刻あれども、餘り判然せず。翅は半透明、少しく黄色を帯び、縁紋より後縁に達する一暗色帯を具へ、脈は黒褐。腹部は紡錘形を呈し、點刻を缺く。脚は黒色、腿節の末端及び脛節の大部は黄褐、跗節は黒褐、第一跗節は暗褐。體長四分五厘。此は本邦に産すれども、稀なるが如し。

分布——本州(東京、兵庫)。

(130) ムネアカルリハバチ 續千蟲四。三五頁 (N. 785) (第七圖) (8) (♀)

學名 *Hylotoma (Arge) capitata* Sm.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 35, pl. XLIV, f. 8, ♀, N. 785(1912)

體は黒藍色、灰白の短毛多し。觸角は黒色、基部少しく紺色を帯び、頭には小點刻を粗布す。胸背は赤褐。稜狀部及び後胸は黒藍色、光澤を帯び、點刻を缺く。翅は半透明、少しく暗色を帯び、光線の工合により紫色を現

はし、縁紋及び脈は黒褐。腹部は紡錘形にして、光澤を帯び、點刻を缺き、尾端に灰色の短毛を裝ふ。脚は黒藍色、距は黒色、爪は黄色。體長三分四分。此は本邦何れの地にも普通なれども、北海道には稀なるが如し。
分布——北海道、本州、九州、臺灣。

(131) リンゴハバチ 續千蟲四。三五頁 (N. 786) (第七圖) (9) (♀)

學名 *Hylotoma (Arge) mali* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 35, pl. XLIV, f. 9, ♀, N. 786(1912)

體は黒色、灰色の短毛を密生す。觸角は黄褐、基部の二節は黒色、下唇鬚は暗黄、大腮の末端は赤褐、頭には小點刻を密布す。胸部は光澤を帯び、微小の點刻あれども、餘り判然せず。翅は半透明、少しく黄色を帯び、縁紋及び脈は黒褐、縁紋の下方に暗色の一紋あり、外縁の脈は黄褐。腹部は光線の工合にて少しく綠色を現はし、第三及び第四節は黄白。脚は黒色、少しく綠色を帯び、脛節は末端を除き黄白、距は暗黄、爪は赤褐。體長三分三分五厘。此は札幌地方に普通なる種類にして、幼蟲は萃樹の葉を食す。

分布——北海道(札幌)。

(132) ウスツマグロハバチ 續千蟲四。三六頁 (N. 787) (第七圖) (10) (♀)

學名 *Tenthredo adusta* Motsch.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 36, pl. XLIV, f. 10, ♀, N. 787(1912)

體は黄褐、灰黄の短毛多し。頭頂は光澤ある黒色、兩側に白色の一縦條を具へ、額片及び上唇は黄白、大腮黄

色、末端の内側は齒と共に黒褐、觸角は黄色。胸背に點刻あれども、餘り判然せず、前胸背の後縁及び稜状部は黄色。翅半透明、龍甲様の黄色を帯び、縁毛は黄色、脈は黒褐、外縁の三分の一は暗灰色。腹部は尾端に至るに従ひ其の幅を増し、第一節及び第二節の基部に細き二黒紋を具へ、第五、六節より尾端に至るまでは黒褐。胸面は黒色。前中兩基節に黒色を帯ぶる部分あり。此は本邦に餘り多からず。體長四分—五分。

分布——北海道、本州、九州。

(133) セグロアヲハバチ 續千蟲四。三七頁 (N. 789) (第七圖 (11) (♀))

學名 *Phlogogastera* (*Tenthredo*) *viridis* L.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 37, pl. XLIV, f. 11, ♀, N. 788 (1912)

體は黄綠色。觸角は黒色。大腮の末端は黒褐、頭頂は光澤ある黒色。前胸背の一紋、中胸背の半圓紋、稜状部の兩側紋並に後胸背の兩側紋は黒色。翅は透明、前縁及び縁紋は暗褐、脈は黄褐、中央にあるものは黒褐。腹部は細長、第七節にて増幅し、各節の前縁は黒色、第五及び第六節の黒帯は中央にて分離し、腹面の全部は黄緑。中胸片は黒色。脚は黄緑、後腿節末端の内側、脛節の末端及び跗節は黒色、爪は末端にて赤褐を帯び、前中兩肢の脛節端及び各跗節端は少しく黒色を呈す。體長三分五厘—四分五厘。此は札幌地方に普通なる種類なり。斑紋に變化多し。

分布——樺太、北海道、本州、支那、西比利亞、歐洲。

(134) ハラナガクロハバチ 續千蟲四。三八頁 (N. 789) (第七圖 (12) (♂))

學名 *Tenthredo hilaris* Sm.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 38, pl. XLIV, f. 12, ♂, N. 789 (1912)

體黒色。觸角は體よりも少しく短く、第三節は第四節より少しく長し。頭には點刻多く、額片、上唇及び大腮は黄白、大腮の末端は黒色。前胸の後縁は兩側にて黄白、胸背には點刻を粗布し、稜状部兩側の一小紋並に後胸の後縁は黄白、翅底鱗は黄色。翅は稍や透明、少しく黄色を帯び、脈及び縁紋は暗褐、前縁及び外縁の脈は黄褐。腹部細長、第一節の兩側に白紋を具へ、雄にては第三、第四、第五の三節黄褐。脚黄色若しくは暗黄、後肢は黒色、後基節の基部に白紋を裝ふ。此種の彩色には變化多し。體長三分五厘—四分五厘。北海道には普通なり。

分布——北海道、本州。

(135) ジャウノハバチ 續千蟲四。三八頁 (N. 790) (第七圖 (13) (♀))

學名 *Tenthredo japonensis* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 38, pl. XLIV, f. 13, ♀, N. 790 (1912)

體は黒色、光線の工合にて藍色を現はし、灰色の短毛を裝ふ。頭は大にして、光澤を帯び、少しく點刻を具へ、中央少しく凹陥し、額片、上唇及び大腮は黄白、末端黒褐、尙、複眼の後方にあるL字形紋は黄白なり。觸角の第三節は第四節より遙かに長し。前胸背の後縁、翅底鱗、稜状部、後胸背の後縁、同胸背側の一紋及び第一腹節は黄白。胸背には點刻を密布す。翅は半透明、龍甲様の黄色を帯び、短黒毛を裝ひ、前縁及び縁紋は黄褐、外縁の三分の一は暗色を帯び、脈は黒褐。腹部は第六、七節に至りて増幅し、第一節は中央にて分離し、其の部分黒褐なり。脚は黄白、基節の基部、脛節及び跗節の末端は黒褐、各跗節の末端は少しく暗色を帯び、爪黄褐にして、

二分す。體長五分五厘。

分布——九州(豊前國城野)。

(136) クロムネハバチ 續千蟲四。四〇頁(N. 791) (第七圖(14)♀)

學名 *Tenthredopsis nigripectus* Sm.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 40, pl. XLIV, f. 14, ♀, N. 791 (1912)

雌雄大に其の彩色を異にす。雌は黒褐。複眼の内側、頰、額片、上唇、大腮(末端は暗褐)、稜狀部及び後稜狀部は黄色。觸角黒褐、下方に於ける各節の基部は黄褐。胸部に判然せざる小點刻を具へ、光澤を帯ぶ。翅は透明、少しく暗色を帯び、前縁及び縁紋は黄色、縁紋の内側は暗褐、縁紋の下方に暗色の雲狀紋を裝ひ、脈は暗褐。後翅は透明、腹部は長楕圓形、第四及び第五節並に第二及び第三節の兩側黄褐。脚は淡黄褐、基節、腿節及び後腿節の末端は黒褐。雄にては觸角黄褐。前翅の中央に暗色紋を缺くものあり。腹部は大部黄褐。中胸片の兩側に黄紋を具ふ。脚は大部黄褐、後腿節に黒縦紋あり。體長四分。此は本邦何れの地方にも普通なり。

分布——北海道、本州。

(137) ムナグロハバチ 續千蟲四。四〇頁(N. 792) (第七圖(15)♀)

學名 *Tenthredopsis plalyceus* Marl.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 40, pl. XLIV, f. 15, ♀, N. 792 (1912)

體は黄褐。觸角の中央は黒褐、末端の二節は雌にては黄白。頭頂、前胸背の一紋、中胸背の二紋、胸面、第一

腹節の一紋及び第三節以下各節にある一帯は黒褐。翅半透明にして、籠甲様の黄色を帯び、前縁及び縁紋は黄褐、脈は暗褐。脚は黄褐、基節の基部及び後腿節の大部は暗褐色。雄にありては觸角長大にして、稍や體と同長なり。體長五分。此は中國に稀ならず。

分布——本州(京都、神戸)。

(138) チャウザンハバチ 續千蟲四。四一頁(N. 793) (第七圖(16)♀)

學名 *Tenthredopsis jozanus* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 41, pl. XLIV, f. 16, ♀, N. 793 (1912)

體は黒色、灰白の短毛多し。觸角、額片、上唇、大腮、兩鬚、前胸背の後縁、翅底鱗、後稜狀部及び脚は黄色。大腮の末端は黄褐、觸角第二節乃至第六節の外側は黒色、頭には小點刻及び縮刻を具へ光澤あり。胸背には點刻を密布す。稜狀部と後稜狀部との中間に三角形の白紋と同色の二點あり。翅透明、籠甲様の黄色を帯び、前縁及び縁紋は黄色、外縁には卵形の一暗色紋を具へ、脈は暗褐。腹部は暗褐、兩側及び腹面は淡色、第五節及び第六節最大なり。基節及び腿節の外方に黒縦條を裝ひ、跗節は黄白、爪は末端にて黄白。體長四分。此は札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道(札幌、定山溪)。

(139) ハキハバチ 續千蟲四。四二頁(N. 794) (第七圖(17)♀)

學名 *Tenthredopsis jakuiensis* Mats.

日本千蟲圖解

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous, Ins. Jap. Suppl., IV, p. 42, pl. XLIV, f. 17, ♀, N. 794 (1912)

體は黃褐。觸角は基部を除き暗褐。頭頂は暗褐、光澤を帯び、粗の淺き點刻あり。額片、上唇及び大腮は黃白。大腮の末端は暗褐。前胸背の後縁に四個の暗褐紋を並列し、中胸背には同色の三大紋を具へ、點刻を密布し、稜狀部は稍三稜形に突出す。翅は透明、籠甲様の黄色を帯び、前縁は暗褐、縁紋は黄色、外縁は廣く黒色、少しく紫色を帯び、脈は黒褐。腹部暗褐、少しく紫色を帯び、第三、第四及び第五節の背上並に腹面は黄色。胸片及び胸側は黒色、粗大の點刻多く、中胸片の兩側に一棘狀突起あり。脚は黄色、後肢の基節、腿節の末端並に脛節の大部は黒褐、爪は末端にて黃褐。體長六分。此は熊本葉木にて採集せられたり。

分布——九州（熊本葉木）。

(140) キグチハバチ 續千蟲四。四三頁 (N. 795) (第七圖 (18) (♀))

學名 *Tenthredopsis flavomandibulata* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous, Ins. Jap. Suppl., IV, p. 43, pl. XLIV, f. 18, ♀, N. 795 (1912)

體は黒色。額片、上唇及び大腮は黄色、但し後者の末端は黃褐。觸角は黒色、第三節の基部暗褐。頭には粗大の點刻多し。前胸背の後縁及び翅底鱗は黄色。中後の兩胸背に點刻を密布すれども、之れは頭部にあるものよりは遙に小、後縁は黄色。翅は半透明、黃褐を帯び、脈及び縁紋は暗褐。第三、第四及び第五腹節は黃褐なれども、側面は黒褐、第一節の兩側は黄色、第一乃至第五腹面節の中央は黃褐。後胸側に各一個の黃紋を裝ふ。脚は黒褐、腿節の基部、脛節及び跗節の大部は黃褐。體長五分五厘。此は七月頃東京地方に産すれども、其の數多からず。

分布——本州（東京）。

(141) ルリバラハバチ 續千蟲四。四四頁 (N. 796) (第七圖 (19) (♀))

學名 *Tenthredopsis abdominalis* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous, Ins. Jap. Suppl., IV, p. 44, pl. XLIV, f. 19, ♀, N. 796 (1912)

體は黒色。大腮の基部は白色、中央は黒褐、末端は黃褐、額片の兩側に各一白紋あり。第三觸角節は第四節よりも明に長し。頭に粗大の點刻を具ふ。稜狀部の後方には灰白色の二小紋あり。翅は透明、少しく黄色を帯び、脈及び縁紋は黒褐。腹部は黒藍色、稍や圓柱形にして、第六及び第七の兩節は他より幅廣く、第一節の兩側に灰白の一紋を裝ふ。脚は黒色、前肢腿節の末端、脛節の前面及び第一跗節の前方は黃白、爪の末端及び距は黃褐。體長四分五厘。此は札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道（札幌）。

(142) オホツマゲロハバチ 續千蟲四。四五頁 (N. 797) (第七圖 (20) (♂))

學名 *Tenthredopsis providens* Sin.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous, Ins. Jap. Suppl., IV, p. 45, pl. XLIV, f. 20, ♀, N. 797 (1912)

體は黃褐。頭頂は廣く黒色、額片、上唇及び大腮は黄色、但し後者の末端は少しく黃褐を帯ぶ。觸角は黒褐、基部の兩三節は黃褐。前胸背の後縁、翅底鱗及び稜狀部は黄色。翅は透明、少しく黄色を帯び、外縁は廣く暗色、脈は黒褐、縁紋は黄色。腹部は平たく、第一腹節は黄色、各節の前縁、兩側の二點及び尾端の三、四節は黒褐。脚黄色、後肢脛節の上方及び同脛節の末端は黒褐、中脛節の末端に黒褐の一小紋あり。體長五分。此れは餘まり

多からざる種類なり。

分布——本州（東京）。

(143) **ネウスキハバチ** 續千蟲四。四六頁 (N. 798) (第七圖) (♂)

學名 *Tenthredopsis basalis* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 46, pl. XLIV, f. 21, ♂, N. 798 (1912)

體上黒色、體下は黄色。額片、上唇、大腮及び兩鬚は黄白、但し大腮の末端は暗褐。觸角は黒褐、下面は黄褐、第一節は黄色。前胸の後縁、翅底鱗、稜狀部及び後縁並に第一腹節の中央紋は黄色。翅は透明、少しく黄色を帯び、脈及び縁紋は暗褐。腹部は圓柱形にして、中央少しく縊れ、基部（中央紋を除き）及び兩側は黒色乃至黒褐、第五節以下は全部黄褐、第三、第四及び第五節の中央も亦、黄褐。脚は黄色、後肢は黄褐、同腿節の上面は黒褐。體長三分五厘。此は京都鈴木元次郎氏の採集に係れるものなり。

分布——本州（京都）。

(144) **ツマジロクロハバチ** 續千蟲四。四七頁 (N. 799) (第七圖) (♀)

學名 *Macrophya apicalis* Sm.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 47, pl. XLIV, f. 22, ♀, N. 799 (1912)

體は黒色。第三觸角節の末端は白色、更に其の末端は少しく暗色を帯び、上唇及び大腮の基部は黄白、大腮の末端は黄褐、頭及び胸背にある點刻は稍や其の大きさを等しくす。稜狀部は稍や六角形にして、白色なり。翅は

透明、少しく黄褐を帯び、脈及び縁紋は暗褐。腹部は光澤ある黒色、尾端に至るまで稍や同幅。後肢基節後方の一紋白色、同節の末端及び同轉節は黄白、前腿節の末端、同脛節の前方及び第四跗節の基部は灰白。體長四分。此は本邦何れの地にも稀ならず。

分布——北海道、本州、九州。

(145) **クロスチハバチ** 續千蟲四。四八頁 (N. 800) (第七圖) (♂)

學名 *Macrophya nigrolineata* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 48, pl. XLIV, f. 23, ♂, N. 800 (1912)

體は黄白。頭頂の冠狀紋、前胸背の兩側紋、中胸背の三紋、後胸背の大部及び各腹節の横帯は黒色。觸角の上は黒色、下面は黄白。稜狀部及び後稜狀部は黄白。翅透明にして、少しく灰白を帯び、脈及び縁紋は黒褐、光線の工合にて虹様の色彩を現はす。各腹節の中央に黄白の三角紋を裝ふ。脚は黄白、後腿節の外側にある一縦線、同脛節基部の三分の二並に末端及び跗節（各節の末端は灰白）は暗褐。體長三分。此は札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道（札幌）。

(146) **サツボロハバチ** 續千蟲四。四九頁 (N. 801) (第七圖) (♀)

學名 *Macrophya sapporensis* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 49, pl. XLIV, f. 24, ♀, N. 801 (1912)

體は黒色。眼の内側、頭の後縁、額片、上唇、前胸背の後縁、翅底鱗、稜狀部、後胸背の二點及び第一腹節並に尾端は黄色。觸角は黄褐、第一節乃至第四節の上は黒褐。頭及び胸背の點刻は稍や大きを等くす。翅は透明、少しく黄色を帯び、脈及び縁紋は暗褐、前縁は黄褐。腹部は黄褐、長楕圓形、初三節基部の中央は暗褐、第五及び第六の兩節最も廣く、腹面は黄褐、黒紋を散在す。胸側に黄白紋あり。脚は黄色、基節は黒色、各外側に一白紋を裝ひ、各腿節の内側に黒縦條を具へ、尙、脛節の末端暗褐。體長三分。此は札幌地方に稀ならず。

分布——北海道(札幌)。

(147) **コシマハバチ** 續千蟲四。五〇頁 (N. 802) (第七圖(25)(♀))

學名 *Pachyprotasis pallidiventris* Marl.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 50, pl. XLIV, f. 25, ♀, N. 802 (1912)

體上は光澤ある黒色。體下は黄白。頭は黄白、頭頂及び後頭は黒色。大肥の末端は暗褐。觸角は黒色、第一及び第二節の下面は黄白。中胸背にあるV字形紋、翅底鱗の前方、稜狀部及び其の後方にある一小紋は黄白。翅は透明、少しく黄色を帯び、脈及び縁紋は黒褐。腹部は平たく、第三及び第四節の後縁は黄白、尾節を除き各節中央の後縁に黄白紋を具へ、腹面黄白、各節の中央は黒色。中胸片の兩側に一黒縦條あり。脚は黄白、前中兩腿節及び跗節に黒色の縦條を具へ、後基節に黒色の縦條を裝ひ、腿節の末端、脛節及び跗節は黒色、但し第一跗節の基部及び距は黄褐なり。體長三分。此は札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道(札幌)。

(148) **オホコシアカハバチ** 續千蟲四。五〇頁 (N. 803) (第七圖(26)(♀))

學名 *Siobla grandis* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 50, pl. XLIV, f. 26, ♀, N. 803 (1912)

體は黒褐。觸角、額片、上唇、大肥、頬、後頭の一枚、前胸背の後縁、翅底鱗、稜狀部、胸背の大部及び腹部の初三節は黄褐。觸角は短大、末端少しく暗色を帯ぶ。頭及び胸背には粗大の點刻及び顆粒あり。稜狀部は稍や三稜形をなして突出す。翅は鼈甲様の半透明、脈は暗褐、縁紋は黄褐。腹部は稍や胸部と同幅、第一節の基部は中央にて隆起し、第三節の後縁並に以下の各節は黒褐、腹面の大部は黄褐。前中兩肢の基節紋及び腿節の縦條は黒色、後肢の基節(末端を除き)、腿節(基部を除き)並に脛節端は黒色。中胸片には顆粒突起多し。體長四分八厘。此は札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道(札幌)。

(149) **フトハチガタハバチ** 續千蟲四。五二頁 (N. 804) (第七圖(27)(♀))

學名 *Conospidia umbrosa* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 52, pl. XLIV, f. 27, ♀, N. 804 (1912)

體は暗褐。頭は黄白、頭頂は黒色、但し單眼の部分及び後頭は黄白。觸角は紡錘狀にして、黒褐、基部の三節は暗褐。大肥は黄白、末端は黒褐。頭に點刻を缺く。胸背には微小の點刻多く、前胸背の後縁は黄白、中胸背の斜溝、翅底鱗及び稜狀部の兩側は黄褐。稜狀部の二紋及び後稜狀部は黄色。翅は半透明、少しく黄色を帯び、脈

は暗褐、縁紋は黄褐、縁紋の下方に暗色の一斜條ありて翅端に達す。腹部は基部にて細く、第五及び第六節にて太く、第一節、第二節の兩側、第三節の後縁、第四節の兩側、第六、第七及び第八節の二紋並に尾節は黄色。前中後の三胸側に各一個の黄白紋ありて、中胸にあるもの最も大なり。脚は黄褐、基部にある二條及び腿節の一縦條は黒褐、跗節は黄色。體長四分五厘。此は札幌地方に産すれども稀なり。一見細腰蜂に似たり。

分布——北海道(札幌)。

(150) **ハチガタハバチ** 續千蟲四。五三頁 (N. 805) (第七圖(28)) (♀)

學名 *Conospidia cylindrica* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 53, pl. XLIV, f. 28, ♀, N. 805(1912)

體上は黄褐、體下は黄色。前頭は黄色。單眼より觸角間に向て一黄褐線を送る。觸角は黄褐、基部は淡色。前胸背の後縁、中胸背の溝側紋、稜狀部、後胸背の大部並に第一腹節は黄白。胸背には小點刻を粗布す。翅は半透明、少しく黄色を帯び、脈は暗褐、前縁及び縁紋は黄褐。腹部は細長にして、第七節最も廣く、第二、第三及び第四節は黄色にして、各節の後縁及び兩側は黄褐、第五及び第六節は黄褐、次節は黄色。脚は黄色、基部の縦條、腿節及び脛節の細縦線は黒色。此は前種に似たれども、體細形なるを以て容易に區別することを得べし。體長四分五厘。餘り多からざるが如し。

分布——本州、九州。

(151) **キムネコシボソハバチ** 續千蟲四。五四頁 (N. 806) (第七圖(29)) (♀)

學名 *Allantus flavipectus* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 54, pl. XLIV, f. 29, ♀, N. 806(1912)

體は黄色。頭頂、後頭、觸角、中胸背、第二及び第五節以下の各腹節は黒色。頭は大にして、稍や四角形を呈し、複眼の内側は細く並に觸角の基部は黄色。大腮の末端は黒褐色。稜狀部は黄色、三稜形に隆起し、其の後方は黒色、後胸背は大部黄色、後稜狀部の後方も亦黒色。翅半透明、少しく黄褐を帯び、前縁の外縁は暗色、脈は暗褐、縁紋は黄褐。第一腹節の後方、第二節の後縁に近き一横線並に第三及び第四の兩腹節は黄色、第五節以下の各節は少しく紫色を帯び、尾節は黄色。中胸背の兩側に黒紋を裝ふ。脚は黄色、腿節及び脛節の上方に暗褐の一縦條あり。但し前肢の腿節には之れを缺く。體長四分。此は熊本地方に産すれども稀なり。

分布——九州(熊本、五ヶ庄)。

(152) **ムナグロコシボソハバチ** 續千蟲四。五五頁 (N. 807) (第八圖(1)) (♀)

學名 *Allantus nigripectus* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 55, pl. XLV, f. 1, ♀, N. 807(1912)

體上黒褐、體下は黒色。額片、上唇、大腮、觸角の基部、前胸の側片、稜狀部の兩側紋、中後兩胸背の後縁、第一腹節の中央紋並に第三腹節は黄色。複眼の内側、前胸背の後縁、翅底鱗及び稜狀部は黄褐色。翅は半透明、少しく黄色を帯び、脈及び前縁の後方にある太き縦條は暗褐、縁紋は黄褐。腹部は黒褐なれども、少しく紫色を帯び、尾端の二節は灰黄。脚は黄褐、前中兩肢の腿節には二箇、脛節には一箇の黒縦條を具へ、全基部、轉節並に後腿節は黒色。體長四分五厘。前種に似れども、體下黒色なるを以て容易に區別することを得べし。

分布——北海道(札幌)。

(153) フタヲビハバチ 續千蟲四。五六頁 (Z. 257) (第八圖 (2) (♀))

學名 *Allanthus bicinctus* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 56, pl. XLV, f. 2, ♀, N. 808 (1912)

體は黒色。觸角及び大腮は暗褐、大腮の基部は黄色、頭部に灰色毛を密生す。前胸の後縁及び翅底鱗は黄色、但し後者の中央は少しく暗色を帯ぶ。胸背には粗大の點刻を密布す。稜状部は三稜形に隆起し、滑澤なり。翅は半透明、少しく黄褐を帯び、前縁は廣くして、暗褐、翅端にて紫色を現はし、縁紋は黄褐。腹部は黒色にして、少しく紫色を帯び、第一及び第五腹節に各一箇の黄色帯ありて、第一節にあるものは少しく淡色。中胸側に粗大の點刻多く、中胸側に黄色の一紋あり。脚は黄褐、基節、轉節及び腿節の大部は黒褐、前中腿節の末端は黄褐、脛節の上方少しく暗色を帯ぶ。體長五分。此は箱根地方に稀ならず。

分布——本州(箱根)。

(154) ツマセグロハバチ 續千蟲四。五八頁 (Z. 262) (第八圖 (3) (♀))

學名 *Allanthus sapporensis* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 58, pl. XLV, f. 3, N. 809 (1912)

體は淡綠黄。頭頂、後頭、觸角(基節を除き)、中胸背の三紋(後方の二紋は癒着す)、第二、第五、第六及び第七腹節の中央紋は黒色。大腮の末端は黄褐。翅は透明、少しく黄色を帯び、脈は黒褐、縁紋は黄褐。腹部は淡黄褐。

脚は淡綠黄、腿節及び跗節の縦條は黒色、但し前肢には之れを缺く。體長三分六厘。此は札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道(札幌)。

(155) ツマダグロハバチ 續千蟲四。五八頁 (Z. 210) (第八圖 (4) (♀))

學名 *Sciopteryx apicalis* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 58, pl. XLV, f. 4, ♀, N. 810 (1912)

黒色、灰白の短毛多し。上唇、大腮及び兩鬚は黄褐。頭には粗大の點を散在す。胸背にある點刻は淺くして、餘り判然せず。後胸背に二黄紋あり。翅は透明、脈は黄褐、前縁、縁紋及び中脈は黒褐。腹部は赤褐、初めの二節並に尾端の二節は黒褐、基部の二節には粗大の點刻多し。脚は黒色、中後兩肢の脛節は基部にて黄色、前肢は大部黄色にして、腿節の基部、轉節及び基節は黒色なり。體長三分五厘。此は札幌地方に産すれども餘り多からず。

分布——北海道(札幌)。

(156) モイハナガハバチ 續千蟲四。五九頁 (Z. 211) (第八圖 (5) (♂))

學名 *Strongylogaster moiwannus* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 59, pl. XLV, f. 5, ♀, N. 811 (1912)

體は黒色。上唇及び大腮は褐色。兩鬚は暗褐。頭には小點刻多し。前胸の後縁及び翅底鱗は黄色。後胸背の二

紋は白色。翅は透明、少しく黄色を帯び、脈及び縁紋は主に暗褐、前縁及び翅底は黄色。腹部は黒褐、第二節以下各節の後縁は黄褐、特に第三及び第四節に於て幅廣し。脚は黒色、腿節の末端、脛節の基部並に後肢第一跗節の基部は白色、前中兩肢の脛節三分の二及び跗節は暗黄。體長四分。此れは札幌地方に産すれども餘り多からず。

分布——北海道(札幌)。

(157) シロハラナガハバチ 續千蟲四。六〇頁 (N. 812) (第八圖(6) (♀))

學名 *Strongylogaster compressus* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 60, pl. XLV, f. 6, ♀, N. 812 (1912)

體は光澤ある黒色。觸角の基節、額片、上唇、大腮、兩鬚、前中後胸背の後縁、翅底鱗及び後胸背の二點は白色。腹部及び脚は黄白色。頭及び胸部に點刻を缺く。翅透明、少しく黄色を帯び、脈は暗褐、縁紋は灰白。腹部の兩側は暗色、末端の半は側扁なり。脚は少しく黄色を帯ぶ。體長二分五厘。此は札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道(札幌)。

(158) ウスキアシハバチ 續千蟲四。六一頁 (N. 813) (第八圖(7) (♀))

學名 *Poecilosoma pallipes* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 61, pl. XLV, f. 7, ♀, N. 813 (1912)

體は黒色。頭頂の二紋、複眼の内側、觸角の基部、其の間の一紋、額片の前縁、上唇、大腮、兩鬚、頰、後頭

の一紋、前胸背の後縁、翅底鱗、中胸背の二斜條及び二縦線、胸側紋、各腹節の兩側にある三角紋及び後縁、腹面の大部並に脚等は黄色。翅は稍や透明、少しく暗黄を帯び、脈及び縁紋は灰黄、但し中脈は暗褐。腹部は長楕圓形にして、平たく、各節後縁の黄色部は斷續せり。腹面の兩側は黒色、基節の基部は暗色、後肢基節の末端は灰白、後腿節は淡黄褐、後脛節の末端及び後跗節上方は少しく暗色を帯ぶ。體長二分八厘。此れは札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道(札幌)。

(159) アメイロハバチ 續千蟲四。六二頁 (N. 814) (第八圖(8) (♀))

學名 *Poecilosoma unicolor* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 62, pl. XLV, f. 8, ♀, N. 814 (1912)

體は黄褐、觸角の第一、第二及び第四節の上方は暗褐。翅は透明、少しく黄色を帯び、縁紋は黄褐、其の内側に暗褐紋を具へ、脈は黄褐なれども、前縁脈及び徑脈は少しく暗色を帯び、前縁に灰色毛多し。脚は長くして、黄褐、後腿節は尾節の末端を越ゆ。體長三分五厘。京都地方に稀ならず。

分布——本州(京都)。

(160) モンキハバチ 續千蟲四。六三頁 (N. 815) (第八圖(9) (♀))

學名 *Ericocampa guttata* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 63, pl. XLV, f. 9, ♀, N. 815 (1912)

體は黃褐。大腿の末端は赤褐。單眼は暗褐。中胸背の三紋、稜狀部及び其の兩側紋は黒色。後胸背は暗褐、但し其の兩側の隆起は黃褐。翅は透明、翅底及び前縁は黄色を帯び、翅底の一紋、中央の一横帯及び外縁の一紋は暗色、縁紋は黒色、其の外側は黄色、後縁の中央は暗色、第一腹節前後の兩縁は暗褐、第四、第五及び第六節は黒色、但し第四節の中央は黄色。中胸片の中央は暗色、脚は黄色、爪は黃褐。體長三分五厘。此は札幌地方に稀ならず。

分布——北海道(札幌)。

(161) シロアシマルハバチ 續千蟲四。六四頁 (N. 816) (第八圖 (10) ♀)

學名 *Ericocampa albipes* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 64, pl. XLV, f. 10, ♀, N. 816 (1912)

體は光澤ある黒色、灰白の短毛を裝ふ。大腿の末端は黃褐。頭は粗大の點刻を裝ふ。胸背は滑澤、稜狀部、中胸側及び後胸背に粗大の點刻あり。翅は透明、前縁及び縁紋は黒色、脈は暗褐。腹部は平たく、第四腹節最も廣し。脚は黒色、脛節及び跗節は主に灰白、脛節の兩端及び各跗節の末端は暗色。體長二分。此は札幌地方に稀ならず。

分布——北海道(札幌)。

(162) ツノキクロハバチ 續千蟲四。六五頁 (N. 817) (第八圖 (11) ♂)

學名 *Taxonus fulvicornis* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 65, pl. XLV, f. 11, ♂, N. 817 (1912)

體は黒色、灰色の短毛多し。觸角は淡黃褐、基部の二節並に末端の三節は暗色。頭部及び胸部に粗大の點刻多し。稜狀部の後方にある二點は灰白。翅は半透明、少しく黄色を帯び、脈は暗褐、前縁及び縁紋の内側は黄色、縁紋は黒色。腹部は細長にして、平たく、兩側に灰白の短毛多し。脚は黒色、前肢、同腿節及び中跗節並に後轉節は淡黃褐、但し前腿節の基部、轉節並に基節は暗色。體長四分。此は京都地方に稀ならず。

分布——本州(京都)。

(163) ヒゲナガクロハバチ 續千蟲四。六六頁 (N. 818) (第八圖 (12) ♂)

學名 *Phymatocerus aeternus* Klug.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 66, pl. XLV, f. 12, ♂, N. 818 (1912)

體は黒色、灰白の短毛を裝ふ。觸角は甚だ長くして、稍や腹部の半に達し、各節に暗色の短毛を簇生す。頭及び胸背に點刻あれども、餘り判然せず。翅は半透明にして、暗色を帯び、脈は大部暗色、縁紋及び縁紋下にある脈は暗褐。腹部は細長にして、平たく、雄にては尾端上方に弓曲す。體長二分五厘。此は札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道(札幌)。

(164) ツマグロハラアカハバチ 續千蟲四。六六頁 (N. 819) (第八圖 (13) ♀)

學名 *Monophadnus apicalis* Mats.

日本千蟲圖解

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 66, pl. XLV, f. 13, ♀, N. 819 (1912)

體は黒色、灰白の短毛多し。大腿の末端及び兩鬚は黄褐。頭及び胸背は光澤ある黒色、點刻は判然せず。稜狀部の後方にある紡錘狀の二紋は灰白。翅は透明、少しく暗黄色を帯び、脈は黄褐、中脈、前縁並に縁紋は暗褐。腹部は基部及び末端の三節を除き黄色。脚は黄白、腿節の基部、轉節及び基節は暗色。體長一分七厘。此は札幌地方に稀ならず。

分布——北海道(札幌)。

(165) クロバアカマルハバチ 續千蟲四。六七頁 (N. 820) (第八圖 (14) (♀))

學名 *Bluceampa thornica* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 67, pl. XLV, f. 14, ♀, N. 820 (1912)

體は淡黄褐。單眼の部分及び中後の兩胸背は暗褐。觸角は黒色、基節は黄褐、上唇及び大腿の末端は暗褐。翅は透明、翅の大半不透明にして、暗色、前縁及び縁紋は黒色。腹部は橢圓形にして、第五節最も廣し。脚は黄褐、脛節の末端並に各跗節の末端は暗色。體長三分。此は京都地方に稀ならず。

分布——本州(京都)。

(166) カブラハバチ 續千蟲四。六八頁 (N. 821) (第八圖 (15) (♂) (16) (♀))

學名 *Athalia colibri* Christ subsp. *japonica* Kohw.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 68, pl. XLV, f. 15, ♂, 16, ♀, N. 821 (1912)

體は黄褐、灰白の短毛多し。觸角、頭、稜狀部の兩側紋及び後胸は黒色。額片及び上唇は灰白。大腿は暗褐。翅は半透明、少しく暗色を帯び、前縁、縁紋及び脈は暗褐。脚は黄褐、脛節の末端並に各跗節は黒色、但し第一、第二、及び第三跗節の基部は黄白。體長二分—二分五厘。此は本邦何れの地方にも普通なり。幼蟲は燕青、其の他の十字科植物を害す。原種は歐洲、西北利亞及び朝鮮に産す。

分布——樺太、北海道、本州、四國、九州。

(167) セグロカブラハバチ 續千蟲四。六八頁 (N. 822) (第八圖 (17) (♀))

學名 *Athalia nigritocum* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 68, pl. XLV, f. 17, ♀, N. 822 (1912)

前種に酷似すれども、其の異なる處は左の如し。

- 一、額片、上唇及び大腿は黒色、但し大腿末端の赤褐なること。
 - 二、頭頂には粗大の縦皺多きこと。
 - 三、中後の兩胸背は黒褐にして、頭頂同様に粗大の縦皺を有すること。
 - 四、第一腹背の中央の黒褐なること。
 - 五、脛節及び跗節は暗褐にして、第一腹節の基部並に前肢第二及び第三跗節の基部は黄色。體長三分五厘。
- 分布——本州、九州、沖繩。

(168) エゾツマグロハバチ 續千蟲四。七〇頁 (N. 823) (第八圖 (18) (♀))

學名 *Dolerus jescousis* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 70, pl. XLV, f. 18, ♀, N. 823 (1912)

體は黒色、灰白の短毛を装ふ。觸角は末端にて細小す。頭には粗大の點刻多し。前中の兩胸背は赤褐、但し中胸背の後方及び稜狀部は暗褐、後胸背の二紋は白色。翅は透明、少しく灰黄を帯び、光線の工合にて少しく虹色を現はし、脈は褐色、中脈、前縁及び縁紋は黒色。第二腹節の後縁、第三、第四及び第五節は橙黄色、第六節最も幅廣し。脚は黒色、前肢腿節末端の半ば及び同脛節の大部(末端は暗色)は黄色、中腿節の末端並に同脛節の基部は少しく黄褐を呈す。體長二分六厘。此は札幌地方に稀ならず。

分布——北海道(札幌)。

(169) オホムネアカハバチ 續千蟲四.七一頁 (N. 824) (第八圖 (19) (♀))

學名 *Dolerus ephiphialus* Sm.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thom. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 71, pl. XLV, f. 19, ♀, N. 824 (1912)

體は黒色。前頭には灰白の短毛多く、頭頂には粗大の點刻を装ふ。中胸及び翅底鱗は赤褐、但し稜狀部は黒色、何れも粗大の點刻多し。後胸背の二點は灰白。翅は透明、少しく黄色を帯び、脈及び縁紋は黒色。腹部は平たく、第四節最も廣し。脚は黒色。體長二分五厘—四分。此は本邦何れの地にも稀ならざるが、中國地方には最も普通なり。

分布——北海道、本州、四國、九州。

(170) フタモンクロハバチ 續千蟲四.七一頁 (N. 825) (第八圖 (20) (♂))

學名 *Dolerus biguttatus* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 71, pl. XLV, f. 20, ♂, N. 825 (1912)

體は黒色、暗色の短毛多し。觸角は黄色、上方に一黒縦線ありて、第五節に達す。複眼の内側及後方の一横紋、觸角間の一紋、額片の兩側、上唇、大腮の基部、前胸背の後縁、翅底鱗、第一腹節上の二紋並に脚部は黄色。頭には微小の點刻を具へ、胸背にあるものよりは少しく大なり。後胸背の二點は灰白。翅は透明、少しく黄色を帯び、脈及び縁紋は暗黄。腹部は細長、第二、第四及び第五腹節の兩側に暗黄紋を装ふ。基節、轉節、腿節の上方、後腿節の末端、同脛節の兩端並に同第一跗節は黒色。體長二分七厘。此は札幌地方に産すれども餘り多からず。

分布——北海道(札幌)。

(171) シロヲビクロハバチ 續千蟲四.七二頁 (N. 826) (第八圖 (21) (♀))

學名 *Dolerus albicinctus* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 72, pl. XLV, f. 21, ♀, N. 826 (1912)

體は黒色、暗色の短毛を装ふ。大腮の末端及び兩鬚は黄褐。頭胸には微小の點刻あれども判然せず。後胸の二點は灰白。翅は透明、少しく黄色を帯び、脈及び縁紋は暗褐。第二腹節の裸出部並に第五腹節の基部は灰白色、第六節より以下次第に細小す。脚は黒色、前中兩腿節の末端、脛節並に後轉節は黄白、後脛節及び跗節は暗黄。體長二分六厘。此は札幌地方に稀ならず。

分布——北海道(札幌)。

(172) モンキクロハバチ 續千蟲四。七三頁 (N. 827) (第八圖(22)♀)

學名 *Dolerus flavopictus* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 73, pl. XLV, f. 22, ♀, N. 827 (1912)

體は黒色、少しく綠色を帯び、灰黄の短毛多し。額片の前縁、上唇及び大腮は黄色。大腮の末端は暗褐。觸角は暗黄、初めの三節は暗褐、第四節より第七節に向つて細き暗色線を縦走し、頭には點刻を密布す。胸部に微小の點刻あり。後胸背には灰白の二點を裝ふ。翅は透明、少しく灰白を帯び、脈及び縁紋は暗褐、縁紋の内方に三灰白線あり。腹部の中央は黄褐、此は第二節より第五節に跨がり、腹面の中央も亦黄褐なり。脚は黄色、基節及び跗節は黒色、但し基節の末端は少しく黄色を帯ぶ。體長二分二厘。此は札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道(札幌)。

(173) ハグロハバチ 續千蟲四。七四頁 (N. 828) (第八圖(23)♀)

學名 *Dolerus fuscipennis* Sm.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 74, pl. XLV, f. 23, ♀, N. 828 (1912)

體は黒色、灰白短毛多し。大腮の基部は少しく灰白色を帯ぶ。頭胸に點刻あれども判然せず。後胸背の三點は灰白。翅は半透明、暗色を帯び、脈は黄褐、前縁及び縁紋は暗褐。腹部は少しく藍色を帯び、淺き點刻を散布し、第一、第四及び第五節の兩側に白紋を裝ふ。脚は黒色、後基節の外側にある一紋、同跗節及び跗節は黄白、其の

上方は暗色。體長三分一三分三厘。此は京都地方に普通なれども、北海道に産するものあるを見ず。

分布——本州。

(174) クマモトヒラタハバチ 續千蟲四。七五頁 (N. 829) (第八圖(24)♀)

學名 *Lyda kumamotoensis* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 75, pl. XLV, f. 24, ♀, N. 829 (1912)

體黒色。單眼の周圍、複眼の内側にある三角紋及び之れに連なれる後方の弓狀紋、後頭の二紋、上唇の前縁、大腮、兩鬚、前胸背の後縁、翅底鱗、稜狀部、後胸背の三紋、腹部の中央紋、各腹面節の後縁及び脚は黄色。大腮の中央は暗褐、末端は黄褐。縁紋の内側は黄色。腹部は平たく、中央部は大。脚基節黒色、其の末端は少しく黄色、跗節端は少しく褐色を帯ぶ。體長四分。此は熊本地方に稀ならず。

分布——九州(熊本)。

(175) アトグロヒラタハバチ 續千蟲四。七六頁 (N. 830) (第八圖(25)♀)

學名 *Lyda posticalis* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 79, pl. XLV, f. 25, ♀, N. 830 (1912)

體は黒色。單眼前方の二紋、複眼前内側の三角紋、之れに連續する後方の細線、後頭の二紋、頰、上唇の前縁及び其の中央紋、大腮、兩鬚、前胸背の後縁、翅底鱗、中胸背の三角部及び其の兩側紋、稜狀部及び其の兩側紋、後胸背の三紋、喉頭、中後の兩胸側等は黄色。大腮の末端は黄褐。頭には粗大の點刻を散在す。胸背にある點刻

は頭部にあるものより其の數少なし。翅は透明にして、少しく暗黄を帯び、脈及び縁紋は黄褐。腹部及び脚は淡黄褐。腹面は黄色、尾節は黒褐。脚基節黒色にして、其の下面に一黄線を具へ、轉節及び腿節の上面は黒色。體長四分五厘。此は東京地方に産すれども稀なり。

分布——本州（東京）。

(176) クロヒラタハバチ 續千蟲四。七七頁 (N. 831) (第八圖 (26) ♀)

學名 *Lyda nigricans* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 77, pl. XLV, f. 26, ♀, N. 831 (1912)

體は黒色、灰色の短毛多し。觸角間より上唇の中央に達する矢根様の一紋、觸角の柄節及び梗節、大腮、兩鬚、翅底鱗及び脚は黄色。大腮の末端は暗褐。第三觸角節の下面は暗黄。頭頂には粗大の點刻多しと雖も、後頭には少なし。中胸背の兩側に點刻あれども、其の數多からず。翅は透明、少しく黄色を帯び、脈及び縁紋は暗褐、縁紋の内側は少しく暗色を帯ぶ。各腹面節の後縁は暗黄。脚は黄白、脚基節（末端黄色）及び腿節基部の一紋は黒色。體長四分二厘。此は札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道（札幌）。

(177) マツヒラタハバチ 續千蟲四。七八頁 (N. 832) (第八圖 (27) ♂)

學名 *Lyda nigricoxae* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 78, pl. XLV, f. 27, ♂, N. 832 (1912)

體は黒色、暗黄の短毛多し。複眼内側の一紋は黄白。上唇中央の一紋、觸角、大腮、兩鬚、前胸背の兩側、中胸背前方の二紋、翅底鱗、稜狀部、後胸背の三紋、腹部の兩側、尾端の附屬物、各腹面節の後縁及び脚は黄色。大腮の末端は暗褐、頭頂には粗大の點刻多し。胸背は點刻を帯び、點刻は頭にあるものより少なし。翅は半透明、少しく灰黄色を帯び、脈及び縁紋は暗褐。第一腹節の裸出部及び第二腹節の中央は灰白。基節及び轉節の大部は黒色。體長三分五厘。此は札幌地方には稀なり。幼蟲は松の葉を食す。

分布——北海道、本州。

(178) ハラグロヒラタハバチ 續千蟲四。七九頁 (N. 833) (第八圖 (28) ♀)

學名 *Lyda semihava* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 79, pl. XLV, f. 28, ♀, N. 833 (1912)

體は黒色、黄色の短毛多し。複眼前方の一紋、後頭の二紋、後縁兩側の横紋、前胸背の後縁、翅底鱗、中胸背の二紋、稜狀部及び後稜狀部は黄色。大腮、兩鬚、腹背、腹面の兩側及び脚は暗黄。觸角は黄白、基部の二節並に末端の十數節は暗褐。頭には粗大の點刻多し。胸部は光澤を帯び、點刻は頭部にあるものよりは少なし。翅は透明、少しく黄色を帯び、脈及び縁紋は暗褐、前縁は黄色。基節、轉節及び腿節（末端を除き）は黒色。體長四分。此は札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道（札幌）。

(179) ホソヒラタハバチ 續千蟲四。八〇頁 (N. 834) (第八圖 (29) ♂)

學名 *Lyda sapporoensis* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 80, pl. XLV, f. 29, ♂, N. 834 (1912)

體は黒色、灰黄の短毛多し。觸角、前頭、額片、上唇、大腮、頬、後頭、前胸背後縁の兩側、翅底鱗、稜狀部、後稜狀部、腹部の大部及び脚は黄色。觸角の上方は少しく暗黄色を帯ぶ。頭には粗大の點刻多し。大腮の末端は暗褐、後頭に赤褐の二紋あり。胸部は滑澤にして、點刻を粗布す。翅は透明、籠甲様の黄色を帯び、縁紋及び外半の脈は暗褐、縁紋の内側は黄色。腹部は細長にして、平たく、初めの二腹節、第三節の基部、第四乃至第八節基部の兩側紋、第六乃至第八節の前縁は黒色、尙、腹面の兩側に黒點を連ぬ。基節の基部は黒色。體長三分五厘。此は札幌地方に産すれども餘り多からず。

分布——北海道(札幌)。

(180) カラフトヒラタハバチ 續千蟲四。八一頁 (N. 835) (第八圖 (30) ♀)

學名 *Lyda sachalinensis* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 81, pl. XLV, f. 30, ♀, N. 835 (1912)

體は黒色。各複眼前の一紋、後頭の二紋、頬、後頭縁の兩側、前胸背の後縁、翅底鱗、中胸背の三角紋、稜狀部、後稜狀部及び上唇の丁字紋は黄白。大腮、觸角、兩鬚、中胸背の兩側紋、後胸背の二紋、腹部及び脚は黄褐。觸角柄節の内側及び大腮中央の一紋は光澤ある黒色、頭には粗大の點刻多し。胸背の點刻は頭部にあるものよりは小にして、其の數少なし。翅は半透明、灰色を帯び、前縁は黄色を呈し、脈は黄褐、縁紋は暗褐。腹部は廣く、第一節の大部、第六、第七及び第八節の紋は暗褐。腹面は暗褐、接合部は黄色。基節、轉節及び腿節の縦條黒色、

但し基節及び轉節の末端は少しく黄色を帯ぶ。體長四分。此は樺太に産すれども餘り多からず。

分布——樺太。

(181) クロヒメバチ 續千蟲四。八一頁 (N. 836) (第九圖 (1) ♀)

學名 *Proctidunnon cognatorius* Sm.

昆蟲學上の地位、姬蜂科 (Ichneumonidae)。Thous. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 81, pl. XLVI, f. 1, ♀, N. 836 (1912)

體は黒色、暗褐の短毛多し。複眼の内側、觸角中央の下面、前胸背後縁の兩側紋、稜狀部及び脚轉節の末端は黄白。觸角の末端は暗褐。前頭に粗大の點刻多しと雖も、後頭には少なし。胸背の點刻は小にして、其の數多し。稜狀部は稍や四角形にして、少しく隆起す。後胸背の中央は滑澤、兩側は粗糙にして、網目様の隆起あり。翅は半透明、暗色にして、少しく紫色を帯び、脈は黒色。腹部には微小の點刻を密布す。脛節及び跗節は暗褐。體長九分五厘。此は東京地方に普通なり。

分布——北海道、本州、四國、九州。

(182) カハムラヒメバチ 續千蟲四。八二頁 (N. 837) (第九圖 (2) ♀)

學名 *Proctidunnon japonicus* Kriechb.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 82, pl. XLVI, f. 2, ♀, N. 837 (1912)

前種に酷似すれども、其の異なる處は左の如し。

- 一、體少しく小形なり。體長八分五厘。
- 二、複眼内側紋は長くして、其の後縁に達すれども、クロヒメバチにありては其の半に達するに過ぎず。額片の兩側に一黄白紋あり。
- 三、前胸背後縁の兩側、中胸背の二紋、後稜狀部及び後胸背の四紋（外側のものは小なり）は白色、稜狀部は前種よりも高し。
- 四、第一腹節の後縁及び第二節の兩側紋は黄白。
- 五、各基節の一紋、脛節基部の大半及び第一跗節は黄白。

此は東京地方に稀ならず。

分布——北海道、本州、九州、四國。

(183) アシマダラヒメバチ 續千蟲四。八三頁 (Z. 222) (第九圖 (3) (♂))

學名 *Proctichneumon maculifemoratus* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 83, pl. XLVI, f. 3, ♀, N. 838 (1912)

體黑色。觸角は暗褐。前頭(額片共)、複眼の内側、觸角基節の前方、前胸背後縁の兩側、翅底鱗、翅根の一紋、其の直下の一紋、稜狀部、後胸背の三紋、第一腹節の後縁、第二腹節後縁の兩側紋、前中腿節及び轉節の前方、脛節及び跗節の大部(末端を除き)、中腿節後方の二紋、後脛節の基半部は黄色。額片の兩側少しく列られ、其の部分暗色。前頭及び後頭に點刻あれども、頭頂には之れを缺く。胸背には點刻多し。翅は半透明、暗色を帯び、光線の工合にて少しく紫色を呈し、中央は淡色。腹部に點刻多く、第二腹節の兩側は凹陥し、其の部に十二三の

小縦隆あり。基節の外側紋は黄白。體長八分。此は札幌地方に稀ならず。

分布——北海道(札幌)。

(184) ムツボシヒメバチ 續千蟲四。八四頁 (Z. 223) (第九圖 (4) (♂))

學名 *Ichneumon 6-maculatus* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 84, pl. XLVI, f. 4, ♂, N. 839 (1912)

體は黑色、黄褐の短毛を裝ふ。觸角の中央紋、複眼内側、額片の兩側、前胸背後縁の兩側、翅底鱗の一紋、其の直下の一紋、稜狀部、第一、第二及び第三腹節の後縁兩側にある各一紋、脛節及び跗節の大部は黄色。大脛は赤褐、兩鬚及び觸角は暗褐。頭胸には點刻を密布すれども、頭頂には少なし。後胸背は粗體にして、網目様の隆起を具へ、兩側に各一箇の棘狀突起あり。翅は半透明、暗色を帯び、少しく紫色を混す。後翅にありては前翅より淡色。第一腹節の二縦隆高し。脚は黑色、脛節の大部は黄褐、前中兩腿節の下面に暗色の一縦條を具へ、後脛節の末端並に同跗節の大部は暗褐。體長八分。此は熊本地方に産すれども餘り多からず。

分布——九州(熊本、葉木)。

(185) イヨヒメバチ 續千蟲四。八六頁 (Z. 240) (第九圖 (5) (♀))

學名 *Proctichneumon satans* Kriechh.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 86, pl. XLVI, f. 5, ♀, N. 840 (1912)

體は黑色。觸角末端の二分の一及び兩鬚は暗褐。複眼の内側は黄色。頭及び胸背には點刻多しと雖も、頭頂に

は少なし。稜状部の二紋は黄褐にして、點刻を粗布す。後胸背に網状の隆起を装ふ。翅は半透明、暗色、光線の
工合にて少しく紫色を帯ぶ。第二腹節の兩側は滑澤にして、凹陥し、之れに小形の三隆條あり。脚は黒色、前中
兩轉節の末端は環状をなして黄白、同脛節及び跗節は暗褐。體長九分。此は伊豫地方に産すれども稀なり。茲に
畫けるものは荒川重理氏の採集に係るものなり。

分布——四國(伊豫)。

(186) **ホリシヤヒメバチ** 續千蟲四。八七頁 (Z. 211) (第九圖(6) (♀))

學名 *Proctichneumon horishanus* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 87, pl. XLVI, f. 6, ♀, N. 841 (1912)

體は黒色、灰黄及び暗褐の短毛多し。額片の二紋、複眼の内側及び之れに連續せる觸角柄節下の各一紋、兩鬚、
觸角の中央、前胸背の後縁、中胸背の二縱紋、翅底鱗、其の直下の一紋、稜状部、後稜状部、後胸背の二紋、第
一腹節の末端、第二腹節後縁の兩側紋及び中胸側片の一紋は黄色。頭及び胸背に點刻多し、但し頭頂には點刻少
なし。後胸背に網状隆起なし。翅は半透明、暗色にして、少しく藍色を帯ぶ。脚は黒色、基節の末端、轉節、中
脛節の中央紋、後脛節の中央、脛節の大部(兩端を除く)並に第一及び第二跗節(末端を除き)は黄色、但し後肢
にありては第三跗節の中央も亦黄色なり。體長八分。こは臺灣埔里社地方に産すれども稀なり。

分布——臺灣(埔里社)。

(187) **タイチュウヒメバチ** 續千蟲四。八八頁 (Z. 212) (第九圖(7) (♂))

學名 *Proctichneumon taihuenensis* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 88, pl. XLVI, f. 7, ♂, N. 842 (1912)

體は黒色、黄褐の短毛を装ふ。複眼の内側、前頭、額片、上唇、大腮、頰、兩鬚、觸角上面の中央、柄節の下
面、頸の一横紋、前胸背後縁の兩側、翅底鱗直下の一紋、稜状部、後稜状部、後胸背兩側の各一紋、第一腹節の
後縁及び中胸側片の一紋は黄色。頭頂に點刻少なしと雖も、前頭及び後頭には多し。中胸背の點刻は粗大、二縱
溝の終る處に各一個の黄色點あれども、餘り判然せず。尙、翅底鱗に同様の二紋並に中胸背の兩側に各一紋あり。
後胸背には低き網状の隆起を具へ、兩側に黄褐毛多し。翅は半透明、翅底の内半は黄色、外半は暗色、脈及び縁
紋は黒色、鏡胞及び其の内側の脈に灰白の部分あり。第二腹節前縁の中央に十二三條の細き縱隆あり。脚黒色、
基節下面の一紋(後基節にては上面にあり)、前中兩脛節の上面、後脛節の中央、全脛節並に跗節の大部は黄色、
前中兩脛節の下面に黒色の一縱條を具へ、後脛節の末端及び全跗節端は暗褐。體長九分。こは臺灣臺中地方に産
すれども稀なり。

分布——臺灣(臺中)。

(188) **ナカノヒメバチ** 續千蟲四。八九頁 (Z. 213) (第九圖(8) (♀))

學名 *Proctichneumon nakanoensis* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 89, pl. XLVI, f. 8, ♀, N. 843 (1912)

體は黒色、黄褐の短毛多し。複眼の内側、前頭及び額片の兩側、上唇、大腮、頰、兩鬚、觸角の中央、頸の一
横線、前胸背後縁の兩側、翅底鱗の一點、其の直下の一紋、中胸背の二縱條、稜状部、中胸側の一紋及び脚の大

部は黄色。大腮の末端は赤褐。中胸背の中央にある點刻は大にして、粗なり、後胸背には網狀の隆起ありて、各室にある紋條は大に其の趣を異にし、後方にあるものは粗糙なり。翅は半透明、鼈甲様の黄色を帯び、外縁は少しく暗色、脈は暗褐。第二腹節基部の中央に細き縦隆を並列す。前腿節の下面、中腿節下面の一紋、中肢基部の基部及び後基部の大部は暗褐、但し後基部の上面に一黄紋を裝ふ。體長一寸。こは東京地方に産すれども稀なるが如し。

分布——本州（東京、京都）、朝鮮（梵魚寺）、アムール。

(189) ハキヒメバチ 續千蟲四。九〇頁 (N. 814) (第九圖 (9) (♀))

學名 *Metopius hakiensis* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 90, pl. XLVI, f. 9, ♂, N. 814 (1912)

體は黑色、黄褐の短毛を裝ふ。前頭、複眼の内側、上唇、兩鬚、大腮の基部、觸角基部の下面、中胸背の一紋、第一腹節の二紋、第三腹節後縁の兩側紋、第四節の後縁、最終腹面節の後縁等は黄色。前頭は五角形にして、凹陷す。頭にある點刻は小なれども、胸背にあるものは大、腹節にあるものは更に一層大にして、後方に至るに従ひ小形となる。稜狀部の内側は龍骨狀に隆起し、後胸背に網狀の隆起ありて、粗糙なり。翅は稍々透明、暗黄を帯び、脈は暗褐、鏡胞は稍々稜狀をなす。脚は黄色、基節（下面の一紋は黄色）及び腿節の中央紋は黑色、脛、跗兩節の背部並に跗節端は暗褐。體長六分五厘。これは熊本地方に少なからず。

分布——九州（熊本葉木）。

(190) シロヲビヒメバチ 續千蟲四。九二頁 (N. 815) (第九圖 (10) (♂))

學名 *Spilichneumon oratorius* F.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 92, pl. XLVI, f. 10, ♂, N. 815 (1912)

體は黑色、黄白の短毛多し。前頭、額片、上唇、大腮、兩鬚、複眼の内側、頰の一紋、觸角上面の中央紋、柄節の下面、前胸背後縁の兩側、翅底鱗、其の直下の細き一縦紋、稜狀部、初三腹節の後縁及び尾端の一紋等は黄白。大腮の末端は赤褐。頭胸に點刻を密布し、其の内、頭頂にあるものは大なり。翅は半透明、少しく、暗黄を帯び、縁紋は暗褐、脈は黄褐。第三乃至第四腹面節の中央に高き縦隆を具へ、其の部分黄白。脚は黄褐、前中兩腿節の上面、同脛節内側の末端、後肢の基節、轉節、腿節及び脛節の大部は黑色、但し脛節の中央は黄白、尙、同第一跗節は暗黄なり。體長五分。これは何れの地方にも稀ならず。

分布——樺太、北海道、本州、四國、歐洲。

(191) スズキヒメバチ 續千蟲四。九三頁 (N. 816) (第九圖 (11) (♂))

學名 *Ctenichneumon suzuki* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 93, pl. XLVI, f. 11, ♂, N. 816 (1912)

體は黑色、黄白の短毛多し。複眼の内側、前頭の兩側、額片、兩鬚、觸角柄節の下面、前胸背後縁の兩側、翅底鱗、其の直下の一紋、稜狀部、後稜狀部及び各腹節の後縁は黄色。觸角は暗褐。頭胸には點刻多く、後頭に於ける點刻は小なり。後胸背には網狀の隆起あり。翅は半透明、少しく暗色を帯び、脈は暗褐。第一腹節の後縁に

は四個の縦隆ありて、兩側にあるものは短かく、後縁紋は中央にて突出し、第二及び第三腹節の後縁紋は太く、其の中央にて半圓形に列らる。脚は黒色、基節の一枚、腿節の末端、脛節及び跗節の大部は黄色、尙、後脛節の末端は暗褐。體長五分。この標本は京都産にして、鈴木元治郎氏の採集にかゝるものなり。

分布——本州(京都)。

(192) ナナホシヒメバチ 續千蟲四。九四頁 (N. 247) (第九圖 (12) (♂))

學名 *Coelichneumon 7-guttatus* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 94, pl. XLVI, f. 12, ♂, N. 847 (1912)

體は黒色、暗黄の短毛多し。複眼の内側、前頭及び額片の兩側紋、上唇、兩鬚、大腿の一枚、觸角柄節の下面、前胸背後縁の兩側基部、翅底鱗の一枚、其の直下の一縦條、稜狀部、第一腹節の後縁、第二、第三及び第四腹節の後縁の兩側紋等は黄白。觸角は暗褐。頭胸に點刻あれども、其の數、餘り多からず。後胸背は粗糙にして、網狀の隆起の外、横隆多し。第一腹節後縁の兩側及び第二節基部の兩側は凹陥す。翅は半透明、暗色を帯び、脈及び縁紋は暗褐。脚は黒色、前中兩基節の一枚、同脛節及び跗節の大部、前腿節の前面、中腿節の末端、後脛節基部の外側等は黄色。前中兩脛節の外側に暗褐條を具へ、中跗節の末端及び後跗節は暗褐。體長六分五厘。これは札幌地方に稀ならず。

分布——北海道(札幌)。

(193) ヒシモンヒメバチ 續千蟲四。九五頁 (N. 248) (第九圖 (13) (♀))

學名 *Tehnennon 6-maculatus* Mats. subsp. *angulosus* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 95, pl. XLVI, f. 13, ♀, N. 848 (1912)

體は黒色、黄褐の短毛多く、點刻を密布す。大腿の末端、兩鬚、觸角の中央等は黄褐。翅底鱗の一枚、其の直下の一縦條、稜狀部、第一及び第二腹節後縁の兩側紋及び尾端三節の各中央にある一枚等は黄色。翅は半透明、少しく暗色を帯び、脈は暗褐、縁紋は黄褐。後胸には網狀の隆起を具へ、中央室には縦隆起多し。第一腹節の斑紋は小形、第二節にあるものは大にして、三角形をなし、其の後縁は赤褐。脚は黒褐、前腿節前面の大部、前中兩脛節及び跗節並に中腿節の末端及び後脛節の中央は黄褐。體長五分。これは札幌地方に産すれど餘り多からず。

分布——北海道(札幌)。

(194) ニイクニヒメバチ 續千蟲四。九六頁 (N. 249) (第九圖 (14) (♀))

學名 *Amblyteles nitkunii* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 96, pl. XLVI, f. 14, ♀, N. 849 (1912)

體は黒色、黄褐の短毛多し。複眼の内側、觸角の中央、稜狀部、第二腹節の基部、第三節基部の二枚並に脛節の基部に近き一枚は黄色。上唇、兩鬚、翅底鱗、轉節及び跗節は赤褐。後胸背に網狀の隆起を裝ひ、下方の兩側に齒狀突起あり。翅は半透明、少しく暗褐を帯び、脈は暗褐、縁紋、前縁及び副中脈は黄褐。第一腹節の末端に多數の小縦隆を具へ、第二節紋は兩側にて太し。脚は黒色、脛節の末端に一齒狀突起を裝ふ。體長五分。これは岩代國新國氏の採集に係るものなり。

分布——本州(岩代)、朝鮮(濟州島)。

附言、第五十五圖(14)雄とあるは本種の雄にあらざして、次に挙げたる *Togea albofasciata* Uch. の雌なり。

異常形 **アイノヒメバチ** 續千蟲四。二二九頁 (N. 958) (第十八圖(15)♀)

學名 *Amblyteles nikunii* Mats. ab. *ainoius* Mats.

Ichneumon ainoius Mats., *Thous*, *Ins. Jap. Suppl.*, IV, p. 929, pl. LV, f. 15, ♀, N. 988 (1912)

原種と異なるところは第二腹節の基部にある黄褐紋の著しく小なるにあり。

分布——北海道、千島、本州。

(195) **シロスチトゲヒメバチ** 續千蟲四。九六頁 (N. 849) (第十八圖(14)♀)

學名 *Togea albofasciata* Uch.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。 *Thous*, *Ins. Jap. Suppl.*, IV, p. 96, pl. LV, f. 14, ♀ (non ♀) N. 849 (1912)

體は黒色。頭部は小點刻を密布し、後頭部は少しく狭ばまる。顔は白色、大腮は黒色、兩鬚は暗褐、觸角は黒色、中央に白色輪あり。胸部は黒色、光澤なく、中胸背は小點刻を密布し、後胸部に小皺を具へ、稜状部白色、突起し、雄にありては楔状をなして甚だしく突起す、後胸の區畫は判然し、中央の區畫は長方形をなし、後胸の後方兩側に一齒状突起を裝ふ。翅は透明、少しく暗色を帯び、縁紋は暗褐、鏡胞は五角形なれども、上邊は甚だしく短く、時に全くこれを缺くことあり。脚黒色、前肢の腿節、脛節及び跗節は何れも黄褐、中脛節及び跗節は暗赤色。腹部は長楕圓形、黒色、光澤なく、小點刻を裝ひ、第一及び第二節の後縁、末端の二節の全部は白色、産卵管は少しく腹部の先端より現はる。雄は雌に似るも、頭部及び胸部に白色部多し。體長五分。

分布——北海道、本州、四國。

(196) **トゲクロヒメバチ** 續千蟲四。九七頁 (N. 850) (第九圖(15)♀)

學名 *Stenichneumon posticalis* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。 *Thous*, *Ins. Jap. Suppl.*, IV, p. 97, pl. XLVI, f. 15, ♀, N. 850 (1912)

體は黒色、黄白の短毛多し。大腮の末端及び兩鬚は赤褐、觸角の中央及び複眼内側中央の一縦紋は黄白、觸角の末端は暗褐。後胸背には縮刻多く、網状の隆起を具へ、後方の兩側に低き一齒状突起を裝ふ。翅は半透明、少しく暗色を帯び、脈は暗褐、縁紋は黄褐。第一及び第二腹節の後縁兩側に各一個の小黄白紋を具へ、第四乃至第七節の後縁の中央に各一個の黄白紋を裝ひ、第四乃至第六節にあるものは楕圓形をなし、各面節の後縁は赤褐。脚は黒色、前中兩腿節前方の末端、同脛節及び跗節(外側は暗色)は黄色、後脛節及び跗節は赤褐、距は黄褐。體長五分。こは札幌地方に稀ならず。

分布——北海道(札幌)、本州(岩手)、朝鮮(濟州島)。

異常形 **カバイロヒメバチ** 續千蟲四。二二一頁 (N. 990) (第十八圖(17)♀)

學名 *Stenichneumon posticalis* Mats. ab. *versicolor* Mats.

Thous, *Ins. Jap. Suppl.*, IV, p. 231, pl. LV, f. 17, ♂, N. 990 (1912)

本種と異なるところは體色全部暗褐なるにあり。

(197) ツマダクロホソヒメバチ 續千蟲四。九九頁 (N. 852) (第九圖 (16) (♂) 第十圖 (6) (♀))

學名 Ichneumon sapporoensis Ash.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 99, pl. XLVI, f. 16, ♂, pl. XLVII, f. 6, ♀, N. 851 (1912)

體は黒色。複眼の内側、前頭、額片、上唇、觸角(背部少しく褐色を帯ぶ)、兩鬚、大腿基部の一紋、第一腹節の末端、第二、第三兩腹節、第四腹節の基部等は黄褐。前胸背の兩側、翅底鱗、其の直下の一紋及び稜狀部は黄色。翅は半透明、少しく暗色を帯び、脈は暗褐、綠紋は黄褐。脚は黄褐、前中兩腿節の下方、轉節の基部及び基部の大部は暗褐、後肢の基節、轉節の基部、腿節(兩端を除き)及び脛節の末端は暗褐。雌にありては觸角は暗色、複眼の周圍、頬及び第一腹節は黄色。後脛節の末端も黄色なり。體長五分一六分。こは札幌地方に普通なれども、雌は稀なり。

分布——北海道(札幌)。

(198) マダラヒメバチ 續千蟲四。九九頁 (N. 853) (第九圖 (17) (♀))

學名 Ichneumon generosus Sm.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 99, pl. XLVI, f. 17, ♀, N. 852 (1912)

體は黒色。觸角、翅底鱗直下の一紋、稜狀部、第三腹節の後縁及び第六、第七の兩節は黄色。上唇、大腿の末端、第二腹節の腹面及び脚の大部は黄褐。觸角の末端は常に螺旋狀に捲き、少しく暗色を帯ぶ。翅は半透明、少

しく暗色を帯び、脈及び綠紋は黄褐。後胸背は粗糙にして、網狀の隆起を裝ふ。第一腹節の後縁に細き縦隆多し。腿節及び轉節の基部は暗褐。體長五分。こは本邦何れの地方にも普通なり。

分布——北海道、本州、四國、九州。

(199) カコガハヒメバチ 續千蟲四。一〇〇頁 (N. 854) (第九圖 (18) (♀))

學名 Melopinus rufus Gmn.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 100, pl. XLVI, f. 18, ♀, N. 853 (1912)

體は暗褐、大形の點刻多し。前頭、複眼の内側、兩鬚、翅底鱗直下の一紋、中胸側の大紋、稜狀部の末端及び其の基部の兩側、後稜狀部、後胸背の二小紋及び各腹節の後縁等は黄色。觸角、額片、上唇、大腿、前胸背の兩側、翅底鱗、中胸側黄紋の周圍、稜狀部の基部、第五、第六及び第七腹節の後縁(但し黄色部の前縁)並に脚の大部は赤褐。前頭は大にして、稍々五角形を呈し、中央少しく凹陥す。下唇鬚の第二節は球狀に膨大す。稜狀部の兩側は龍骨狀に隆起し、其の兩側端は棘狀をなす。翅は半透明、少しく暗色を帯び、末端は暗色、脈は暗褐、鏡胞は稍や稜狀形をなす。腹部は無柄にして、第一乃至第四節の後縁にある黄色部廣く、以下各節後縁の黄色部は細く、前中兩腿節の末端並に同脛節及び跗節の大部は黄色。體長四分。こは播州地方に普通なり。

分布——本州(播州)、朝鮮、臺灣、印度。

(200) オホツマダクロヒメバチ 續千蟲四。一〇一頁 (N. 854) (第十圖 (1) (♂))

學名 Proichneumon takasagoensis Mats.

昆蟲學上の地位、姫蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 101, pl. XLVII, f. 1, ♂, N. 854 (1912)

體は黒色、暗褐の短毛多し。前頭、額片、上唇、大腮の一枚、兩鬚及び觸角柄節前方の一枚は黄色。觸角暗褐。稜狀部に黄褐紋を裝ふ。後胸背は粗糙にして、中央に二縱隆を具へ、判然せる網狀の隆起を有せず。翅は半透明、淡き暗黄褐にして、少しく紫色を帯び、脈及び縁紋は黒色。第一腹節の後縁、第二、第三節並に第四節の前縁は黄褐。脚は黒色、前肢基節及び同轉節の末端並に跗節は黄色、脛節及び中肢の跗節は黄褐、後脛節の末端は黒褐、後肢の跗節は暗褐。體長一寸。こは播州地方に多し。

分布——本州(播州)。

(201) エゾオホヒメバチ 續千蟲四。一〇二頁 (N. 855) (第十圖) (♂) (5) (♀)

學名 *Ichneumon primatorius* Först. subsp. grandis Ash.

昆蟲學上の地位、姫蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 102, pl. XLVII, f. 2, ♂, N. 855, (1912); p. 105, pl. XLVII, f. 5, ♀, N. 858 (1912)

體は黒色、黄褐の短毛多し。前頭、額片(前縁は黒色)、上唇、觸角柄節の前紋、下唇鬚(基部を除き)、前胸背の兩側、翅底鱗、其の直下の一枚、翅根の一枚、稜狀部、第一腹節末端の兩側紋、第二及び第三腹節並に脚の大部は黄色。稜狀部は隆起し、點刻を粗布し、後胸背の縮紋は前種に酷似し、兩側に齒狀突起あり。翅は半透明、籠甲様の黄色を帯び、縁紋及び脈は暗褐。基節、轉節、脛節及び脛節の末端黒色、跗節端は暗褐、基節に黄紋ありて、後基節にあるものは大なり。體長一寸五分。こは札幌地方に普通なり。

雌にありては觸角の中央部に廣き黄帯を具へ、尙第五、第六、第七腹節の背部にも黄紋を有す。

分布——樺太、北海道、本州、歐洲。

(202) シラキヒメバチ 續千蟲四。一〇三頁 (N. 856) (第十圖) (3) (♀)

學名 *Tregus arrogans* Sm. subsp. shirakii Mats.

昆蟲學上の地位、姫蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 103, pl. XLVII, f. 3, ♀, N. 856 (1912)

體は黒色。頭、複眼の後縁及び後頭は暗褐。觸角基部の三分の二、前中の兩胸背、翅底鱗、後稜狀部、第一及び第二腹節の後縁、各腹面節の後縁及び兩側は黄褐。觸角の末端及び柄節の上縁は暗褐。稜狀部は三稜形をなして高く突起す、後胸背に不正の隆起あれども、網狀をなさず。翅は半透明、籠甲様の黄褐を帯び、翅端は暗色、脈及び縁紋は黄褐。脚は暗褐、轉節の末端、脛節(後脛節を除き)、脛節及び跗節は黄褐、中脛節の後半は暗褐。こは本邦に於ける大形の姫蜂にして、其の數餘り多からず。體長一寸三分—一寸七分。

分布——本州、四國。

(203) タカノヒメバチ 續千蟲四。一〇四頁 (N. 857) (第十圖) (4) (♀)

學名 *Dimetha tibialis* Gann.

昆蟲學上の地位、姫蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 104, pl. XLVII, f. 4, ♀, N. 857 (1912)

體は黄褐。大腮の末端及び後頭は少しく暗色を帯ぶ、觸角は柄節を除き暗褐。稜狀部の兩側は隆起す、後胸背に不正なる隆起ありて、網狀をなす。翅は半透明、籠甲様の黄褐を帯び、末端は暗色、脈及び縁紋は黄褐。第三腹節の前縁の二紋及び尾端の四節は黒色。脚は黄褐、後脛節の末端及び同跗節は第一節の基部を除き暗褐。體長

八分四厘。こは臺灣に産すれども稀なるが如し。こは高野鷹藏氏の採集に係るものなり。
分布——臺灣(埔里社)。

(204) ナイプチヒメバチ 續千蟲四。一〇六頁 (N. 859) (第十圖 (7) (♂))

學名 *Amblyteles anatorius* Müll.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 106, pl. XLVII, f. 7, ♂ (non ♀), N. 859 (1912)

體は黒色、粗大の點刻を裝ふ。觸角柄節の前方、前頭、額片(三紋及び前縁は黒色)、上唇、大腮(末端は暗褐)、兩鬚、頭、前胸背、後縁の兩側、翅底鱗、其の直下の一紋、稜狀部、第一腹節の後縁、第二及び第三腹節、第四、第五及び第六腹節の後縁(何れも細く)等は黄色。後胸背には高き網狀の隆起を裝ふ。翅は半透明、龜甲様の黄褐を帯び、脈及び縁紋は黄褐。脚は黒色、脛節及び跗節、前中の腿節(基部を除き)、脛節及び跗節、第二轉節等は黄色。こは樺太地方に稀ならず。體長六分—八分。

分布——樺太。

(205) ハキトガリヒメバチ 續千蟲四。一〇六頁 (N. 860) (第十圖 (8) (♀))

學名 *Trogus exultatorius* Panz.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 106, pl. XLVII, f. 8, ♀, N. 860 (1912)

體は黒色、微小の點刻を密布し、黄褐の短毛を裝ふ。複眼の周圍、前頭、額片、上唇、大腮(末端暗褐)、兩

鬚、觸角(末端の三分の一は暗褐)、前胸背後縁の兩側、翅底鱗、其の直下の一紋、中胸背の二縱條、稜狀部、後稜狀部は黄色。初の三腹節の後縁は廣く黄褐。稜狀部は三形状をなして甚しく突出す。後胸背の中央に二縱隆を具へ、其の兩側に網狀の隆起あり。翅は半透明、龜甲様の黄色を帯び、末端及び脈は暗褐、翅底、前縁、副中脈及び縁紋は黄色。初めの三腹節は其の基部にて暗褐を呈し、第二及び第三腹節にある紋は中央にて少しく三角形に突出す、脚は黄色、基節、後腿節の末端の三分の二及び同脛節の末端は暗褐。體長一寸三分。こは熊本地方に多けれども、他には餘り多からず。

分布——本州、四國、九州。

(206) オホモリヒメバチ 續千蟲四。一〇七頁 (N. 861) (第十圖 (9) (♀))

學名 *Amblyteles onori* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 107, pl. XLVII, f. 9, ♀, N. 861 (1912)

體は黒色、點刻を密布す。複眼の内側、觸角の中央部、稜狀部並に第二、第三及び第四腹節の基部は黄色。額片の兩側、上唇、大腮、兩鬚、觸角の柄節、翅底鱗等は黄褐。後胸背に網狀の隆起を具へ、兩側に一齒狀突起あり。翅は半透明、少しく暗褐を帯ぶ。第二轉節、腿節の末端、脛節及び跗節は黄褐、後脛節の末端は褐色。體長三分。こはニイクニヒメバチに酷似すれども、少しく太く、第二腹節に黄帯を有するを以つて容易に區別することを得べし。こは大森順三博士の盛岡にて捕獲せるものなり。

分布——本州(盛岡)。

(207) **モイハヒメバチ** 續千蟲四。一〇八頁 (N. 863) (第十圖 (10) (♀))

學名 *Protichneumon moivannus* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 108, pl. XLVII, f. 10, ♀, N. 863 (1912)

體は黒色、黄褐の短毛多く、粗大の點刻を密布す。複眼の内側、頰の一紋、額片の兩側紋、上唇、觸角の中央、前胸背後縁の兩側、翅底鱗、その直下の一縱隆、中胸背中央の二縱紋、稜狀部、中胸側の一紋等は黄色。第二及び第三腹節竝に脚の大部は黄褐。後胸背には縱隆ありて、稍や網狀をなす。翅は半透明、少しく鼈甲様の黄褐を帯び、脈及び縁紋は暗褐、第二及び第三腹節の基部は少しく暗色を呈し、第二、第三腹面節竝に第四腹面節の中央紋は黄褐。脚基節暗褐にして、之れに黄紋を裝ひ、轉節は黄色、其の下面に一褐紋あり。體長八分。こは札幌及び定山溪に産すれども稀なり。

分布——北海道(札幌、定山溪)。

(208) **アゲハヒメバチ** 續千蟲四。一〇九頁 (N. 863) (第十圖 (11) (♀))

學名 *Dinokonus maculata* Tosq.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 109, pl. XLVII, f. 11, ♀, N. 863 (1912)

體は黄褐。頭頂、後頭、中胸背の三縱條紋(中央紋長し)、後胸背、腹部(初めの二節黄褐)、中胸片及び中胸側の後縁等は黄褐。觸角の末端は少しく暗色を帯ぶ。稜狀部は三稜形をなして突出す。後胸背には網狀の縱起あり。翅は半透明、鼈甲様の黄色を帯び、外縁は暗色、各腹節の接合部は深く緊縮し、第二節の中央に一縱隆を具へ、全

體に小縱隆多し。脚は黄色、後基節及び同腿節は黒褐。こはアゲハの幼蟲に寄生す。本邦に普通なり。體長六分。分布——樺太、北海道、本州、四國、九州、アムール。

(209) **コンボウアメバチ** 續千蟲四。一一〇頁 (N. 864) (第十圖 (12) (♀))

學名 *Acanthostoma insidiator* Sm.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 110, pl. XLVII, f. 12, ♀, N. 864 (1912)

體は黒色。複眼の内側、頰、額片、上唇、大腿、兩鬚及び觸角は黄色。觸角基部、翅底鱗、腹部(側扁にして、棍棒狀を呈し、末端は暗褐)、第二(背部は黒色)、第三(兩側紋は暗褐)、第四節の前縁及び尾節竝に全腹面は黄褐。後胸背に粗大の縮刻多し。翅は半透明、少しく暗黄を帯び、脈暗褐、縁紋は黄褐。脚は黄色、中肢基節の末端、後肢の基節、第一轉節、腿節及び脛節末端の半部は暗褐。體長一寸四分。こは樟蠶に寄生す。

分布——北海道、本州、四國、九州。

(210) **ムラサキウスヒメバチ** 續千蟲四。一一一頁 (N. 865) (第十圖 (13) (♀))

學名 *Thyreodon purpurascens* Sm.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 111, pl. XLVII, f. 13, ♀, N. 865 (1912)

體は黒色、少しく紫藍色を帯び、粗大の點刻多し。大腿の末端及び兩鬚は黄褐。觸角は黄赤色、柄節は黒色。中胸側に短かき縱溝列あり。後胸背に粗大の縮刻多し。翅は半透明、暗黄を帯び、末端は暗褐。腹部は側扁にして、棍棒狀を呈し、第二腹節の腹面及び第三腹節の基節は赤褐、尾端は截斷狀に終る。脚は黒色、腿節の末端は

少しく赤褐を帯ぶ。體長一寸二分。

分布——北海道、本州、四國、朝鮮、支那。

(211) ツマダロベツカフヒメバチ 續千蟲四。一二頁 (N. 866) (第十圖 (14) ♀)

學名 *Opheltes glaucopterus* L. subsp. *apicalis* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 111, pl. XLVII, f. 14, ♀, N. 866 (1912)

體は黒色。頭、觸角、翅底鱗、其の直下の一縦紋、稜狀部、初の三腹節及び脚の大部は黄褐。後頭及び大腿の末端は暗褐。稜狀部は少しく突起す。後胸背に縦隆ありて、兩側に一齒狀突起を裝ふ。翅は半透明、鼈甲様の黄色を帯び、脈及び縁紋は黄褐、脈に暗褐を呈するものあり。腹部は側扁にして、棍棒狀を呈し、末端の三節は黒色、産卵管は黄褐。基節は暗褐、其の末端は黄褐。體長八分。こは松姑蝮及び葉蜂の幼蟲に寄生す。

分布——樺太、北海道、千島、本州、九州、對馬。

(212) オホアメバチ 續千蟲四。一一二頁 (N. 867) (第十一圖 (1) ♀)

學名 *Ophion luteus* L.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 112, pl. XLVIII, f. 1, ♀, N. 867 (1912)

體は淡き黄褐。頭は黄色、頭頂は黄褐、大腿の末端は暗褐。中胸背に黄色の二縦條を具へ、點刻を缺く、後胸背に隆起あれども、網狀をなさず。翅は半透明、少しく灰色を帯び、脈は暗褐、縁紋は黄色。腹柄は細くして黄色、腹部は側扁にして、末端は截斷狀に終る。脚は細長にして、全部黄褐、爪は暗褐。體長七分。こは本邦最も普通

なる種類にして、夜盜蟲に寄生するを以て有益なり。本種はアメバチに酷似するも、前翅に鏡胞なきを以つて容易に區別することを得べし。

分布——樺太、千島、北海道、本州、四國、九州、沖縄、朝鮮、臺灣、支那、印度、西比利亞、歐洲。

(213) モンククロアメバチ 續千蟲四。一一三頁 (N. 868) (第十一圖 (2) ♀)

學名 *Dicamptus nigropictus* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 113, pl. XLVIII, f. 2, ♀, N. 868 (1912)

オホアメバチ (212) に酷似するも、其の異なる所は左の如し。

- 一、形遙かに大なる事、體長一寸。
 - 二、中胸背は淡色にして、黄色の縦條を有せざること。
 - 三、後胸背に於ける隆起は判然せざること。
 - 四、第三、第四、第五腹節の背上に暗色の各一紋ありて、其の内第三節にあるものは大にして、判然す。
 - 五、爪は黄褐、末端少しく暗色を帯び、櫛齒狀の小齒列は長し。
- 分布——本州、沖縄、朝鮮。

(214) スキモンアメバチ 續千蟲四。一一四頁 (N. 869) (第十一圖 (3) ♀)

學名 *Henicospilus semiopacus* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 114, pl. XLVIII, f. 3, ♀, N. 869 (1912)

體は暗黄。觸角は體よりも長し、大腮の末端は暗褐、後頭の兩側に各一個の暗色紋あり。前胸の側片、中胸背の三縱條(但し中央紋は前縁より中央に達し、兩側にあるものは翅底鱗の少しく前方より始まり後縁に達す)、中胸、後胸片の各一紋、中後胸片、後胸背後縁の一紋並に第一及び第二腹節後縁の大部黒色、殘餘の各腹節は暗褐にして、第三腹節の基部及び第四腹節の一紋は暗黄、第四節の基部にある一紋は半透明にして、灰白。翅は半透明にして、灰白を帯び、脈は暗褐、縁紋及び前縁は暗黄にして、前者の中央は少しく暗色を帯ぶ。脚は暗黄、後基節は黒色、同腿節の大部及び爪の末端は暗褐。體長七分。こは臺灣に産するも少なし。

分布——臺灣(魚池)、印度。

(215) **ア メ バ チ** (飴蜂) 續千蟲四。一一六頁 (N. 871) (第十一圖 (5) (♀) (4) (♂))

學名 *Paniscus ocellaris* Thomson.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 115, pl. XLVIII, f. 4, ♀, N. 870 (1912)

體は暗黄。頭は黄色、兩鬚及び觸角は暗黄、大腮の末端は暗褐。後胸背の兩側に低き一齒狀突起あり。翅は半透明、少しく灰色を帯び、翅底の半部は少しく黄色。爪にある櫛齒狀の小齒は暗褐。體長六分。こは本邦何れの地方にも普通なり。夜盜蟲其の他の蝟蠊に寄生す。

分布——樺太、千島、北海道、本州、四國、九州、沖縄、臺灣、朝鮮、支那、印度、西比利亞、歐洲。

(216) **カラフトコンボウアメバチ** 續千蟲四。一一六頁 (N. 872) (第十一圖 (6) (♀))

學名 *Schizoloma amictum* F.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 116, pl. XLVIII, f. 6, ♀, N. 873 (1912)

體は黒色。暗黄の短毛多く、粗大の點刻を密布す。觸角、腹部及び脚は赤褐。但し觸角の末端と跗節は黄色。前頭(額片上唇共)及び大腮は黄色、後者の末端は暗褐。後胸背は粗糙にして、網狀の隆起あり。翅は半透明、籠甲様の黄褐を帯び、脈は暗褐、縁紋は暗黄。腹部細く、最後の三節は稍や同幅。中肢の跗節端は黄褐、後脛節の末端は暗褐。體長八分。こは本邦に普通なり。

分布——樺太、千島、北海道、本州、四國、九州、朝鮮、臺灣、印度、西比利亞、歐洲。

(217) **ヨコヒラヒメバチ** 續千蟲四。一一七頁 (N. 873) (第十一圖 (7) (♀))

學名 *Campoplex matsunuræ* Uel.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 117, pl. XLVIII, f. 7, ♀, N. 873 (1912)

體は黒色。灰白の短毛多く、粗大の點刻を密布す。大腮(基部を除き)及び兩鬚は黄色。翅底鱗は黄褐、後胸背には網狀の隆起なし。翅は半透明、暗黄を帯び、縁紋及び脈は暗褐色。腹部は側扁にして、第一節は光澤ある黒色、第二、第三及び第四腹節は赤褐、各節の背部は暗褐、第五、第六及び第七節の大部は暗褐、第五節の前後縁は黄褐。脚は黄色、基節(前肢基節の末端を除き)、中後の轉節及び後肢の腿節は暗褐、中肢腿節の基部、後脛節の兩端及び中後の兩跗節は黄褐。體長六分。こは札幌地方に普通なり。

分布——北海道、本州。

(218) **チャウザンコンボウアメバチ** 續千蟲四。一一八頁 (N. 874) (第十一圖 (8) (♀))

學名 *Aphanistes jozankeanus* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 118, pl. XLVIII, f. 8, ♀, N. 874 (1912)

體は黒色、黄白の短毛多し。觸角は暗黄、第一節は黄色、第二及び第三節の背部は暗褐。頭頂兩側の一紋、前頭、頭片、上唇、大腮、頬及び脚の大部は黄色。前胸後縁の兩側、翅底鱗、後胸背の末端並に腹部は黄褐。翅は半透明、暗黄を帯び、脈は暗褐、縁紋は黄褐。後胸背は粗糙にして、小網目状の隆起多し。腹部甚だ細く、第二、第五及び第六腹節の背部は暗褐、産卵管は黄褐にして、割合に長し。後肢(跗節を除き)は暗黄、同基節及び脛節の末端は暗色。體長五分。こはカラフトコンボウアメバチに酷似すれども、形小にして、頬黄色なるを以つて容易に區別することを得べし。

分布——北海道(定山溪、札幌)。

(219) ツマグロヒラタヒメバチ 續千蟲四。〇一一九頁 (N. 875) (第十一圖) (♀)
(第十三圖) (3) (♀)

學名 *Coleocentrus extiator* Pol.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 119, pl. XLVIII, f. 9, N. 875 (1912);

(Coleocentrus sapporensis Mats., Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 142, pl. LI, f. 3, ♀, N. 900 (1912))

體は黒色。觸角は暗黄、末端及び柄節は暗色を帯ぶ、前頭の二縦條及び兩鬚は黄色。後胸背には大なる網状の隆起あり。翅は半透明、脈及び縁紋は黄褐、前縁は暗褐。腹部は黒色、腹面、第一節の後縁、第二、第三及び第四節、第五以下各節の後縁(細く)及び尾節は赤黄。脚は赤黄、跗節は黄色、中後の基節は黒色、後腿節の中央は

暗褐。こは札幌地方に稀ならず。

分布——北海道(札幌)。

(220) スズキコバナアメバチ 續千蟲四。一一〇頁 (N. 876) (第十一圖) (10) (♀)

學名 *Agrypon suzukii* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 120, pl. XLVIII, f. 10, ♀, N. 876 (1912)

體は淡黄褐。前頭、額片、上唇、大腮(末端暗褐)、稜状部及び胸面は黄色。頭頂及び中胸背の太き縦條は暗褐。後胸背に網状の隆起なし。翅は小形にして、半透明、少しく暗黄を帯び、脈及び縁紋は黄褐。腹部は頗る細く、産卵管割合に長く、尾端節より少しく短かし。脚は淡黄褐、跗節端は少しく暗褐を帯ぶ。體長五分。こは鈴木元次郎氏の採集に係るものなり。

分布——本州(京都)。

(221) アラカハコマユバチ 續千蟲四。一一二頁 (N. 877) (第十二圖) (1) (♀)

學名 *Eurypterna ankawano* Mats.

昆蟲學上の地位、小爾蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 121, pl. XLIX, f. 1, ♀, N. 877 (1912)

體は光澤ある黒色。額片、上唇、大腮、兩鬚、觸角の柄節、前胸背前縁の二三角紋、稜状部、後稜状部及び中胸側の大紋は黄色。胸面、腹部並に脚は黄褐。觸角は細く、額片は延長し、中央に縦隆あり。胸部は稍や球形をなす。翅は半透明、少しく灰黄色を帯び、脈は暗褐、縁紋は黄褐。腹部細く、末端棍棒状をなし、黒褐、後肢は

延長し、脛節及び第一跗節は側扁にして、膨大す。體長四分。こは一見コシホリアブに似たる種類にして、蟻の巢に寄生す。こは札幌地方にて十月下旬荒川重理氏の採集せるものなり。

分布——北海道(札幌)。

(222) **キアシヲナガヒメバチ** 續千蟲四。一一二頁 (N. 878) (第十二圖 (2) (♀))

學名 *Aeroricnus ambulatior* Sm.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 122, pl. XLIX, f. 2, ♀, N. 878 (1912)

體は黒色。複眼の内側、觸角柄節の前面、中央の一紋、下面、兩鬚、翅底鱗、稜狀部(後縁を除き)、後稜狀部、後胸背後方の二紋等は黄色。觸角は暗褐、各節の末端黄褐。後胸背の基部に網目状の一横列あり。翅は半透明、籠甲様の暗黄を帯び、脈及び縁紋は黒褐、前縁の基部は黄褐、外縁は少しく暗色を帯ぶ。第一腹節は細くして、光澤を帯び、各節の後縁は赤褐。脚は黄褐、基節及び轉節は黒色、後腿節及び同脛節の末端は黒褐、前中の脛節は黄色。體長六分。産卵管は三分。

分布——本州、四國、九州、朝鮮、滿洲。

(223) **モイハケンヲナガバチ** 續千蟲四。一一三頁 (N. 879) (第十二圖 (3) (♀))

學名 *Arotes moiwanus* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 123, pl. XLIX, f. 3, ♀, N. 879 (1912)

體は黒色、黄白の短毛多し。複眼の内側紋、額片の兩側紋、上唇、翅底鱗、其の直下の一紋、稜狀部、後稜狀

部、後胸背後方の二紋、各腹節の後縁及び中肢の轉節は黄色。大腿の中央、觸角の下面、兩鬚、前中の兩肢、後轉節、同脛節の基部は黄褐。頭頂及び胸背には小點刻を粗布す。後胸背には網狀の隆起あり。翅は稍や透明、少しく黄色を帯び、脈及び縁紋は暗褐、翅底、縁紋の内側紋及び後翅の前縁は暗黄。最後の腹面節長くして、尖り、暗褐、産卵管は體長よりも少しく長し、中肢の基節及び後肢は黒褐、後跗節の末端は黄白。體長五分五厘。産卵管六分。こは札幌地方に産すれども餘り多からず。

分布——北海道(札幌)。

(224) **ヒゲナガヒメバチ** 續千蟲四。一一四頁 (N. 880) (第十二圖 (4) (♀))

學名 *Exetastes ichneumoniformis* Grav.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 124, pl. XLIX, f. 4, ♀, N. 880 (1912)

體は黒色、暗黄の短毛多し。觸角の中央、翅底鱗、稜狀部、第一及び第二腹節並に脚(基節を除き)は淡黄褐。觸角は體より長く、末端は細し。胸背に粗大の點刻を密布し、稜狀部稍や球形に隆起す、後胸背に大形の點刻多く、網狀の隆起なし。翅は半透明、少しく暗黄色を帯び、脈及び縁紋は淡黄褐。腹部は光澤を帯び、第一節に點刻多く、第四以下各節の後縁は細く黄褐。後肢の轉節及び腿節の大部黒褐。體長五分。こは札幌地方に産す。

分布——北海道(札幌)。

(225) **シンシヤツヤヒメバチ** 續千蟲四。一一五頁 (N. 881) (第十二圖 (5) (♀))

學名 *Lactolus shinsuanus* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 125, pl. XLIX, f. 5, ♀, N. 881 (1912)

體は黒色、光澤を帯ぶ。觸角の中央(第八乃至第十四節)は白色。複眼の内側、前頭、額片(基部を除き)、上唇(末端の中央を除き)、大腮、兩鬚、肩部、翅底鱗(後縁を除き)、其の直下の一紋、稜狀部、其の前方の二紋、後稜狀部、其の兩側の一紋、後胸背の二紋及び其の兩側の一紋、中胸側片の二紋、各腹節の後縁及び腹面等は黄色。後胸背には多數の横皺を裝ひ、縦隆を缺き、白色の細毛多し。翅は半透明、少しく暗黄を帯び、脈及び縁紋は黒褐、鏡胞は微小にして、稍や長方形をなす。脚は黄褐、前中兩肢の基節及び轉節は黄白、同跗節は少しく暗色を帯び、後基節は黄色なれども、これに暗褐の大紋を裝ひ、同脛節及び脛節の末端、轉節並に跗節の兩端は暗褐。體長五分五厘。産卵管三分。こは臺灣に産すれども、多からざるが如し。

分布——臺灣(新社)。

(226) **コヲナガバチ** 續千蟲四。一二六頁 (Z. 882) (第十二圖 (6) (♀))

學名 *Glypta elypta* Ash.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 126, pl. XLIX, f. 6, ♀, N. 882 (1912)

體は黒色、光澤を缺き、灰白の短毛を裝ひ、微小の點刻を粗布す。額片及び上唇は黄褐、兩鬚は淡黄。翅底鱗は黄色。翅は半透明、少しく暗黄を帯び、脈及び縁紋は暗褐、翅底は黄色。腹部に凹凸多く、産卵管は約體の一
倍半あり。脚は黄褐、後肢は暗褐、但し基節の基部及び下面、第二轉節、脛節並に腿節の基部は黄褐。體長三分六厘。産卵管五分。こは札幌地方に普通なり。

分布——北海道(札幌)。

(227) **モイハマルツヲナガバチ** 續千蟲四。一二七頁 (Z. 883) (第十二圖 (7) (♀))

學名 *Xylonomus sepiultralis* Holmgr.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 127, pl. XLIX, f. 7, ♀, N. 883 (1912)

體は黒色。觸角の中央(第一節乃至第十四節)、複眼内側の各一紋、脛節の基部及び後肢の第二、第三及び第四跗節は黄白。頭は大にして、稍や球形に近く、小腮鬚長く、額片凹陥す。胸背に皺刻多し。後胸背には稍や網狀の隆起ありて、後縁の兩側には一齒狀突起あり。翅は半透明、少しく灰色を帯び、縁紋及び脈は暗褐、縁紋下には淡暗き雲狀紋を具へ、縁紋の内側は一黄白紋を裝ふ。腹部は割合に短く、白色の短毛多く、第一節には低き二縦隆を具ふ。前中兩脛節は多少膨大し、其の基部は緊縮す。體長五分。産卵管三分五厘。こは札幌地方に産すれども餘り多からず。

分布——北海道(札幌)。

(228) **オホマルツヲナガバチ** 續千蟲四。一二九頁 (Z. 885) (第十二圖 (9) (♀))

學名 *Xylonomus jezoensis* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 129, pl. XLIX, f. 9, ♀, N. 885 (1912)

前種に酷似すれども、體形遙かに大なり。體は黒色。觸角の末端に近き三四節は黄白。兩鬚、翅底鱗、前中兩肢及び腹面等は淡黄褐。頭は稍や球形にして、頭頂に點刻を缺き、胸背には粗大の點刻多く、稜狀部の前方は凹

陷す。後胸背は網狀の隆起を具へ、兩側に各一個の齒狀突起あり。翅は稍や透明、少しく黄色を帯び、脈及び縁紋は暗褐、縁紋の内側及び其の後縁は黄褐。腹部は長さ頭胸の二倍ありて、細長く、第一及び第二節の後縁は其中央にて黄褐、第二乃至第七節の後縁は細く黄白。産卵管は體長より少しく長し。後肢は黒褐、基節及び轉節の末端は黄褐、脛節及び跗節は暗褐、黄褐の短毛多し。體長八分。こは札幌地方に産すれども餘り多からず。

分布——北海道(札幌)。

(229) **ホソマルツヲナガバチ** (續千蟲四。一二八頁 (N. 884) (第十二圖 (8) (♀))

學名 *Xylonomus jezoensis* Mats. subsp. *lineatus* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 128, pl. XLIX, f. 8, ♀, N. 884 (1912)

體は黒色、前種に似れども、遙かに細長なり。頭稍や球形、光澤を帯ぶ。翅は鼈甲様の暗黄色、脈及び縁紋は黄褐。腹部は頭胸を合したるものより遙かに長く、第六、第七及び第八節の後縁は細く灰白。前中兩肢は赤黄、後肢は暗褐、但し基部は黒色、第二轉節は黄褐。體長六分。産卵管七分。こは札幌地方に産する普通種なり。

分布——北海道(札幌)。

(230) **コクロヲナガヒメバチ** (續千蟲四。一三〇頁 (N. 886) (第十二圖 (10) (♀))

學名 *Mesostenus tarsalis* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 130, pl. XLIX, f. 10, ♀, N. 886 (1912)

體は黒色、點刻少なし。觸角の中央、後稜狀部及び尾端は黄白。觸角は長くして、約體長と同じ、末端は暗褐。

後胸背には點刻多く、二條の横隆起を併走し、白色の短毛を裝ふ。翅は稍や透明、少しく灰白を帯び、脈及び縁紋は暗褐、縁紋の内側に黄褐の一點を具へ、鏡胞は五角形にして、外邊は不完全。腹部は細く、第一節は彎曲し、第二節は三角形をなし、産卵管は腹部より少しく短かし。脚は黒色、前中兩腿節の兩端、同脛節及び跗節の大部並に後腿節の基部は黄褐、前中兩肢に於ける各跗節の末端は淡黄褐、後肢の第二、第三及び第四跗節(各末端を除き)は黄白。體長三分七厘。こは京都地方に産するも餘り多からず。

分布——本州(京都)。

(231) **ホシクロヲナガバチ** (續千蟲四。一三一頁 (N. 887) (第十二圖 (11) (♀))

學名 *Cryptus suzuki* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 131, pl. XLIX, f. 11, ♀, N. 887 (1912)

體は黒色、微小の點刻及び縮刻多し。觸角細く、各節の基部は細く赤褐。稜狀部は隆起し、後胸背は網狀の隆起を具へ、其の内、中央にあるものは稍や三角形をなし、兩側に一齒狀突起あり。翅稍や透明、縁紋及び脈は暗褐、中央に暗色の大紋あり。腹部は頭胸より少しく長く、第一節は弓狀に彎曲し、第二節は稍や三角形をなし、尾端は少しく灰白色を帯び、産卵管の長さ腹部の半以上あり。脚は黒色、腿節の末端少しく赤褐を帯び、前中兩肢の脛節及び跗節は暗褐、後肢の第二、第三及び第四跗節は黄白。體長三分七厘。こは本邦に稀ならず。

分布——北海道、本州(京都)。

(232) **クハゴヒラタヒメバチ** (續千蟲四。一三二頁 (N. 888) (第十三圖 (1) (♀))

學名 *Pimpla pluto* Ashl.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 132, pl. I, f. 1, ♀, N. 838 (1912)

體は黒色、光澤を缺き、點刻を密布し、黄白の短毛多し。觸角は細く、末端は赤褐、頭頂は凹陷す。胸背は粗糙にして、中央には縮刻多し。翅は稍や透明、少しく暗黄を帯び、脈及び縁紋黒色、縁紋の内側に黄色の一點あり。腹部は光澤を缺き、第一節に二個の小突起を具へ、各節の後縁は細く光澤を帯び、點刻を缺く。産卵管は短大にして、腹部の半に達せず。脚は黒色、前中脛節及び脛節の末端、前脛節の内側及び同脛節の下面は黄色、前脛節及び同附節の大部は黄褐、中脛節及び同附節並に後附節は暗褐。體長六分。産卵管二分五厘。こはクハゴの幼蟲に寄生す。

分布——北海道、本州。

(233) オホアメイロヲナガバチ 續千蟲四。一三三頁 (N. 829) (第十三圖) (♀)

學名 *Thalossa superba* Schmank

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 133, pl. I, f. 2, ♀, N. 839 (1912)

體は淡黄褐。前頭、額片、上唇、頰、前胸背、複眼の下方及び大脛の基部は黄褐。大脛の末端は黒色。中胸背は黄褐、横皺多く、後胸背の末端は暗褐。翅は半透明、鼈甲様の黄色を帯び、前縁及び縁紋は淡黄褐、脈は暗褐。腹部は光澤を帯び、第三乃至第六節の兩側に長楕圓形紋を具へ、初めの三節にあるものは少しく弓状をなす。各胸節の接合部は暗褐。脚は淡黄褐、爪の末端は暗褐。雄は細長なり。體長♀一吋八分。産卵管二吋五分。こは札幌地方に産すれども稀なり。ヒゲナガオホカミキリの幼蟲に寄生するものゝ如し。

分布——北海道(札幌)、歐洲。

(234) オホホシヲナガバチ 續千蟲四。一三四頁 (N. 830) (第十三圖) (♂)

(第十四圖) (10) (♀)

學名 *Thalossa japonica* Ashl.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 134, pl. I, f. 3, ♀, N. 890 (1912); Lc. p. 148, pl. II, f. 10, ♀, N. 907 (1912)

體は暗褐。複眼の内側、前頭、額片、上唇、頰、大脛の基部、兩鬚、前胸背後縁の兩側、中胸背の二縦條、其の上方の一紋、其の兩側の一縦條、各胸側の二紋、稜狀部、其の上方の二紋、後稜狀部、後胸背の大紋、腹部の斑紋及び脚の大部は黄色。觸角は黄褐、基部は暗褐、大脛は黒褐。頭頂及び胸面は光澤ある黒色。中胸背は粗糙にして、横皺多し。翅は稍や透明、少しく黄色を帯び、脈は暗褐、縁紋は黄褐、縁紋の外側にあたり暗色の大紋を具ふ。第一及び第二腹節の後縁は黄色にして、第二節にあるものは稍や山字形を呈し、第三節乃至第七節の各兩側に楕圓形紋ありて、何れも横置せられ、其の内、第六及び第七節にあるものは長し。各腹面節の後縁は廣く黄色。後基節の大部(上方に一黄紋あり)、中基節下方の一紋、前脛節の上面、中後兩脛節の基部(上面)及び後脛節の大部並に爪は暗褐。體長八分五厘—一寸六分。産卵管一寸三分—二寸一分。こは本邦に稀ならず。

分布——北海道、本州、滿洲。

(235) クロヲナガバチ 續千蟲四。一三六頁 (N. 891) (第十三圖) (4) (♀)

學名 *Echirus rufipes* Uch.

日本千蟲圖解

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 136, pl. I, f. 4, ♀, N. 891 (1912)

體は黒色、小點刻を密布す。觸角中央の三節黃白。觸角第三節の基部、翅底鱗、各腹節の後縁(細く)は赤褐。兩鬚は黃褐。後胸背に網狀の隆起なし。前翅は半透明、少しく灰黃を帶び、脈及び縁紋は暗褐、鏡胞は五角形をなす。尾端は三角形をなして膨大す。脚は黒褐、前肢腿節の末端、脛節(外面の大紋は暗色)及び跗節並に中肢の脛節及び跗節は黃褐、前肢の脛節は膨大す。體長六分。産卵管五分。こは札幌地方に稀ならず。

分布——樺太、北海道、本州。

(236) エゾヲナガバチ 續千蟲四・一三六頁 (N. 892) (第十三圖 (5) (♀))

學名 *Thalassia cithraria* Oliv.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 136, pl. I, f. 5, ♀, N. 892 (1912)

體は暗褐。觸角は淡黃、基部は暗褐。複眼の内側、前頭、額片、上唇、兩鬚、頰、後頭の二紋、前胸背の兩側、翅底鱗、各翅根下の二紋、中胸片の兩側紋、中胸背の二縱條、其の前方の二紋、稜狀部、後稜狀部及び其の兩側、後胸背の中央並に脚の大部は黃色。大腿は黒褐。中胸背には粗大の横皺多し。翅は半透明、少しく鼈甲様の黃色を帶び、縁紋及び脈は暗褐、縁紋の内側は黃褐。腹部は光澤を帶び、第一節の後縁、第二節の兩側にある鈎狀紋、第三節乃至第五節の兩側にある鈎狀紋及び第六節の兩側にある各一紋、尾節にある兩側紋並に各腹面節の後縁は黃色。前基節の後方、中後兩基節の大部(後方の一紋は黃色)及び腿節の中央は黒褐。體長一寸。産卵管一寸六分。こは札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道(札幌)、歐洲。

(237) フシヲナガバチ 續千蟲四・一三七頁 (N. 893) (第十三圖 (8) (♀))

學名 *Ephialtes manifestator* L.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 137, pl. I, f. 6, ♀, N. 893 (1912)

體は黒褐、灰白の短毛多し。兩鬚及び翅底鱗は淡黃色。脚の大部は黃色。大腿の基部は赤褐、頭及び胸部は光澤を帶び、小點刻を粗布す。翅は半透明、少しく黃色を帶び、鏡胞は三角形をなし、脈は暗褐、縁紋は黃褐、各腹節の基部は多少赤褐を呈す。中肢の基節は黃褐、後肢の基節、腿節(基部を除き)、脛節及び跗節の大部は暗褐。體長九分—一寸。産卵管一寸三分。こは札幌地方に普通なり。

分布——樺太、北海道(札幌)、歐洲。

(238) キイロフシヒメバチ 續千蟲四・一三八頁 (N. 894) (第十三圖 (7) (♀))

學名 *Xanthopimpla japonica* Krieg.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 138, pl. I, f. 7, ♀, N. 894 (1912)

體は黃色、頭胸に點刻を缺けども、腹部に粗大の點刻多し。觸角(柄節の外側を除き)、頭頂の一紋、單眼、中胸背の三紋、翅底鱗の一紋、稜狀部の前方にある一紋、後胸背の二紋、各腹節の二紋、後肢轉節、脛節及び跗節の基部並に腿節の二紋は光澤ある黒色。頭は短かく、頭頂は凹陥し、大腿の末端は暗褐。胸部は大にして、光澤を帶び、稜狀部は少しく隆起す。後胸背には判然せる網狀の隆起あり。翅は半透明、少しく暗黃色を帶び、脈及び縁紋は黒褐。腹部は粗糙にして、第六節にある斑紋は小、第七節にあるものは最も大、第八節には唯一紋を裝ふ。

産卵管末端の三分の二は黒色、基部は暗黄。後腿節は膨大し、後肢跗節の末端は暗褐。體長六分。産卵管二分。こは沖繩及び臺灣地方に普通なり。

分布——本州(?)、沖繩、臺灣。

(239) カラフトコンボウヲナガバチ 續千蟲四。一三九頁 (Z. 895) (第十三圖 (8) (♀))

學名 *Coleocentrus chizumui* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 139, pl. I, f. 8, ♀, N. 895 (1912)

體は黒色、微小の點刻を裝ふ。上唇、大腮(末端は黒褐)、兩鬚及び前中兩肢の大部は黄褐。觸角は黒褐。稜狀部は少しく隆起し、其の周圍少しく高く、後胸背には小横皺多し。翅は半透明、少しく暗黄色を及び、脈及び縁紋は暗褐、但し縁紋の内側は黄褐。各腹節の後縁は少しく赤褐を帯び、最後の腹面節は大にして、鋸齒狀を呈し、少しく尾端を越ゆ。前中兩肢の基部及び轉節並に後肢の大部は暗褐、後腿節の下方は赤褐。體長五分。産卵管四分。こは樺太地方に産すれども餘り多からず。

分布——樺太。

(240) カラフトオホキアシヒメバチ 續千蟲四。一三九頁 (Z. 896) (第十三圖 (9) (♀))

學名 *Cryptus tansolencus* Grav.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 139, pl. I, f. 9, ♀, N. 896 (1912)

體は黒色。頭胸には小點刻を密布し、後胸にあるものは粗大なり。頭には灰白の短毛を裝ひ、兩鬚は暗褐、後

頭の點刻は粗大なり。稜狀部は稍や隆起し、點刻は粗なり。翅は半透明、少しく暗黄を帯び、脈及縁紋は暗褐、鏡胞は五角形をなす。腹部は紡錘形にして、點刻を缺き、第一節の後縁凹陥し、第二節の後縁最も廣し。産卵管は腹部と同長。脚は赤黄、基節及び轉節は黒褐、暗黄の短毛を裝ふ。體長四分。産卵管三分。こは樺太地方に産すれども餘り多からず。

分布——樺太、千島、朝鮮、歐洲。

(241) ホソヲナガヒメバチ 續千蟲四。一四〇頁 (Z. 897) (第十三圖 (10) (♀))

學名 *Phaenolobus kamufutonis* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 140, pl. I, f. 10, ♀, N. 897 (1912)

體は黒色、灰白の短毛と小點刻多し。頭部は光澤を帯び、觸角は絲狀にして、暗褐、柄節は黄褐。兩鬚及び脚は黄色。翅は半透明、少しく黄色を帯び、脈は暗褐、縁紋は黄褐、鏡胞を缺く。第一腹節は細く、第三及び第四節の後縁に裸出部あり。尾節は鴨嘴狀をなして突出し、最後の腹面節大にして、鋸齒狀をなす。産卵管は腹部よりも少しく長し。後腿節及び跗節は暗色。體長四分。産卵管三分。こは樺太地方に産すれども稀なり。

分布——樺太。

(242) チャウザンヲナガバチ 續千蟲四。一四〇頁 (Z. 898) (第十四圖 (1) (♀))

學名 *Rhyssa persnasoria* L.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 140, pl. II, f. 1, ♀, N. 898 (1912)

體は黒色。觸角の末端に近き八節、複眼の内側、頰の二紋、頸の二點、前胸縁の兩側、翅底鱗、其の直下の一紋、稜狀部及び其の兩側の縱條、後稜狀部及び其の兩側の隆條、後胸背の二紋、前中兩胸側片の各二紋、各腹節の後縁にある二紋（但し第一腹節にあるものは一帯となる）及び中肢基節の上面等は黄白。額片、舌及び兩鬚は黄褐。中胸背には横皺多く、胸側には灰白の短毛を密生す。翅は半透明、少しく暗黄を帯び、脈及び縁紋は暗褐、縁紋の内側に一黄褐紋を具へ、鏡胞は三角形を呈す。腹部は光澤を有し、第三乃至第六節の兩側に各一個の黄白紋を裝ふ。前中の兩肢は淡赤褐、中肢の基節、轉節並に後肢は暗褐。但し後肢の轉節は淡赤褐。體長九分。産卵管一寸二分。こは本邦に餘り多からず。

分布——樺太、北海道（札幌）、朝鮮、本州、歐洲。

(243) **ヒメモンキヲナガバチ** 續千蟲四。一四二頁 (N. 300) (第十四圖 (2) (♀))

學名 *Ephirysa japonica* Cam.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 142, pl. II, f. 2, ♀, N. 899 (1912)

體は黒色。複眼の兩側、頰、額片の中央、前胸背兩側の後縁、翅底鱗、其の直下の二紋、中胸背の二縱條、稜狀部、後稜狀部、前胸側の二紋、後胸背の二斜條、各腹節の中央にある兩側紋等は黄色。觸角は暗褐、基部は少しく淡色。兩鬚は黄白。翅は稍や透明、少しく黄色を帯ぶ。中胸背には粗大の横皺多し。腹部は頗る光澤を帯び、棍棒狀を呈し、各節の後縁は黒褐、第六節にある斑紋は微小なり。脚は黄色、前基節の上面、中後基節及び同節の中央は暗褐、跗節は暗黄。體長八分。産卵管二寸四分。こは本邦に普通なり。

分布——北海道、本州。

(245) **モイハヲナガバチ** 續千蟲四。一四三頁 (N. 301) (第十四圖 (4) (♀))

學名 *Ephirysa moiwana* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 143, pl. II, f. 4, N. 901 (1912)

體は光澤ある黒色、暗黄の短毛多し。複眼の兩側、額片及び上唇、兩鬚、前胸背後縁の兩側、翅底鱗、其の直下の二紋、前胸側の二紋、中胸背の二縱條、稜狀部、其の上方の二紋、後稜狀部の二點、後胸背の二紋、複眼の斑紋並に脚の大部は黄色。觸角は黄褐。中胸背には粗大の横皺多し。翅は稍や透明、脈は暗褐、縁紋は黄褐、前縁の末端に淡き暗色を帯びたる小部分あり。腹部は棍棒狀を呈し、各節の後縁に近く黄色の一帯ありて、こは第三節乃至第七節にて二紋となる。中後の兩基節、轉節及び腿節の中央は暗褐、但し後基節の上面に一黄紋を具へ、跗節は暗黄。體長五分五厘。産卵管六分五厘。こは札幌地方に産すれども餘り多からず。

分布——北海道（札幌）。

(246) **キアシフシヲナガバチ** 續千蟲四。一四四頁 (N. 302) (第十四圖 (5) (♀))

學名 *Pimpla instigator* F.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 144, pl. II, f. 5, N. 902 (1912)

體は黒色、點刻を密布し、灰色の短毛多し。下唇鬚の末端は黄褐。觸角は細く、頭頂は凹陷す。稜狀部に大形の點刻を粗布す。後胸背には粗大の點刻を具へ、中央部に横皺多し。翅は稍や透明、少しく黄色を帯び、脈及び縁紋は暗褐、縁紋の内側は灰白、鏡胞は稍や五角形をなす。腹部に點刻多く、各節の後縁隆起し、産卵管は短か

く、腹節の半に達するに過ぎず。脚は黄色、基節及び轉節は黒褐、後跗節は暗褐。體長五分。産卵管一分五厘。
こは札幌地方に産する普通種にして、エゾシロテフ、マイマイガ、ラビカレハ等の幼蟲に寄生す。

分布——北海道(札幌)、歐洲。

(247) ミツモンキフシヒメバチ 續千蟲四。一四五頁 (N. 903) (第十四圖(6) (♀))

學名 *Xanthopimpla punctata* F.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 145, pl. II, f. 6, ♀, N. 903 (1912)

體は黄色。頭胸は光澤を帯び、黄白の短毛多し。頭頂の一紋、中胸背の三紋(二列をなして横列す)、後胸背の二紋、第一、第三、第五及び第七腹節の各二紋並に後脛節の基部にある一紋は黒色。觸角は黄褐、其の背部は暗色。稜状部は突出し、後胸背には判然せる網状の隆起を装ふ。腹部には點刻を具へ、各節の後縁は隆起し、其の隆起部の前縁は細溝をなし、産卵管は黒色、腹部より少しく短かし。脚は黄色、後肢は膨大す。體長四分。産卵管一分五厘。こは沖繩及び臺灣地方に普通なり。

分布——九州、沖繩、臺灣、印度、馬來。

(248) エゾシロヒラタヒメバチ 續千蟲四。一四六頁 (N. 904) (第十四圖(7) (♀))

學名 *Theronia alalantae* Poel.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 146, pl. II, f. 7, ♀, N. 904 (1912)

體は淡黄褐、光澤を帯び、微小の點刻を粗布す。頭は黄色、頭頂には二黒紋を具ふ。觸角間の一紋、額片の後

縁及び大腿の末端は暗褐。前胸及び中胸背の中央は黒色、其の兩側は細く黄色、更に其の兩側に各一個の暗褐條あり。翅底鱗、其の直下の一紋、胸側紋、稜状部及び後稜状部は黄色。翅は半透明、少しく暗黄を帯び、脈は暗褐、縁紋は黄褐、鏡胞は稍や五角形をなす。各腹節の後縁は廣く暗褐、産卵管は黒色、腹部の半ばに達するに過ぎず。脚は黄色、後脛節は肥大し、其の外側に黒褐の大紋あり。體長四分五厘乃至五分。産卵管一分二厘。こはエゾシロテフの幼蟲に寄生す。

分布——樺太、北海道、本州、朝鮮、歐洲。

(249) カラフトカタモンヒメバチ 續千蟲四。一四六頁 (N. 905) (第十四圖(8) (♂))

學名 *Banchus falentorius* F.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 146, pl. II, f. 8, ♂ (non ♀), N. 905 (1912)

體は黒色。前頭、額片、上唇、大腿、頬、頭頂の二紋、觸角の前面、中胸背の二紋、翅底鱗、稜状部及び中胸側の二大紋は黄色。前頭中央の一縦條、額片の中央紋、其の兩側の二紋、大腿基部の一紋、大腿の末端等は黒色。下唇鬚、後稜状部、第二、第三及び第四腹節並に脚の大部は淡黄褐。下唇鬚の第四節は葉状に膨大し、小腮鬚及び觸角の基部は暗褐。稜状部の末端は棘状をなして尖り、其の部分暗褐、後稜状部には高き横隆ありて、其の周圍は突出す。翅は稍や透明、脈暗褐、縁紋は黄褐、鏡胞は稜状に近く、大形なり。腹部は側扁、尾端は截断状に終る。前中兩肢の基部は黄色、後肢は長く、其の基部は黒色、同脛節の末端は暗褐、爪には櫛齒状の齒列あり。體長四分五厘。こは樺太に産するも餘り多からず。

分布——樺太、歐洲。

(250) フランヲナガバチ 續千蟲四。一四七頁 (N. 906) (第十四圖 (9) (♀))

學名 *Elyssa approximator* F. subsp. *furana* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 147, pl. II, f. 9, ♀, N. 906 (1912)

體は黒色。複眼の内側(但し接続せず)黄白。觸角は暗褐、外側は黄褐。中胸背粗糙にして、横皺多く、翅底鱗及び其の直下の一紋は黄色、稜状部及び後稜状部並に其の兩側の横隆は灰黄色。翅は稍や透明、少しく黄色を帯び、脈及び縁紋は暗褐、縁紋の内側に黄褐紋を具へ、鏡胞は有柄にして、三角形をなし、小なり。腹部は栗色にして、光澤を帯び、各節の後縁は灰黄、産卵管は體長よりも長し。脚は黄色、後基節は延長し、黒色、中基節、後脛節及び同跗節は暗褐。體長六分。産卵管七分。こは上川地方に産すれども稀なり。

分布——北海道(上川)。

(251) ツマゲロヲナガバチ 續千蟲四。一四九頁 (N. 908) (第十四圖 (11) (♀))

學名 *Phaenolobus apicalis* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 149, pl. II, f. 11, ♀, N. 908 (1912)

體は黒色、暗黄の短毛多し。複眼の内側、額片、上唇、大腮、兩鬚、頰の一紋、觸角の柄節及び中央、稜状部、後稜状部、後胸背の後方、第一及び第二腹節の後縁、翅底鱗、其の直下の一紋及び前中兩肢の大部、後轉節、腿節及び跗節等は黄色。頭は大にして、胸部と其の幅を稍や等しくし、頭には點刻少なく、胸部にあるものは小にして、其の數多し。中胸背の中央凹陷し、稜状部は隆起し、後胸背には網狀の隆起あり。翅は稍や透明、少しく

黄色を帯び、脈、縁紋及び翅端紋は暗色。腹部は小、尾節は暗黄、これは劍狀を呈し、尾端より突出し、産卵管は暗褐、體長より少しく短かく、末端の二分の一は黄褐。後肢は長く、基節、腿節及脛節の大部は暗褐。體長五分五厘。産卵管四分五厘。此は札幌地方に産すれども餘り多からず。

分布——北海道(札幌)。

(252) ヒメキアシヲナガバチ 續千蟲四。一五〇頁 (N. 909) (第十四圖 (12) (♀))

學名 *Elyssa approximator* F. subsp. *dubiosa* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 150, pl. II, f. 12, ♀, N. 909 (1912)

(250) フランヲナガバチに酷似すれども、其の異なる所は左の如し。

- 一、稜状部黒色、後胸背後縁の兩側に各一黄紋を裝ふ。
- 二、翅は少しく濃色、鏡胞は大にして三角形をなし、フランヲナガバチの如く有柄にあらず、鏡胞底の中脈は枝痕を有せず。
- 三、各腹節の後縁は細く黄白、最終の腹面節は逆鈎狀をなして突出す。
- 四、中肢の基節は黄色、基部の下面は少しく暗色を帯ぶ。

體長五分五厘、産卵管七分。こは札幌地方に稀ならず。

分布——北海道(札幌)。

(253) シブヲナガコマユバチ 續千蟲四。一五一頁 (N. 910) (第十五圖 (1) (♀))

學名 *Brulleia shimonis* Mats.

昆蟲學上の地位、小爾蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 151, pl. III, f. 1, ♀, N. 910 (1912)

體は黃褐。觸角は黒褐、初めの二節は黃褐、中央の八節は黃白。大腮の末端は黒褐。上唇は凹陥す。後頭には點刻を粗す。中胸背には點刻を密布し、其の中央は楕圓形をなして凹陥し、稜狀部の前方も亦少しく凹陥し、後胸背に不正の縮刻多し。翅は稍や透明、少しく籠甲様の黄色を帯び、前縁、前縁脈及び縁紋は黒褐。脈は黃褐。腹部は頭胸を合したるものより少しく長く、第一節は粗糙にして、縮刻多く、第二節以下は光澤を帯び、第二節の中央線、其の後縁及び以下の各節は黒色。脚は黃褐、脛節の末端は少しく濃色。體長六分五厘—八分。産卵管九分—一寸二分。こは東京及び信州地方に産すれども、其の數多からず。

分布——本州(信州、東京)。

(254) **ホリシヤベツカフコマユバチ** 續千蟲四。一五二頁 (N. 911) (第十五圖 (2) ♀)

學名 *Iphiaulax horishana* Mats.

昆蟲學上の地位、小爾蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 152, pl. III, f. 2, ♀, N. 911 (1912)

體は光澤ある飴色、黃褐の長毛を粗生す。觸角は暗褐、前翅よりも少しく短かし。頭は小、前頭は稍や三角形をなし、上唇は凹陥し、大腮の末端は暗褐。前胸背は頸狀に縊れ、中胸背の縦溝は餘り判然せず、稜狀部は少しく突出す。翅は籠甲様の黃褐、前翅中央の二紋、縁紋の外側及び兩翅の外縁は暗色、脈は黃褐。腹部は稍や紡錘形をなし、扁平、第一及び第二節の兩側に深き縦溝を具へ、中央に一縦隆を裝ふ、但し第二節の兩側にあるものは少しく斜傾し、第三節最も廣く、其の基部に約八個の短かき縦隆を裝ひ、其の兩側に斜溝を具へ、中央にある

縁隆は餘り判然せず。脚は黃褐、跗節端は暗褐。體長六分五厘。産卵管四分五厘。此は臺灣に産すれども餘り多からず。

分布——臺灣(埔里社)。

(255) **ウマノヲバチ** (馬尾蜂) 續千蟲四。一五二頁 (N. 912) (第十五圖 (3) ♀)

學名 *Eumelobon penetrator* Sm.

昆蟲學上の地位、小爾蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 152, pl. III, f. 3, ♀, N. 912 (1912)

體は光澤ある飴色、同色の長毛を粗生す。觸角は黒色にして、太く、上唇は凹陥す。大腮の末端は黒褐。中胸背の縦溝は餘り判然せず。稜狀部は突出し、其前方少しく凹陥す。後胸背の後縁に一横隆を裝ふ。翅は半透明、飴色、前翅の前縁に二個、後縁の中央に一個、尙、其の外側に小紋ありて、都合、四個の黒褐紋を裝ひ、外縁並に後翅の後縁は灰色、脈は黃褐。腹部は長楕圓形、第一節の基部に深き縦溝を具へ、これは中央にて分支し、後縁に達し、第二及び第三節の兩側にも斜溝あれども、第一節の如く深からず、第二及第三節の背面は少しく暗色を帯ぶ。脚は黃褐、後肢は黒色、但し轉節及び脛節の末端は黃褐。體長(♀)六分—七分、産卵管四寸—五寸。(♂)五分。こは未だ如何なるものに寄生するや不明なり。

分布——本州、四國、九州、朝鮮。

(256) **セアカフシヲナガバチ** 續千蟲四。一五四頁 (N. 913) (第十五圖 (4) ♀)

學名 *Hemiphysa rugosa* de Geer.

日本千蟲圖解

昆學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 154, pl. III, f. 4, ♀, N. 913 (1912)

體は光澤ある黄褐。複眼の兩側は黄色。大腮の末端及び觸角は黒褐、但し後者の基部は黄褐。中胸背の縦溝は判然せず、稜状部は突出し、後胸背の後縁は斜傾す。翅は暗色、不透明、縁紋の内方及び翅底は橙黄色、鏡胞は稍や稜形をなす。腹部は黒色、粗大の點刻多く、各節の後縁は隆起し、中央及び基部に横溝を具へ、第一節の後方に鞍様の突起ありて、第一乃至第五節の兩側基部に黄斑を裝ひ、第六及び第七節の後縁は細く黄白、尾端の二節は點刻を有せず。尙、第一節後縁の中央に一小黄褐紋を裝ふ。腹面は黄白。脚は黄褐、後肢は黒色、同跗節は暗褐、距は黄褐。體長五分五厘。産卵管四分五厘。こは臺灣に稀ならず。一見小繭蜂に似たり。

分布——臺灣(埔里社)、印度。

(257) オホタマゴバチ 續千蟲四。一五五頁 (N. 914) (第十五圖 (5) ♀)

學名 *Proctotrupes suzuki Mats.*

昆學上の地位、卵蜂科(Proctotrupidae)。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 155, pl. III, f. 5, ♀, N. 914 (1912)

體は黒色、微小の點刻を裝ふ。觸角は少しく體より長し。兩鬚及び大腮は暗褐。中胸背には黄褐の短毛多く、翅底鱗は黄褐、後胸は粗糙にして、網状の小隆起多し。翅は半透明、少しく灰黄を帯び、縁紋は暗褐、脈は黄褐。腹部は頭胸と約同長、點刻を缺き、光澤を有し、第一節の基部、兩側、下面及び後縁は赤褐。脚は黒色、各節の末端、脛節の基部及び跗節の大部並に距は赤褐。體長二分五厘。此は京都地方に稀ならずが如し。鈴木元治郎氏の採集に係るものなり。

分布——本州(京都)。

(258) ガランピツマダグロコマユバチ 續千蟲四。一五六頁 (N. 915) (第十五圖 (6) ♀)

學名 *Iphiaulax garampiana Mats.*

昆學上の地位、小繭蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 156, pl. III, f. 6, ♀, N. 915 (1912)

體は光澤ある黄褐、同色の長毛を裝ふ。觸角は黒色、體よりも遙かに長く、鞭状を呈し、柄節は大なり。後頭及び頭頂の三角紋は光澤ある黒色、上唇は凹陷するを以つて圓孔を有するが如し、大腮の末端は暗褐。中胸背の中央は稍や扁平、稜状部は突出す。翅底の半部は半透明にして、黄褐、翅端の半部不透明にして、黒色、縁紋は黄褐、中央に半透明の二灰白紋あり。腹部は長楕圓形、第一節の兩側に深き縦溝を具へ、中央は甚だしく隆起し、第二及び第三節は粗糙にして、多數の小縦隆を並走し、各側の前方は凹陷し、第三節以下に點刻を缺き、第三節の兩側は凹陷す、産卵管は黒色。脚は黄褐、跗節の末端は暗褐、爪間の吸盤は黒褐。體長四分五厘。産卵管一寸五厘。此は臺灣恒春地方に稀ならず。

分布——臺灣(恒春)。

(259) ヲナガゴバチ 續千蟲四。一五七頁 (N. 916) (第十五圖 (7) ♀)

學名 *Thecasoma longicauda Mats.*

昆學上の地位、小蜂科(Chalcidae)。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 157, pl. III, f. 7, ♀, N. 916 (1912)

體は光澤ある金綠色、粗大の點刻を密布し、灰白の短毛多し。觸角黒色、柄節は少しく綠色を帯び、上唇、大

腮及び兩鬚は暗褐。中胸背、稜狀部及び腹部に紫藍色を帯びたる部分あり。翅は半透明、少しく灰色を帯び、前縁脈及び脛脈は暗褐、他脈は判然せざれども、少しく灰色を呈するを以つて、其の痕跡を認め得べし。腹部は頭胸と略同長、長楕圓形にして、三節より成り、殘餘の四節は産卵管に延長す、但し第一節及び第二節の基部は青藍色、第三腹節の中央に黒色の一縦隆ありて、之れは産卵管第一節の末端に延長す。産卵管は黒色。脚は金綠色、轉節、腿節の末端、脛節及び跗節は黃褐。體長三分、産卵管五分五厘。此は臺灣地方に稀ならず。

分布——臺灣（函子嶺）。

(260) **ヲタネヲナガバチ** 續千蟲四。一五九頁 (N. 917) (第十五圖 (8) (♀))

學名 *Mlyssa citraria* Oliv. subsp. *otanegwana* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 159, pl. III, f. 8, ♀, N. 917 (1912)

體は黒褐。前頭、額片、上唇、兩鬚、複眼の後方、頰、前胸背の兩側、中胸背の前縁にある二紋及び四縦條、翅底鱗、其の直下の一紋、中胸片の兩側にある一縦條、稜狀部、後稜狀部、後胸背に於ける後縁兩側の大紋、腹部の斑紋並に脚の大部は暗褐。觸角間に黒色の一縦條ありて、前頭の中央に達せず。大腮は黒色。觸角暗褐、基部の下面は黃褐。中胸背には横皺多く、兩側にあるものは稍や顆粒狀をなす。稜狀部及後胸背に黃白の軟毛を裝ふ。翅は稍や透明、少しく黄色を帯び、脈は黒褐、前縁及び縁紋は黃褐。腹部は甚だしく光澤を帯び、第一及び第二節の大紋、第三節以下各節の兩側にある楕圓紋（但し内側の上方は稍や半圓形に列られあり）等は暗黃。前腿節の中央及び基部の大部は暗褐、中後兩肢の基節及び腿節（末端を除き）は黒褐、後脛節の中央及び第一跗節の基部は暗褐、但し中肢基節の外側にある一紋及び後基節の基部にある一紋は暗黃。體長八分五厘。産卵管一寸五

分。此は札幌地方に産すれども餘り多からず。

分布——北海道（札幌）、（原種は歐洲に産す）。

(261) **ヒラタフシバチ** 續千蟲四。一六一頁 (N. 918) (第十五圖 (9) (♀))

學名 *Isalia japonica* Mats.

昆蟲學上の地位、没食子蜂科 (Cynipidae)。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 161, pl. III, f. 9, ♀, N. 918 (1912)

體は黒褐。頰、複眼の内側、前胸背の兩側、稜狀部（中央の一縦條を除き）、後胸背の兩側及び腹部は黄色。觸角は暗褐、中央は黃褐、頭頂には大形の縮皺多し。前中兩胸背には横皺多く、稜狀部は粗糙にして、高く突出し、中央に縦溝ありて、此の部分黒色。後胸背には三縦隆あり。翅は灰白、半透明、前縁は黄色を帯び、脈は黒褐、中央紋及び外縁は暗色。腹部は側扁にして、長楕圓形を呈し、五條の黒褐帶を具へ、前方にある三條は基部にて相合し、第四條は背部にて擴がり、第五條は稍や縦線となり、尾端は廣く黒褐。脚は黄色、基節（末端を除き）、後腿節の基部、同脛節の大部及び爪は暗褐。體長五分。産卵管一分。此は札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道（札幌）。

(262) **ツノヤセバチ** 續千蟲四。一六二頁 (N. 919) (第十五圖 (10) (♀))

學名 *Stephanus cinctus* Mats.

昆蟲學上の地位、角細蜂科 (Stephanidae)。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 162, pl. III, f. 10, ♀,

體は黒褐、粗糙にして、灰白の長毛を装ふ。頭は稍や球形、頭頂には縮刻多く、前頭に低き角様の五突起を具へ、四個は兩側に、一個は中央に位す。複眼の後方は赤褐にして、點刻を缺く。觸角は前頭の下方に出で、柄節は大なり。大腮は黄褐、末端は黒褐。兩鬚は暗褐、小腮鬚は細長なり。前胸は頸狀をなして細く、横皺多し。中胸背には大形の點刻を粗布し、稜狀部の中央は滑澤、後胸には大形の點刻多し。翅は細く、半透明にして、少しく灰黄を帯び、縁紋及び脈は暗褐。第一腹節は絲狀にして、他節を合したるものよりも長く、第三節以下は短くして、棍棒狀をなし、腹面に三角形の突起を具へ、産卵管は體よりも長く、管鞘の末端に近く黄白の部分あり。脚は赤褐、後肢は暗褐、頗る發達し、基節に横皺多く、腿節の下面に多數の齒狀突起を具へ、其の内二個は長くして、棘狀をなし、轉節は黄褐、灰白の長毛を粗生す。體長五分五厘。産卵管六分。こは黒岩恒氏の採集に係るものにして、沖繩地方には稀ならざるが如し。

分布——沖繩。

(263) クロヒラタフシバチ 續千蟲四。一六三頁 (N. 920) (第十五圖 (11) (♀))

學名 *Thalia picea* Mats.

昆蟲學上の地位、没食子蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 163, pl. III, f. 11, ♀, N. 920 (1912)

體は光澤ある黒色、白色の短毛を装ふ。頭頂には二列の横皺列ありて、其の中央に低き一縦條を装ふ。後頭には斜皺多し。中胸背には横皺多く、三條の縦溝を並走し、稜狀部は粗糙にして、二横皺を装ふ。翅は稍や透明、外縁は少しく暗色を帯び、脈及び縁紋は黒褐。體は長楕圓形にして、頗る光澤を帯ぶ。産卵管は赤褐。腹節は餘

り判然せず。脚は黒色、後腿節の基部は黄褐、後脛節に縦溝を装ふ。體長四分二厘。こは樺太地方に産すれども餘り多からず。

分布——樺太。

(264) コンボウヤセバチ 續千蟲四。一六四頁 (N. 921) (第十五圖 (12) (♀))

學名 *Gastruplion japonicum* Cam.

昆蟲學上の地位、細蜂科 (Evanitidae)。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 164, pl. III, f. 12, ♀,

N. 921 (1912)

體は黒色、微小の點刻あれども、餘り判然せず。上唇、大腮及び兩鬚は黄色。各胸節の限界は溝を有し、其の内に横隆を並列す。翅は稍や透明、少しく灰黄を帯び、脈及び縁紋は黒褐。中後の兩胸側には銀白の短毛を密生す。腹部は細長、各節の後縁は赤褐、其の内、第一節の後縁にある赤褐部は最も判然し、尾端は裁斷狀に終り、産卵管は體と略ぼ同長、管鞘の末端は黄白。脚は黒色、腿節及び脛節の兩端及び跗節は黄色、後脛節は甚だしく膨大し、其の基節及び第一跗節の大部は黄白、距は黄色にして、末端は暗褐。體長四分五厘—五分。産卵管四分六厘。此は本邦普通なる種類なれども、未だ如何なる昆蟲に寄生するや不明なり。

分布——北海道、本州。

(264) ヲキナハシリアゲコバチ 續千蟲四。一六四頁 (N. 922) (第十五圖 (13) (♀))

學名 *Leucaspis okinawensis* Mats.

日本千蟲圖解

昆蟲學上の地位、小蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 164, pl. III, f. 13, ♀, N. 922 (1912)

體は黃褐、金色の短毛多く、粗大の點刻を密生す。頭及び觸角は黒色、觸角柄節の下面は黃褐。前胸背の前後兩縁及び翅底鱗は黄色、中胸背は暗褐、其の兩側及び後縁の四角紋並に稜狀部は黃褐、但し四角紋後縁の中央及び稜狀部の前縁中央は暗褐、後胸背の中央紋及び兩側紋は黃褐。翅半透明、少しく暗黄を帯び、外縁は暗色、前縁脈は暗褐、脛脈は黃褐。腹部は稍や卵形、第一節は黄色にして、低き一縦隆を具へ、第二節は暗褐にして、縦縁、第三節及び第四節の兩側並に尾端の二節は黒褐、第四節の前縁は黒褐、後縁は黄色、背上に彎曲せる産卵管は稍や第四節の前縁に達す。脚は黃褐、基節の大部(末端を除き)は黒褐、前中兩腿節の基部は暗褐、後腿節は頗る肥大し、中央に暗褐の斜帶を具へ、腿節下に黒褐の長き五齒あり。體長四分。此は沖繩地方に産するが稀ならざるが如し。

分布——沖繩。

(265) マルガタヤセバチ 續千蟲四。一六六頁 (N. 923) (第十五圖 (14) (♀))

學名 *Evania brachystyla* Schlett.

昆蟲學上の地位、細蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 166, pl. III, f. 14, ♀, N. 923 (1912)

體は黒色。後胸背に粗大の點刻多く、灰白の短毛を密生す。觸角は黒褐、體長よりも遙かに長く、兩鬚は暗褐。翅底鱗は黃褐、稜狀部は滑澤。翅は稍や透明、脈は黃褐、但し前縁、前縁脈並に縁紋は暗褐。腹部は短小、第一節は圓柱形にして、細長く、殘餘の六節を合したるものよりも少しく短かく、第二腹節の兩端は赤褐。脚は黒色、各節の末端及び距は黃褐、後肢は甚だ長く、基節は肥大す。體長二分五厘。此は船中に於て捕獲せらるる普通種

なり。蠶蟻に寄生す。

分布——本州、九州、沖繩、臺灣。

(266) エゾアシプトコバチ 續千蟲四。一六六頁 (N. 924) (第十五圖 (15) (♀))

學名 *Clalcis jezoensis* Mats.

昆蟲學上の地位、小蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 166, pl. III, f. 15, ♀, N. 924 (1912)

體は黒色、大形の點刻多く、白色及び灰白の短毛を密生す。觸角の基部は暗褐、翅底鱗、腿節の末端、脛節の兩端、前脛節の背面及び跗節は黄色。翅は半透明、灰白色を帯び、黃褐の短毛多く、前縁脈及び脛脈は暗褐、第一腹節の兩側は甚だしく光澤を帯び、點刻を缺き、其の背上及び以下の各節には點刻多く、灰白の長毛を粗生し、尾端の點刻は大なり。脚は黒色、後肢の腿節は甚だしく肥大し、末端は少しく暗黄、下面に齒狀突起を列ね、爪は暗褐。體長二分四厘。此は札幌地方に稀ならず。キアシアシプトコバチに酷似すれども、後脛節の基部黒色なるを以つて容易に區別し得べし。

分布——北海道(札幌)。

(267) ナラフシバチ 續千蟲四。一六七頁 (N. 925) (第十五圖 (16) (♀))

學名 *Dryophanta serrulae* Ash.

昆蟲學上の地位、没食子蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 167, pl. III, f. 16, ♀, N. 925 (1912)

體は黃褐。額片、上唇、大腿及び觸角は黒褐、但し後者基部の二節及び第三節の兩端は黃褐。後頭、前胸背の

横帯、中胸背の太き三縦條、稜状部の前縁等は黒褐。翅は半透明、灰色を帯び、脈及び斑紋は暗褐。腹部は側扁にして、光澤を帯び、基部は暗褐。脚は黄褐、灰白の短毛多し、後脛節及び跗節は暗褐。體長一分八厘。此の幼蟲は柘に寄生し、枝上に繭様の蟲癭を營む。

分布——本州、九州。

(268) マルモンツチスガリ 續千蟲四。一六八頁 (N. 926) (第十六圖 (1) ♀)

學名 *Ceroeris interruptus* Mats.

昆蟲學上の地位、細腰蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 168, pl. LIII, f. 1, ♀, N. 926 (1913)

體は黒色、大形の點刻多し。前頭、額片、上唇(末端は黒色)、大腮(末端は暗褐)、觸角柄節の下面、翅底鱗(但し周縁は暗褐)、後稜状部、第二腹節の前縁、第三節(但し中央は半圓形に列らる)及び第五節の後縁(但し中央は三角形に列らる)並に脚の大部は橙黄色。觸角は暗褐、下面は淡黄褐。翅は半透明、少しく灰色を帯び、外縁は少しく暗色を帯び、脈及び縁紋は黄褐、前縁脈は黒褐。第二腹節の前縁にある紋は兩側に達せず、其の後縁の中央少しく列られ、第三腹面節に黄色の一帯ありて、其の中央に黒點を具ふ。轉節及び脛節の上面(但し前中兩腿節の末端は黄色)、基節、後脛節の内側等は黒色、後跗節は暗褐、後腿節末端の葉状突起は大なり。體長四分五厘。此は京都鈴木元次郎氏の採集に係るものなるが稀なるが如し。

分布——本州(京都)。

(269) スズキギングチバチ 續千蟲四。一六九頁 (N. 927) (第十六圖 (2) ♀)

學名 *Cnabro* (*Crossocentrus*) *suzukii* Mats.

昆蟲學上の地位、細腰蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 169, pl. LIII, f. 2, ♀, N. 927 (1912)

體は黒色、小點刻を密布す。大腮(末端は暗褐)、觸角の柄節(背面の上方は暗褐)、胸側の一紋、第一腹節の基部及び兩側にある弓状紋、第五腹節の二小紋、第六節の背上等は灰白。前頭及び頰に銀色の短毛を密生す。翅底鱗は黄褐、後胸背の中央にて稍や心臟形を呈せる部分は滑澤、其の中央に深き一縦溝を具へ、兩側に銀白の長毛を裝ふ。翅は半透明、少しく灰白を帯び、脈及び縁紋は暗褐。各腹節の後縁は細く黄褐、尾端は黄褐毛を裝ふ。脚は黒色、基節の末端、轉節(上面は少しく暗色を帯ぶ)、脛節の前方及び第一跗節は灰白、但し後脛節にありては上方に二個の灰白紋を裝ひ、跗節及び距は黄褐。體長三分五厘。此は京都地方に稀ならざるが如し。

分布——本州(京都)。

(270) チャウザンギングチバチ 續千蟲四。一七〇頁 (N. 928) (第十六圖 (3) ♀)

學名 *Cnabro* (*Anodlyreus*) *jozankeanus* Mats.

昆蟲學上の地位、細腰蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 170, pl. LIII, f. 3, ♀, N. 928 (1912)

體は黒色、小點刻を密布す。額片及び上唇に銀白の短毛を密生し、上唇の前縁に金色毛を混生す。第一觸角節は橙黄色、内側に暗褐の縦條を裝ふ。複眼の内側に長楕圓形の一縦溝を具へ、其の間室に大小二種の點刻を具へ、大腮の末端及び基部は赤褐、兩鬚は黄褐、頰には黄褐の短毛を粗生す。中胸背及び稜状部に多數の小縦隆を並走し、翅底鱗は黄褐、後胸背の縦溝は前方に數個の黄線を有するを以つて梯段の如く、兩側に縮多し。翅は半透明、少しく黄褐を帯び、前縁、脈及び縁紋は黄褐。腹部は光澤を帯び、第二及び第五節の兩側に楕圓紋を横列し、尾

節は細く尖り、中央は溝様に列られ、黄褐の剛毛を簇生す。脚は黒色、各節の末端及び後脛節は暗褐、後脛節の外側に顆粒突起多く、内側は淡黄緑、跗節及び距は黄褐、跗節端は暗褐。體長五分五厘。此は札幌地方に稀ならず。

分布——北海道(札幌、定山溪)。

(271) **ギングチバチ** 續千蟲四。一七一頁 (N. 929) (第十六圖 (4) (♀))

學名 *Chalro (Anochlytus) auratus* Mats.

昆蟲學上の地位、細腰蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 171, pl. LIII, f. 4, ♀, N. 929 (1912)

體は黒色、小點刻を密布す。複眼の内側、前頭及び額片に金色の短毛を密生す。大腿は黄色、兩端は黒褐。兩鬚は黄褐。觸角の柄節、前胸背、稜狀部及び後稜狀部の一横線、中胸側の二紋及び各腹節の兩側紋は橙黄色。翅底鱗は黄褐、其の前縁に一黄紋あり。頭頂は少しく凹陥し、頬に銀色の短毛を密生す。後胸背の中央に一縦溝ありて、兩側に微細の隆條を斜走し、灰白の長毛を粗生す。翅は半透明、少しく灰黄を帯び、脈及び縁紋は黄褐。腹部は光澤を帯び、第一節の紋は小、以下各節の紋は兩側にて太く、中央に向ひ細小し、尾節の中央は溝様に列られ、黄褐の剛毛を粗生す。脚は黒色、轉節の末端、脛節の末端若くは末端の一紋、脛節及び跗節の大部は黄色、但し脛節の下面、末端並に跗節は暗褐。體長五分。此は札幌地方に産すれども餘り多からず。

分布——北海道(札幌)。

(272) **ニトベギングチバチ** 續千蟲四。一七三頁 (N. 930) (第十六圖 (5) (♀))

學名 *(Chalro (Ceratocochus) nitobei* Mats.

昆蟲學上の地位、細腰蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 173, pl. LIII, f. 5, ♀, N. 930 (1912)

體は暗褐、額片、上唇及び複眼の内側に銀色の短毛を密生す。觸角は栗色、下面は黄褐、柄節は黄色、頭頂にある點刻は胸背にあるものより遙かに小なり。前胸背の前後縁は隆起し、中胸背には微小の横皺多く、中央に低き一縦條あり。翅底鱗は黄褐、稜狀部には細き縦隆を並走し、後胸背には粗大の縮刻多し。翅は半透明、暗褐を帯び、光線の工合にて紫色を現はし、脈及び縁紋は暗褐。腹部は楕圓形、各節の後縁及び兩側は黄褐、其の内第二及び第三節にある帯は最も廣し。脚は黄褐。體長五分五厘。此は青森にて新渡戸稻雄氏の採集せるものなるが稀なるが如し。

分布——本州(青森)。

(273) **クビワギングチバチ** 續千蟲四。一七四頁 (N. 931) (第十六圖 (6) (♀))

學名 *(Chalro (Thlyptus) collaris* Mats.

昆蟲學上の地位、細腰蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 174, pl. LIII, f. 6, ♀, N. 931 (1912)

體は黒色、點刻を密布す。額片及び上唇は銀色の短毛を密生すれども、前方より見る時は單に黒色なるが如し、大腿の末端は赤褐、觸角は暗褐、柄節及び梗節は黄色、複眼の内側に短かき一縦溝あり。前胸背(後縁を除き)、後稜狀部及び第二腹節の中央帯は黄色、翅底鱗は黄褐、中胸背には粗大の點刻を具へ、前後縁に短かき縦隆を並走し、稜狀部には長形の點刻を縦走し、後胸背に稍や網目様の隆起あり。翅は半透明、少しく灰黄を帯び、脈及び縁紋は黄褐。各腹節の後縁及び尾端の突起は黄褐、下面に銀色の短毛多し。脚は黒色、轉節の末端、前中兩肢

の脛節、跗節並に後肢の跗節は黄色、但し脛節の下面は暗褐、後肢の脛節は暗褐、兩端は赤褐、跗節は少しく暗色を帯ぶ。體長三分。此は札幌地方に産すれども餘り多からず。

分布——北海道(札幌)。

(274) オホキンググチバチ 續千蟲四。一七五頁(N. 933) (第十六圖(7)(8))

學名 *Crabro* (*Thyreus*) *sapporonis* Mats.

昆蟲學上の地位、細腰蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 175, pl. III, f. 7, 8, N. 932 (1912)

體は黒色、灰白の軟毛多し。額片及び複眼の内側に銀色の短毛を密生す。大腮及び舌の末端は黄褐。兩鬚及び觸角の大部は黄褐、柄節(内側は黒褐)及び鞭節の數節(背面は暗褐)は黄色。頭には點刻多し。前胸背は稍や横卵形に列られ、中胸背に粗大の點刻及び縮刻を具へ、翅底鱗は黄褐、後胸背は粗粒にして、縮皺多し。翅は半透明、暗黄色を帯ぶ、脈及び縁紋は暗黄。腹部は長く、第一及び第二節の中央にある兩側紋は黄色、第三節の兩側紋、第四及び第五節の前縁にある一帯並に第六節の兩側にある小紋は綠黄、第一節の後縁は少しく縊れ、滑澤なり。脚は黄色、基節、轉節の基部、前腿節外側の一紋、中腿節の前面及び同脛節の上面、後腿節及び同脛節の内外側は黒色、中後の跗節(基部は黄褐)は暗褐。體長三分七厘。此は札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道(札幌)。

(275) オホハラアカアナバチ 續千蟲四。一七六頁(N. 933) (第十六圖(8)(9))

學名 *Sphex rugosus* Mats.

昆蟲學上の地位、細腰蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 176, pl. III, f. 8, 9, N. 933 (1912)

體は黒色、灰白の短毛を密生す。前頭は光線の工合にて銀光を放ち、兩鬚各節の末端は赤褐。口吻の末端は黄褐。前胸背には銀色の短毛を密生し、中胸背に小點刻を密布し、微小の横皺を裝ひ、後胸背には横皺多く、中央には二個の太き隆起を横走す。翅は透明、少しく黄色を帯び、翅端は暗色、脈及び縁紋は暗褐。第二腹節の前縁及び後縁(但し後縁の中央は暗褐)、第三節以下各節の兩側及び後縁、尾節並に腹面は黄褐(但し各節後縁の黄褐部は中央にて三角形に少しく列らる)。脚は黒色、腿節に點刻を粗布す。體長八分。此は臺灣恒春地方に普通なり。

分布——臺灣(埔里社、恒春)。

(276) ハラアカアナバチ 續千蟲四。一七七頁(N. 934) (第十六圖(9)(10))

學名 *Sphex platyrus* Mats.

昆蟲學上の地位、細腰蜂科。Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 177, pl. III, f. 9, 9, N. 934 (1912)

體は黒色、灰白の長毛多し。複眼の兩側、前頭、額片、頬及び胸側に銀色の短毛を密生し、大腮の末端は暗褐、頭頂及び前胸背に點刻を粗布す。中胸背には大形の點刻を具へ、中央にあるものは兩側にあるものよりも粗なり、後胸背は平たく、少しく凹陥し、微小の構皺多し。翅は透明、少しく黄色を帯び、光線の工合にて少しく紫色を現はし、脈及び縁紋は黒色、但し外方にある脈は黄褐。腹部は赤褐、第一節、第三節の前縁紋、第四節の人字形紋、第五及び第六節(何れも兩側及び後縁を除き)大部は暗褐。脚は黒色にして、之れに白色、黄色及び黒色の剛毛多く、前肢に銀色の長毛を密生し、同跗節の外側に黒色の長剛毛を裝ひ、爪は赤褐。體長七分。此は沖繩地方に普通なり。

分布——沖繩。

(277) オホソゴシアナバチ 續千蟲四。一七九頁 (N. 935) (第十六圖 (10) ♀)

學名 *Pemphredon japonicum* Mats.

昆蟲學上の地位、細腰蜂科、*Thous*, *Ins. Jap. Suppl.*, IV, p. 179, pl. LIII, f. 19, ♀, N. 935 (1912)

體は黒色、點刻多く、長白毛を粗生す。額片は滑澤を帯び、少しく點刻を裝ひ、前頭少しく凹陥し、小點刻及び微小の横皺多く、頭頂には多くの點刻を具ふ。中胸背の前方には横皺、後縁には縦皺多く、兩側にあるものは稍渦巻様に排列し、稜状部及び後胸背に縦皺多く、後者の中央に稍や半圓形の一横隆あり。翅は透明、少しく暗黄色を帯び、脈及び縁紋は暗褐。腹柄は細く、中央にて少しく弓状に彎曲し、腹部は卵形、第二節の後縁は少しく縊れ、第六腹節には點刻を粗布し、其の後縁は少しく赤褐、尾節の背上に長き縦溝あり。脚は黒色、距及び爪は赤褐。體長四分五厘。此は京都地方に稀ならざるが如し。

分布——本州(京都)。

(278) ツマキツチバチ 續千蟲四。一八〇頁 (N. 936) (第十六圖 (11) ♀)

學名 *Linceos flavopicta* Sm.

昆蟲學上の地位、土蜂科、*Thous*, *Ins. Jap. Suppl.*, IV, p. 180, pl. LIII, f. 11, ♀, N. 936 (1912)

體は黒色、尾端の五腹節は黄褐、大形の點刻を粗布し、金色の長毛多し、但し尾端の五腹節には金色の剛毛を粗生す。頭は小にして、稍や饅頭状を呈し、額片は少しく隆起し、點刻少く、觸角は光澤を缺き、柄節及び梗節

のみ光澤を帯び、點刻を裝ふ。中胸背にある點刻は大にして、兩側にある縦溝は判然す。稜状部の中央に一縦溝を具へ、後胸背の兩側に各一縦溝を裝ふ。翅は不透明、黒色、光線の工合にて少しく紫藍色を現はし、第一腹節には大形の點刻を粗布し、第二節にあるものより遙かに密にして、深く、第三腹節の基部に細き三角形の黒色部ありて、此は第二節と共に紫藍色を帯ぶ。脚は黒色。爪は暗褐、跗節は黄色の短毛を裝ふ。體長七分五厘。此は臺灣地方に産すれども餘り多からず。

分布——臺灣(埔里社)。

(279) ワタナベツチバチ 續千蟲四。一八〇頁 (N. 937) (第十六圖 (12) ♀)

學名 *Discolia watanabei* Mats.

昆蟲學上の地位、土蜂科、*Thous*, *Ins. Jap. Suppl.*, IV, p. 180, pl. LIII, f. 12, ♀, N. 937 (1912)

體は黒色、黄褐毛を粗生し、大形の點刻を粗布す。頭頂の一紋は黄褐、複眼内側の後方甚だしく列られ、大腸の末端は暗褐。中胸背の點刻は後胸背にあるものよりは粗にして、翅底鱗は栗色、後胸背には灰白の短毛多し。翅半透明、黄褐を帯び、脈は黄褐、翅底にて少しく濃色を呈す。腹部は黒色にして、少しく紫色を帯び、第三節及び第四節並に第五節の兩側縁は橙黄色、これには黄毛を粗生し、尾端の三節には褐色の剛毛を裝ひ、尾節の背面上は稍や卵形にして、少しく凹陥し、後縁は黄色、これに三個の黒針ありて、中央にあるものは長し。脚は黒色、跗節端、距及び爪は赤褐、體長六分。此は臺灣北埔にて故渡邊龜作氏の採集せるものなり。

分布——臺灣(北埔)。

(280) シロフベツカフ 續千蟲四。一八二頁 (N. 938) (第十六圖 (13) (♀))

學名 *Pompilus sapporensis* Mats.

昆蟲學上の地位、鼈甲蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 182, pl. LIII, f. 13, ♀, N. 938 (1912)

體は黒色、黒色の長毛を粗生し、微小の灰白短毛を密生す。額片は光線の工合により天鵞絨様の黒色、又銀光を放ち、點刻を粗布し、大腮の中央は赤褐、複眼内側の中央及び外縁は細く黄白、中後兩胸背の氣門は黄白。翅は半透明、少しく灰色を帯び、外縁は暗色、脈及び縁紋は黒色。第二及び第三腹節基部の兩側に黄白の各一紋を具へ、第三節にあるものは長くして、横置せらる。脚は黒色にして、灰白の微毛を密生し、距は暗褐、爪は赤褐。體長四分。此は札幌地方に産すれども餘り多からず。

分布——北海道(札幌)。

(281) ハリマベツカフ 續千蟲四。一八六頁 (N. 939) (第十六圖 (14) (♀))

學名 *Pompilus harimensis* Mats.

昆蟲學上の地位、鼈甲蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 183, pl. LIII, f. 14, ♀, N. 939 (1912)

體は黒色。複眼の内側、額片(中央の基部紋は黒色)、觸角間の一紋、觸角柄節の末端及び下面、大腮(末端は暗褐)、頰、兩鬚、舌、口吻の末端、前胸背の後縁及び兩側、翅底鱗、中胸背の四縱條(中央の二條は太く、後方にて相合す)、稜狀部(中央には細き一縱條あり)、後稜狀部の兩側紋、後胸背の後縁、胸側紋、第二腹節の基部及び前肢基節(前面は黒色)等は黄色。觸角及び上唇は黄褐、前者の背面は暗褐。口吻は光澤ある黒褐。後胸背の

中央に淺き一縱溝あり。翅は半透明、鼈甲様の黄色、翅端は暗褐、脈及び縁紋は黄褐、但し前縁と中脈は暗褐。第二腹節の兩側及び尾端は黄褐、第二腹面節に廣き黄白帶あり。脚は黄褐、基部及び轉節並に腿節の基部は黒色、中基節に黄色の一紋を具へ、跗節は黄白、但し中後兩肢にありては第一及び第二跗節の末端並に末端の三節は暗色。體長四分三厘。此は播州地方に産すれども餘り多からず。

分布——本州(播州)。

(282) ホツボベツカフ 續千蟲四。一八四頁 (N. 940) (第十六圖 (15) (♀))

學名 *Pompilus hopponis* Mats.

昆蟲學上の地位、鼈甲蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 184, pl. LIII, f. 15, ♀, N. 940 (1912)

體は黒褐、暗褐の短毛多し。複眼の兩側、額片(基部は三角形をなして黒褐)、上唇、大腮(末端は黒褐)、兩鬚、觸角(末端の八節は黒褐)、前胸背の後縁、中胸背後縁の四角紋、後胸背基部の兩側紋、第二腹節基部兩側の三角紋、第三、第四及び第五節の基部に於ける一帯(但し第四及び第五節にある帯は中央にて切斷せらる)、第三腹面節の二紋並に尾節は黄色。前後兩胸背及び胸側に黄紫色の鱗狀毛多し。前胸背の兩側及び翅底鱗は黄褐。翅は半透明、黄褐を帯び、前縁紋及び中脈は暗褐。脚は黄褐、基節、轉節基部の三分の二並に跗節端は黒褐、距は黄色。體長四分六厘。此は臺灣に産すれども其數餘り多からず。

分布——臺灣(北埔)。

(283) ヤノベツカフ 續千蟲四。一八五頁 (N. 941) (第十六圖 (16) (♀))

學名 *Pompilus yunonius* Mats.

昆蟲學上の地位、鼈甲蜂科。Thoms, Ins. Jap. Suppl., IV, p. 185, pl. LIII, f. 16, ♀, N. 941 (1912)

體は黒色。上唇及び大腮は光澤ある黒褐、大腮の中央は赤褐、舌は赤褐。單眼の前方に細き一縦溝あり。前胸背の兩側は光線の工合により灰白色を現はし、後稜状部の中央は少しく凹陥す。翅は半透明、少しく灰白を帯び、外縁及び各室の中央は暗灰色、脈は暗褐、但し前縁脈、中脈及び縁紋は黒色、光線の工合により少しく紫色を帯ぶ。腹部に斑紋を缺き、尾節に黒褐の剛毛多し。脚は黒色、跗節及び距は暗褐。體長四分。此は始めて矢野宗幹氏の九州にて採集せるものなるが、札幌地方には稀ならず。

分布——北海道、本州、九州。

(284) キケツメベツカフ 續千蟲四。一八六頁 (N. 912) (第十六圖 (17) (♀))

學名 *Pompilus basalis* Mats.

昆蟲學上の地位、鼈甲蜂科。Thoms, Ins. Jap. Suppl., IV, p. 186, pl. LIII, f. 17, ♀, N. 942 (1912)

體は黒色、暗褐の長毛と灰白の短毛多し。複眼の内側、前頭、額片、上唇(以上の二者は中央にて黒色)、大腮(末端は暗褐)、觸角柄節の前方、前胸背の後縁、稜状部の二紋、各胸側の一紋(但し中後の兩胸側紋は後縁にあり)及び第二腹節基部の兩側紋は黄白。兩鬚は黄色。觸角は黒褐、下面は黄褐、各節の中央肥大せるを以て波状を呈す。前胸の兩側は黄褐、稜状部には横皺を具へ、後胸背には銀白の短毛を密生す。翅は稍や透明、少しく黄白を帯び、外縁は暗色、脈及び縁紋は淡黄褐、但し前縁、前縁脈及び中脈は暗褐、光線の工合に依り紫色を帯ぶ。第一腹節に暗褐の臥毛を密生し、灰白の立毛を粗生す。脚は黒色、基節、轉節及び腿節の末端、前脛節の下面、

後脛節の基部及び距は黄色。體長四分。此は京都地方に産すれども其の數餘り多からず。

分布——本州(京都)。

(285) ヒメクロロビベツカフ 續千蟲四。一八七頁 (N. 943) (第十六圖 (18) (♀))

學名 *Salix secundus* D. T.

昆蟲學上の地位、鼈甲蜂科。Thoms, Ins. Jap. Suppl., IV, p. 187, pl. LIII, f. 18, ♀, N. 943 (1912)

體は黒色、微小の點刻を密布し、暗褐の短毛多し。大腮の末端は赤褐。中胸背の兩側に細き一縦隆を具へ、後胸背の中央に淺き一縦溝を裝ふ。翅は半透明、少しく鼈甲様の黄色を帯び、前翅の中央及び翅端に近く暗色帯ありて、内側にあるもの幅狭くして、短かく、脈及び縁紋は暗褐。腹部に斑紋を缺き、尾端及び各節の後縁は細く赤褐、尙、第一腹面節の兩側も赤褐を呈すれども、餘り判然せず。脚は黒色、轉節末端の一紋、前轉節の末端並に前肢の距は黄褐、爪及び後肢末端の三跗節は赤褐。體長三分。此は札幌地方に普通なり。

分布——北海道、本州。

(286) フタスヂベツカフ 續千蟲四。一八八頁 (N. 944) (第十六圖 (19) (♀))

學名 *Salix bizoutus* Mats.

昆蟲學上の地位、鼈甲蜂科。Thoms, Ins. Jap. Suppl., IV, p. 188, pl. LIII, f. 19, ♀, N. 944 (1912)

體は黒色、暗褐及び灰白の兩毛多し。複眼の内側に黄白の各一長紋を具へ、額片には金色毛多し。兩鬚は暗褐、各節の末端は黄褐。觸角は黒褐、下面は黄褐。前胸背の細き後縁及び翅底鱗は赤褐。翅は半透明、鼈甲様の黄色

を帯び、翅端は廣く暗色、光線の工合にて少しく紫色を現はし、脈及び縁紋は暗褐。第二、第三腹節及び第三腹面節の基部に黄白の各一帯ありて、何れも中央にて少しく切斷せられ、各節の細き後縁及び尾端は赤褐。脚は黒褐、轉節、基節及び腿節の末端、前腿節、脛節、跗節の内側、距、中後兩脛節の外側並に爪端は黄褐。體長六分五厘。此は東京地方に産すれども稀なり。

分布——本州（東京）。

(287) **タイワンベツカフ** 續千蟲四。一八九頁 (N. 915) (第十六圖 (20) ♀)

學名 *Zalius fenestratus* Sm.

昆蟲學上の地位、鼈甲蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 189, pl. LIII, f. 20, ♀, N. 915 (1912)

體は黄褐。頭、觸角及び前胸背の後縁は淡黄褐、大腿の末端は暗褐、顔には金色の短毛を密生す。前胸背の兩側及び前縁、中胸背の前縁及び兩側、後稜狀部（中央は赤褐）、中胸背、後胸並に第一、第二及び第三腹節の後縁は暗褐。翅は半透明、黄褐を帯び、脈及び縁紋は黄褐、光線の工合に依りて少しく紫色を現はす。腹部は光線の工合にて青紫色を帯び、腹面は尾端を除き暗褐。脚は黄褐、基節、轉節及び中後兩腿節の基部は暗褐。體長一寸一分。此は本邦最大の鼈甲蜂にして、臺灣に産すれども餘り多からず。

分布——臺灣、沖繩、支那、馬來、印度。

(288) **コセイボウ** 續千蟲四。一九〇頁 (N. 916) (第十六圖 (21) ♀)

學名 *Chrysis (Tetrachrysis) ignita* L.

昆蟲學上の地位、青蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 190, pl. LIII, f. 21, ♀, N. 916 (1912)

體は金屬性の青綠色。腹背は光澤ある赤銅色、大形の點刻を密布し、灰白の短毛を粗生す。觸角及び兩鬚は黒色、但し前者基部の二節は緑藍色。大腿の末端は暗褐。頭頂及び中胸背の大部は藍色。後胸の兩側は三角形をなして突出す。翅は半透明、少しく暗色を帯び、脈は暗褐、前縁、前縁脈、中脈及び縁紋は黒褐。腹背の色に變化多く、時に赤紫色若くは赤藍色を呈するものあり。尾端に四齒ありて、其の基部に近く大點刻の一横列を裝ふ。脚は青綠色、跗節は黒褐。體長二分八厘。此は本邦何れの地方にも普通なり。

分布——樺太、北海道、本州、四國、九州、支那、西比利亞、朝鮮、歐洲。

附言——本種に次の三變種あり。

form. *longula* Abeille 原種よりも遙かに大形なり。

form. *violacea* Uchida 腹部は原種に於けるよりも濃き紫色を呈す。

form. *japonica* Mocsary 體原種よりも大形にして紫色強し。

(289) **オホアリバチ** 續千蟲四。一九〇頁 (N. 917) (第十六圖 (22) ♂)

學名 *Mutilla dimidiata* Lep.

昆蟲學上の地位、蟻蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 190, pl. LIII, f. 22, ♂, N. 917 (1912)

體は黒色、大形の點刻多し。頭及び胸部に銀色の光澤ある黄白毛を裝ひ、後胸には銀白毛を密生す。大腿の中央に赤褐紋を裝ふ。中胸背の中央に二條の深き縦溝あり、稜狀部は圓錐形に突出し、尖端は少しく後方に曲り、後胸背には網狀の隆起多く、中央に V 字形の隆起あり。翅は暗色、少しく藍色を帯ぶ。腹部は黄褐、第一節及

び尾端は黒褐、但し第一節の後縁は黄褐、尾端の兩側に暗褐の棘状突起あり。脚は黒色、黄白の長毛多く、腿節の基部及び各附節の末端並に爪は赤褐。體長六分—六分五厘。雌は黒色、胸部赤褐、第二腹節基部の兩側にある毛紋、第三節にある毛帶(中央にて切断せらる)、第四節の兩側にある四角紋及び第六節の兩側にある縁毛は銀白。體長四分—五分。此は臺灣に普通なり。

分布——臺灣。

(290) クロイハキアリ 續千蟲四。一九一頁 (N. 918) (第十七圖 (1) ♀)

學名 *Mytolenus kuroiwae* Mats.

昆蟲學上の地位、蟻科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 191, pl. IIV, f. 1, ♀, N. 918 (1912)

體は赤褐。大腮は頗る長く、小齒を列ね、末端は稍々直角に屈曲す。觸角間に短かき二縦隆を具へ、其の後方に細き斜皺多し。複眼の後方に各一條の太き斜隆ありて、此は後方にて相接近し、此の斜隆の兩側は溝をなし、尙、後頭の中央にも一縦溝あり。觸角は細長、末端は圓錐形をなして尖り、黄褐。胸背には細き横皺多し、結節(腹柄)は圓錐形をなして突出し、尖端は少しく後方に向く。腹部は卵形にして、光澤を帯び、第三節及び第四節の後縁は金色を呈し、尾端及び毒刺は黄褐、後者は尾端の三節と同長なり。脚は赤褐、前後兩肢の距は大にして、黄色、前附節の基部弓状に彎曲す。體長三分。此は沖繩地方に産する普通種なり。

分布——沖繩(琉球)。

(291) トモンハナバチ 續千蟲四。一九二頁 (N. 919) (第十七圖 (2) ♀)

學名 *Anthidium japonicum* Sm.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 192, pl. IIV, f. 2, ♀, N. 919 (1912)

體は暗褐。額片(前縁は細く黒色)、前頭の兩側、大腮の基部にある一紋、後頭の二横紋及び各腹節の兩側にある一紋は橙黄色。前頭には黄白の長毛、後頭には暗褐の長毛を密生す。中胸背には暗黄の長毛を裝ひ、大形の點刻を密布すれども、前後兩胸背には點刻多し。翅は半透明、少しく暗色を帯び、翅端の三分の一は少しく濃色、脈及び縁紋は暗褐。腹部は黒色、弓状に彎曲し、各節の兩側に長紋を横列す、但し第六節の兩側に各一齒を裝ふ。體下には灰白の長毛多し。脚は黒色、灰白の長毛を密生し、距及び爪の基部は黄褐。體長五分。此は本州地方に産すれども其の數多からず。

分布——本州。

(292) シロフトガリハナバチ 續千蟲四。一九三頁 (N. 920) (第十七圖 (3) ♀)

學名 *Coelioxys soritopunctatus* Mats.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 193, pl. IIV, f. 3, ♀, N. 920 (1912)

體は黒色。大形の點刻多く、複眼の内側及び額片の中央に縦隆起を具へ、顔の兩側には灰黄毛多く、大腮の末端は赤褐、頭頂の點刻は粗大、頬には灰白毛多し。翅底鱗は暗褐、中央は黄褐。翅底鱗の後方に一個及び稜状部の基部に二個の白毛紋ありて、一横列をなす。稜状部後縁の兩側に各一棘刺を裝ひ、胸側に白毛多し。翅半透明にして、少しく黄褐を帯び、基部稍々透明にして、少しく黄色を帯び、脈及び縁紋は暗褐。各腹部の後縁及び第一節の兩側に白色の鱗毛多く、尾節は長き圓錐形、點刻小、末端の三分の一にて縦隆判然し、第二乃至第五腹節

の兩側にも白鱗毛を列ぬ。脚暗褐、跗節端及び爪は黃褐、腿節に灰白の鱗毛多し。體長四分五厘。此は臺灣恒春地方に稀ならず。

分布——臺灣(恒春)。

(293) **ワタナベトガリハナバチ** 續千蟲四。一九四頁 (N. 951) (第十七圖 (4) ♀)

學名 *Coelioxys watanabei* Mats.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 194, pl. LIV, f. 4, ♀, N. 951 (1912)

體は黒色。頭には黃褐の長毛多く、觸角暗褐、末端は少しく赤褐を帯び、口吻は黃褐、觸角の間室に一縱隆あり。中胸背の中央に判然せざる一縱隆を裝ひ、之れは稜狀部の末端に達し、稜狀部の兩側に大形の棘狀突起を具へ、胸側に網目様の點刻を密布す。翅は半透明、暗色を帯び、光線の工合にて紫藍色を現はし、脈及び縁紋は黃褐。腹部に點刻を粗布し、各節の前縁にあるものは小、尾節は前二腹節を合したるものと略同長、末端には判然せざる三縱隆を裝ひ、各腹節の後縁は赤褐にして、これに灰白毛を裝ふ。脚は黒褐、爪及び距の末端は赤褐、但し前肢の距は黄色にして、末端二分し、尙、脛節末端の外側に一棘刺あり。體長八分。此は臺灣北埔地方に産すれども稀なり。

分布——臺灣(北埔)。

(294) **コハラアカハナバチ** 續千蟲四。一九五頁 (N. 952) (第十七圖 (5) ♀)

學名 *Paravaspis abdominalis* Sm.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 195, pl. LIV, f. 5, ♀, N. 952 (1912)

體は黒色、大形の點刻多く、灰白毛を裝ふ。顔の兩側に銀白毛を密生し、額片は隆起し、其の基部に一縱隆を具へ、大腿の末端に近く赤褐部あり。觸角は暗褐、柄節の基部は赤褐。中胸背の中央に一縱溝あり。翅底鱗は暗褐、小點刻を粗布す。稜狀部に粗大の點刻多く、後縁の中央少しく凹陥す。翅は半透明、暗色を帯び、光線の工合にて紫藍色を呈し、脈及び縁紋は暗褐。腹部は赤褐、小點刻を粗布し、各節の後縁及び尾節は黃褐、尾端の中央に一針狀突起あり。脚は黒褐、基節、轉節及び腿節の末端、跗節(第一節は暗褐)並に距は黃褐。體長三分。此は本州及び九州には稀なれども臺灣には普通なり。

分布——本州、九州、沖繩、臺灣、支那、印度。

(295) **エゾキマダラハナバチ** 續千蟲四。一九六頁 (N. 953) (第十七圖 (6) ♀)

學名 *Komada jezoensis* Mats.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 196, pl. LIV, f. 6, ♀, N. 953 (1912)

體は黒褐、黄白の長毛を密生す。複眼前方の兩側、額片の前半、大腿(末端は暗褐)、兩鬚、觸角柄節の前面、前胸背の一横帯、翅底鱗、其の直下の一紋、第一及び第四腹節中央の一帯、第二及び第三節兩側基部の三角紋、第五節後縁並に尾端は黄色。觸角は黃褐、基部の内側に黒褐の一縱條あり。頭胸に粗大の點刻多し。翅は半透明、少しく暗黄を帯び、外縁は少しく暗色、脈及び縁紋は黃褐。第一腹節の黄帯は少しく中央にて遮斷せられ、各腹節に於ける黄色部の後縁は赤褐を帯ぶ。腹面及び脚は黃褐。基節、轉節及び腿節(何れも末端は黃褐)は黒褐、但し前中腿節は唯だ基部下面にて黒褐。體長四分。此は札幌地方に普通なり。

分布——北海道(札幌)。

(296) **ダイメウキマダラハナバチ** 續千蟲四。一九七頁 (Z. 955) (第十七圖 (7) ♀)

學名 *Nomada daimio* Mats.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 197, pl. IIV, f. 7, ♀, N. 954 (1912)

體は黒褐。複眼の内側、額片(中央に二黒褐紋あり)、上唇、大腮(末端は暗褐)、第二及び第三腹節の基部にある一帯、並に尾端の二節は黄色。觸角、複眼の外側、前胸背の一帯、肩部、翅底鱗、中腹背の兩側、中胸側の一紋、稜狀部の二突起、後稜狀部、第一腹節の中央帯及び各腹節の後縁は赤褐。翅は半透明、少しく暗黄を帯び、脈及び縁紋は黄褐、前縁は暗褐。第二腹節基部の中央に黒褐の三角紋を具へ、第二及び第三腹面節は赤褐、但し第三節の基部は黄色。脚は黄褐、腿節の基部は少しく黒褐、轉節、腿節及び脛節の内側に黒褐紋を裝ひ、距は黄色。體長四分。此は札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道(札幌)。

(297) **ヲカモトキマダラハナバチ** 續千蟲四。一九八頁 (Z. 956) (第十七圖 (8) ♀)

學名 *Nomada okamotonis* Mats.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 198, pl. IIV, f. 8, ♀, N. 955 (1912)

體は黒色、粗大の點刻多く、灰白の短毛を粗生す。複眼内側の三角部、額片、上唇、大腮(末端暗褐)、柄節、前胸背の一縦紋、肩部、中胸側の一紋、翅底鱗、稜狀部、第二及び第三腹節の兩側紋、第六節の後縁、尾節の中

央紋並に第三、第四及び第五腹面節の兩側紋は黄色。口吻は暗褐、各鬚節の基部は黄白。後胸背に點刻を缺く。翅は稍や透明、少しく暗黄を帯び、脈及び縁紋は暗黄、脚は淡黄褐、基部(下面及び一紋は黄色)、後肢轉節の中央紋、同腿節の外側の基部及爪は暗褐。體長二分五厘。此は札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道(札幌)。

(298) **ルリモンハナバチ** 續千蟲四。一九九頁 (Z. 957) (第十七圖 (9) ♀)

學名 *Crocisa emarginata* Jaep.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 199, pl. IIV, f. 9, ♀, N. 956 (1912)

體は黒色。顔、頬、胸側及び腹面に青藍色の長毛多し。前胸背の後紋、中胸背の三縦條及び四紋、稜狀部の二紋、翅底鱗の一紋、第一腹節の前縁、第一乃至第五腹節後縁の兩側紋並に第二及び第三腹面節の兩側紋は青藍色。觸角は黒褐、口吻は黄褐、胸背に點刻多く、黒毛を密生し、稜狀部は後縁にて三角形に列らる。翅は半透明、暗色を帯び、基部は稍や透明にして、灰白、脈及び縁紋は暗褐。腹部は光線の工合にて藍色を現はし、尾端は黄褐、腹面及び脚は暗褐。脛節及び第一跗節に白藍色の短毛多し。體長四分。此は臺灣に普通なり。

分布——臺灣、支那、馬來、印度。

(299) **セアカハナバチ** 續千蟲四。二〇〇頁 (Z. 957) (第十七圖 (10) ♀)

學名 *Anthophora lucokina* Bingham

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 200, pl. IIV, f. 10, ♀, N. 957 (1912)

體は黒褐、胸部に黃褐毛を密生す。前頭（八字形紋は黒色）、上唇（周圍は黒色）及び大腮（末端は赤褐、基部は暗褐）は灰白、喉頭及び頰に灰白の長毛多く、頭頂及び後頭には黃褐毛を簇生し、觸角柄節の一紋は灰白。翅は透明、少しく暗黄を帯び、脈及び縁紋は暗褐。第一腹節の兩側及び第二腹節後縁の兩側に黃褐毛を裝ひ、尾端に二個の棘状突起あり。脚は暗褐、腿節及び脛節には黃褐毛多く、爪の基部は黃褐。體長四分。此は八重山群島に産すれども、其の數餘り多からざるが如し。

分布——沖繩（八重山）。

(300) ハヒイロクマバチ 續千蟲四。二〇二頁 (N. 959) (第十七圖 (11) ♀)

學名 *Xylocopa formosana* Mats.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 201, pl. IIV, f. 11, ♀, N. 958 (1912)

體は黒色、黒毛を密生す。顔及び胸部に灰黄の長毛を密生す。複眼の内側、前頭、額片（全縁は黒色）及び頭頂の環状紋は灰黄色、口吻の末端は赤褐、舌は黄褐。中胸背の中央は毛を缺き、大形の點刻を粗布す。翅は半透明、暗色を帯び、翅底の半部は淡色、光線の工合にて紫色を現はし、脈は黒色。腹部に點刻を粗布し、第一腹節の兩側に灰黄の毛塊を具へ、各節後縁の中央に點刻を缺く。脚は黒色、跗節端は暗褐、後腿節の末端及び同脛節の基部に灰黄毛を裝ふ。體長八分。此は臺灣地方に産すれども稀なり。

分布——臺灣（新竹）。

(301) マヘキクマバチ 續千蟲四。二〇二頁 (N. 959) (第十七圖 (12) ♀)

學名 *Xylocopa flavifrons* Mats.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 202, pl. IIV, f. 12, ♀, N. 959 (1912)

體は黒色、點刻多く、黒色の長毛を簇生す。前頭の三角紋、額片、大腮の基部紋及び觸角柄節の前面は黄白、額片の前縁は細く黒色、口吻及び觸角は黒褐、但し觸角鞭節の前面は黄褐、複眼は綠黄。中胸背の中央は滑澤にして、點刻を缺き、前方に一縦溝を裝ふ。翅は半透明にして、黒藍色を帯び、脈は黒色。腹部は廣く、各節の後縁は細く赤褐。脚は黒色、跗節は暗褐、黃褐毛多く、爪は黄褐、末端は暗褐。體長七分。此は沖繩地方に産すれども、其の數餘り多からず。これは黒岩恒氏の採集に係るものなり。

分布——沖繩。

(302) キイロクマバチ 續千蟲四。二〇三頁 (N. 960) (第十七圖 (13) ♀)

學名 *Xylocopa hopyonis* Mats.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 203, pl. IIV, f. 13, ♀, N. 960 (1912)

體は黒褐、點刻多く、淡黄褐毛を密生す。前頭の三角紋、額片の一縦條及び前縁の兩側にある弓状紋並に觸角柄節の前方は黄色、口吻の下面及び舌は黄褐。中胸背の前方に一縦溝を具へ、中央は滑澤にして、點刻を缺く。翅は半透明、灰黄色、脈は暗褐。腹部は幅廣く、尾端は少しく濃色。脚は黒褐、黄褐毛多し、跗節の末端及び爪は暗褐、爪の基部は黄褐。體長一寸。臺灣地方に産すれども稀なり。故渡邊龜作氏の採集に係るものなり。

分布——臺灣（北埔）。

(303) キヲビコハナバチ 續千蟲四。二〇四頁 (N. 961) (第十七圖 (14) (♀))

學名 *Ceratina heteroglyphica* Sm. subsp. japonica Coop.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 204, pl. LIV, f. 14, ♀, N. 961 (1912)

體は黒色、灰色の短毛を裝ふ。前頭の一横紋、複眼内側の一縦紋、額片兩側の一紋、同前縁に近き丁字形紋、頰の一縦條、稜狀部並に各腹節後縁の一横帶等は橙黄色。口吻は黄褐、額片には淺き縮刻あり。觸角鞭節の前面は暗褐。翅底鱗は赤褐、中胸背に點刻を粗布し、後胸背に點刻を缺く。翅は稍や透明、少しく灰黄を帶ぶ、脈及び縁紋は暗褐。腹部に小形の點刻を粗布し、第一節の黄帶は細く、兩側は弓狀に彎曲し、第二乃至第四節帯は兩側にて増幅し、第二節帯は中央にて切斷せられ、第三及び第四節は中央にて増幅し、何れも少しく前方に弓曲す。脚は黒褐、脛節の基部紋は黄色、跗節端は黄褐、距は淡黄。體長三分。此は札幌地方に普通なり。

分布——北海道(札幌)。

(304) アヲヒメハナバチ 續千蟲四。二〇四頁 (N. 962) (第十七圖 (15) (♀))

學名 *Ceratina viridissima* Guér.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 204, pl. LIV, f. 15, ♀, N. 962 (1912)

體は金綠色、粗大の點刻多し。額片の中央にある三角紋及び肩部の一紋は黄色、額片の前縁、上唇、大腮及び頰の一紋は黒色、觸角は暗褐。中胸背には七條の黒縦隆ありて、最も外側にあるものは短かし。翅底鱗は黄褐。翅は稍や透明、少しく灰黄を帶び、脈及び縁紋は暗褐。腹部の關節部は黒色にして、點刻を缺く。脚は暗褐、少

しく綠色を帶び、前腿節の末端及び同脛節の基部にある一縦條並に後脛節の基部にある一紋は黄色、跗節端及び爪は黄褐、跗節は淡黄。體長二分五厘。此は臺灣地方に産する普通種なり。

分布——臺灣。

(305) アシプトハナバチ 續千蟲四。二〇五頁 (N. 963) (第十七圖 (16) (♂))

學名 *Nomia femoralis* Fall.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 205, pl. LIV, f. 16, ♂, N. 963 (1912)

體は黒色。頭及び胸部に黄褐毛多く、大形の點刻を密布し、前頭には金色の長毛を密生す。大腮の末端は赤褐、觸角は暗褐、鞭節の前面は赤褐。翅底鱗は甚だ大にして、翅根の全部を蔽ひ、暗褐、後方の大部及び外側は黄白、後胸背にある點刻は一層大にして、中央に一縦溝、兩側に一斜隆あり。翅は稍や透明、少しく黄褐を帶び、脈及び縁紋は黄褐。腹部は楕圓形、各節の後縁は暗褐にして、點刻を缺き、これに灰色毛を列ね、腹面は暗褐、第四節に二個の棘狀突起あり。脚は黒褐、脛節及び跗節は黄褐、後肢の脛節及び跗節は淡黄褐、同腿節は甚だしく肥大し、稍や弓狀に曲り、脛節は著しく變形して内方に長き葉狀の附屬物を出し、中肢の跗節黄色にして、甚だ長し。體長三分。此は九州に産すれども甚だ稀なり。

分布——九州(佐多岬)。

(306) クビレヒメハナバチ 續千蟲四。二〇六頁 (N. 964) (第十七圖 (17) (♀))

學名 *Halictus constrictus* Mats.

日本千蟲圖解

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 206, pl. LIV, f. 17, ♀, N. 964 (1912)

體は黒色、點刻を密布し、灰白毛多し。額片の前方に黄白の大紋を具へ、大腮の末端赤褐、觸角は暗褐。翅底鱗は黄褐、後胸背に於ける點刻は粗大なり。翅は稍や透明、少しく灰黄を帯び、脈及び縁紋は黄褐、前縁脈は暗褐。腹部は長楕圓形、小點刻を密布し、各節の後縁は細く赤褐、第一及び第二節の後縁は著しく緊縮す。脚は黒色、腿節の末端は赤褐、脛節の兩端、跗節の大部並に距は黄白、跗節端は暗褐。體長三分六厘。此は播州地方に普通なり。

分布——本州(播州)。

(307) オホクビレハナバチ 續千蟲四。二〇七頁 (N. 965) (第十七圖 (18) (♀))

學名 *Andrena antlucina* Mor.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 207, pl. LIV, f. 18, ♀, N. 965 (1912)

體は黒褐、灰白毛多く、粗大の點刻を密布す。大腮の末端は赤褐。中胸背に三縱溝ありて、中央にあるものは長く且つ深し、翅底鱗は光澤ある黄褐、後胸背の中央に網目様の縮刻多し。翅は稍や透明、少しく灰黄を帯び、脈及び縁紋は黄褐、前縁脈は暗褐。腹部は長楕圓形、各節の前後兩縁に深き横溝ありて、後縁には點刻を缺き、兩側は黄褐、尾端に暗褐毛多し。脚は暗褐、跗節及び距は黄褐、腿節には灰白長毛を密生す。體長四分三厘。此は本州に餘り多からざる種類なり。

分布——本州(信州羽黒山)。

(308) オホツヒメハナバチ 續千蟲四。二〇七頁 (N. 966) (第十七圖 (19) (♂))

學名 *Melitta macroceps* Mats.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 207, pl. LIV, f. 19, ♂, N. 966 (1912)

體は黒褐。頭胸に黄褐の長毛を密生す。頭頗る大にして、複眼の下方に棘狀の突起を裝ひ、更に其外方に二個の疣狀突起を具へ、頰の後方三角形に突出す。觸角は黒褐、末端は少しく淡色。前胸背の前後縁は隆起す。中胸背に點刻を粗布し、三縱溝を具へ、中央にあるものは長く且つ判然す。翅底鱗は黄褐。翅は稍や透明、少しく灰色を帯び、脈及び縁紋は黄褐。腹部は稍や卵形、第一節の基部は細く、少しく腹柄狀をなし、各節及び腹面節の後縁は黄褐。脚は黒褐、脛節の末端、跗節、距及び爪は黄褐。體長三分。此は札幌地方に稀ならず。

分布——北海道(札幌)。

(309) アカヒメハナバチ 續千蟲四。二〇八頁 (N. 967) (第十七圖 (20) (♀))

學名 *Sphexodes similimus* Sm.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 208, pl. LIV, f. 20, ♀, N. 967 (1912)

體は黒褐、灰黄の短毛を裝ふ。頭胸に點刻多し。大腮は赤褐。觸角は栗色、觸角間に一縱隆を具ふ。中胸背の中央に淺き一縱溝あり。翅底鱗は黄褐。後胸背の中央は稍や半圓形をなして光澤を帯び、之れに約十二條の不整隆起あり。翅は半透明、少しく暗黄色を帯び、脈及び縁紋は黄褐、前縁脈は暗褐、腹部は長卵形、始めの二節の前半は赤褐、以下の各節は黒褐、各節の後縁は光澤を帯ぶ。脚は黒褐、距及び末端の四跗節は黄褐。體長三分。

此は札幌地方に普通なり。土中に造巢す。

分布——北海道、本州、九州。

(310) **ウスアカヒメハナバチ** 續千蟲四。二〇九頁 (N. 963) (第十七圖 (21) ♀)

學名 *Sphaerocles pallidulus* Mats.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 303, pl. LIV, f. 21, ♀, N. 963 (1912)

體は黒色、少しく綠色を帯び、黄褐の短毛多く、點刻を密布す。額片の前縁及び大腮の末端赤褐、觸角間は少しく膨起し、額片に點刻少なし。觸角は暗褐。中胸背には三條の淺き縦溝ありて、中央には點刻少なし。翅底鱗は黄褐。後稜狀部には黄色毛を裝ひ、後胸背には不整の縦皺多く、後縁は截斷狀に終り、兩側は少しく隆起し、中央に短かき一縦溝あり。翅は稍や透明、少しく暗黄色を帯び、脈及び縁紋は暗黄、前縁脈は暗褐。腹部は赤褐、第三及び第四節の兩側に於ける前縁紋並に第五節の兩側は暗褐、尾節に灰白毛多く、中央に一縦隆あり。脚は暗褐、跗節は黄褐、距は黄白。體長二分四厘。此は九州熊本地方に産するも稀なり。

分布——九州(熊本)。

(311) **アカツクビナガバチ** 續千蟲四。二一〇頁 (N. 963) (第十七圖 (22) ♀)

學名 *Xiphodynia ruficeps* Mats.

昆蟲學上の地位、蜜蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 210, pl. LIV, f. 22, ♀, N. 963 (1912)

體は光澤ある黒色。頭(前頭は黒色)の大部は赤黄、前頭粗糙にして、縮刻多く、觸角間は隆起す。額片は赤

褐。大腮は暗褐にして、其の中央は赤褐。各下唇鬚の基部は灰白。中胸背に縮刻多く、三條の縦溝ありて、兩側にあるものは廣し。翅底鱗は褐色。稜狀部の兩側に小形の點刻を裝ひ、後稜狀部の末端は少しく凹陥し、後胸背は稍や葉狀をなし、中央にて二葉に分離し、其の内側は滑澤なり。翅は半透明、暗色を帯び、光線の工合にて少しく藍色を現はし、脈及び縁紋は黒色。第一腹節は長く、中央にて二葉に分離し、第二、第三及び第四腹節の前縁は緊縮し、始めの四節の後縁は狭く赤褐、兩側に灰黄の短毛多く、産卵管の末端は赤褐。脚は黒色、爪及び距は赤褐。體長六分。此は札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道(札幌)、本州(東京)。

(312) **キアシムギバチ** 續千蟲四。二一一頁 (N. 970) (第十七圖 (23) ♀)

學名 *Macrocephalus victor* Sm.

昆蟲學上の地位、扁葉蜂科(Lyridae)。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 211, pl. LIV, f. 23, ♀, N. 970 (1912)

體は黒色、少しく紺色を帯び、小點刻多く、黄褐の短毛多し。觸角は末端に近く側扁。小腮鬚は黄色、末節は暗褐。大腮の末端は赤褐。頭に暗褐の短毛多し。前胸背の後縁は黄色。翅底鱗は暗褐。翅は稍や透明、少しく灰黄を帯び、脈及び縁紋は黄褐。後胸背の裸出部、第一腹節の兩側紋、第二、第三、第四及び第五の後縁は黄色、但し第二節帯は切斷せらる。尾端は斜に截斷せられ、産卵管は尾節と同長。脚は黒色、基節の一紋(後基節紋は大なり)、腿節の末端、脛節及び跗節は黄色、跗節及び爪は黄褐。體長七分一八分。此は札幌地方に稀ならず。

分布——北海道(札幌)。

(313) ナカアカムギバチ 續千蟲四。二二二頁 (N. 971) (第十七圖 (24) ♀)

學名 *Cephus suberufa* Mats.

昆蟲學上の地位、扁葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 212, pl. LIV, f. 24, ♀, N. 971 (1912)

體は黒色、微小の點刻を密布し、灰色の短毛多し。複眼の内側及び大腿(基部及び末端は暗褐)は黄色、兩鬚は黄褐。稜狀部に點刻少なく、後胸背は滑澤にして、裸出部は黄褐。翅は稍や透明、光線の工合にて少しく紫色を帯び、脈及び縁紋は暗褐。腹部は黒色、第二、第三、第四並に第五節の前縁は赤黄、産卵管は長く、尾端の二節を合したるものよりも長し。脚は黒色、前腿節の末端、同脛節及び跗節並に中脛節の兩端は黄褐色。後脛節の基部は黄色、中後の兩跗節は褐色、距及び爪は黄褐。體長六分。此は播州地方に産すれども稀なり。

分布——本州(播州)。

(314) キバネチユウレンジ 續千蟲四。二二三頁 (N. 972) (第十七圖 (25) ♀)

學名 *Hylotoma (Arge) flavipennis* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 213, pl. LIV, f. 25, ♀, N. 972 (1912)

體は黒藍色、黄褐の短毛を装ふ。觸角は黒色、柄節は黒藍色。頭部に點刻多く、後頭及び頬には黒刻少し。大腿の末端及び兩鬚は暗褐。複眼は灰色。中胸背の前方及び稜狀部の基部に廣き一縦溝あり。胸部には少しく小點刻あれども、判然せず。翅は半透明、籠甲様の黄褐にして、基部は少しく黒藍色を帯び、脈及び縁紋は翅と同色、但し前縁脈の基部は黒藍色。腹部の長さは約胸部の二倍ありて、中央は少しく濃色、各節の基部は溝をなして少

しく緊縮す。尾端は少しく淡黄褐。腹面の兩側は光線の工合によりて金色を現はす。脚は黒藍色、距は黒色、爪は黄褐、各距節の末端に卵形の附屬物ありて、これは黄褐なり。體長六分。此は臺灣地方に産すれども稀なり。
分布——臺灣(魚池)。

(315) スズキチユウレンジ 續千蟲四。二二四頁 (N. 973) (第十七圖 (26) ♀)

學名 *Hylotoma (Arge) suzukii* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 214, pl. LIV, f. 26, ♀, N. 973 (1912)

體は黒綠色、灰白の短毛を装ひ、小點刻を粗布す。觸角は黄褐、基部の二節は黒色。前頭に Y 字形の縦隆あり。大腿の末端及び兩鬚は黄褐。中胸背の前縁に判然せざる一縦溝あり。翅は半透明、少しく灰白色を帯び、縁紋及び脈は暗褐、縁紋下に淡き暗色の一帯あり。腹部は黒色、初めの三腹節は暗黄色、尾端の二節は少しく藍色を帯び、尾節の後縁は細く黄褐。脚は黒色、前肢、脛節の末端、同脛節及び跗節は灰白、中後兩脛節基部の大半並に距は白色、爪は黄褐。體長二分七厘。此は京都地方の産にして、鈴木元次郎氏の採集に係るものなり。

分布——本州(京都)。

(316) ハコネマツハバチ 續千蟲四。二二五頁 (N. 974) (第十七圖 (27) ♀)

學名 *Lophyrus hakonenensis* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 215, pl. LIV, f. 27, ♀, N. 974 (1912)

體は黒色、點刻多く、灰白の短毛を装ふ。觸角の基部、上唇、兩鬚、前胸背の兩側(肩部)、翅底鱗、第一復節並

に各腹節の前後縁(細く)は黄白。觸角及び大腿は黄褐、後者の基部は黒褐。大腿の基部にある一紋は白色、後頭及び稜状部の大部は褐色。翅は稍や透明、少しく灰黄を帯び、脈及び縁紋は暗褐、但し後者の外側は黄褐。腹部の黄色帯は尾端に至るに従ひ幅を増し、各腹面節の基部にも黄白帯あり。脚は黒褐、轉節大部、腿節の末端、脛節、跗節及び爪は黄白、爪の末端及び距は褐色。體長三分三厘。此は箱根地方に産すれども稀なり。

分布——本州(箱根)。

(317) マツムナグロハバチ 續千蟲四。二一六頁(N. 976) (第十八圖(1)♀)

學名 *Ichneutes pini* I. subsp. *nigripictus* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 216, pl. IV, f. 1, ♀, N. 975 (1913)

體は黄白、點刻多し。頭、中胸背の三大紋、後稜状部、中胸片及び腹部の中央は黒色。觸角及び後頭は暗褐。額片の前縁は黄褐。大腿は赤褐、其の基部は暗褐。後稜状部は粗糙にして、大點刻を密布し、稜状部には點刻少なく、後縁少しく暗色を帯ぶ。翅は半透明、少しく灰黄を帯び、縁紋は暗褐、其の外縁及び脈は黄褐。第三、第四及び第五腹節(其の兩側を除き)、第六節の中央及び尾節の基部は黒色を呈す。脚は黄褐、前肢は淡黄褐、後肢は黒褐。體長二分七厘。此は京都地方に産すれども稀なり。

分布——本州(京都)。

(318) セグロヒゲナガハバチ 續千蟲四。二一七頁(N. 976) (第十八圖(2)♀)

學名 *Neonulus dorsalis* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 217, pl. IV, f. 2, ♀, N. 976 (1912)

體は淡黄褐。單眼の分部、觸角の基部、第一及び第二節の縦條、稜状部の一紋、後胸背、中胸片及び腹部の大部(末端及び兩側を除き)は黒色、但し腹部は光線の工合にて少しく藍色を帯ぶ。大腿の末端は暗褐。觸角は黄褐にして、長く末端は細し。胸背は光澤を帯び、小點刻多し。翅は半透明、翅底の大半は鼈甲様の灰黄色を帯び、外半は稍や透明にして、少しく黄色を帯び、縁紋は淡黄褐、其の基部及び脈は暗褐。腹部の中央は隆起し、尾端に二條の細き絲狀突起あり。脚は淡黄褐、後肢の基節は暗褐。體長二分八厘。此は播州地方に産すれども稀なり。

分布——本州(播州)。

(319) キアシヒゲナガハバチ 續千蟲四。二一八頁(N. 977) (第十八圖(3)♀)

學名 *Helconema flavipes* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 218, pl. IV, f. 3, ♀, N. 977 (1912)

體は黒色。大腿は黄褐、基部に暗褐の一紋あり。兩鬚は灰白。觸角は黒色、鞭狀にして長く、基部少しく暗褐。胸部に點刻を密布す。翅は稍や透明、少しく黄色を帯び、脈及び縁紋は暗褐、前縁、前縁脈及び中脈は黄褐。腹部は中央にて幅廣く、産卵管は黄白。脚は淡黄褐、後脛節(基部を除き)及び同脛節は黒褐、距及び爪は黄色。體長三分三厘。此は札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道(札幌)。

(320) シタキヨビハバチ 續千蟲四。二一九頁(N. 978) (第十八圖(4)♂)

學名 *Thromylogaster annularis* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 219, pl. LV, f. 4, ♂, N. 978 (1912)

體は黒色、灰白の短毛多く、微小の點刻多しと雖も、後頭の兩側にあるものは大にして、粗なり。大肥の末端は赤褐。兩鬚は灰色。觸角は短かく、九節より成り、末端は細し。翅底鱗及び後胸背の二紋は白色。翅は稍透明、前翅は少しく黄色を帯び、前紋及び縁紋は黄褐、脈は暗褐。各腹節(第一節を除き)の後縁は黄色、第三節より以下尾節まで黄褐乃至暗褐、腹面の大部は黄色、兩側及び第四節の中央にて暗褐を帯ぶ。脚は黄色、基節、轉節及び腿節の基部は暗褐。體長三分二厘。此は札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道(札幌)。

(321) タケダハバチ 續千蟲四。二二〇頁 (N. 979) (第十八圖(5)♀)

學名 *Tenthredo takedae* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 220, pl. LV, f. 5, ♀, N. 979 (1912)

體は黄綠色、黒色の短毛多く、微小の點あれども餘り判然せず。觸角(下面及び柄節の末端は黄緑)、頭頂のH字形紋、觸角間の八字形の溝、稜狀部の後方及び脚の一縦條は黒色。大肥の末端は暗褐。翅は稍や透明、脈は暗褐、前縁及び縁紋は黄白。腹部に斑紋を缺き、唯だ第二節の基部にて少しく黒色を帯ぶ。脚は黄緑、黒色の短毛多く、腿節及び脛節の外側に一黒條を縦走し、距及び爪の末端は少しく赤褐を帯ぶ。體長三分五厘。此は竹田久吉博士の白馬山頂にて捕獲せる珍種なり。

(322) ミツハシハバチ 續千蟲四。二二二頁 (N. 980) (第十八圖(6)♀)

學名 *Macrophya mitsuhashii* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 221, pl. LV, f. 6, ♀, N. 980 (1912)

體は黒色、額片、上唇、大肥(末端は暗褐)、肩部及び第一腹節の兩側紋は黄色。觸角は末端にて暗褐。兩鬚は暗黄、頭には點刻を粗布し、胸背には點刻を密布す。翅は稍や透明、前翅は少しく黄色を帯び、縁紋及び脈は暗褐、前縁及び劍狀室の兩脈は黄褐。腹部は少しく光澤を帯び、第一腹節の中央は凹陥し、第六節最も幅廣し。脚は暗褐、腿節の末端及び内側、脛節(末端は暗色)並に跗節は黄褐、但し前肢の跗節は少しく淡色なり。體長四分。此は札幌地方に於て始めて三橋信治氏の採集せるものなり。

分布——北海道(札幌)。

(323) クロハバチ 續千蟲四。二二三頁 (N. 981) (第十八圖(7)♀)

學名 *Macrophya iguava* Su.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 222, pl. LV, f. 7, ♀, N. 981 (1912)

體は黒色、灰白の短毛多し。額片、上唇、大肥(末端は暗褐)、兩鬚(末端は少しく暗色を帯ぶ)、前胸背後縁の兩側、翅底鱗前半部及び脚の斑紋は黄色。翅は稍や透明、前翅は少しく黄色を帯び、脈及び縁紋は暗褐、外縁及び後縁の脈並に後翅の脈は黄褐。腹部は圓柱形にして、第一及び第二節少しく太し。脚は黒色、基節の末端、轉節、腿節の末端、其の内側並に脛節(兩端を除き)及び距は黄色、但し前肢脛節の内側は黄色、後肢の距は暗

褐、前中兩跗節にある各跗節の中央は暗黄、爪は黄褐。體長三分五厘。此は京都地方に普通なり。
分布——北海道、本州、九州。

(324) キバラハバチ 續千蟲四。二二三頁 (N. 923) (第十八圖 (8) (♀))

學名 *Macrophya flaviventris* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 223, pl. IV, f. 8, ♀, N. 982 (1912)

體は黒色、微小の點刻多し。前頭、後頭の兩側にある横紋、頰、大腮(末端は暗褐)、兩鬚、觸角の下面、中胸背前縁の二紋、翅底鱗、稜狀部、其の前後の一紋、後胸背の中央紋、體下及び脚は黄色。翅は稍や透明、前翅は微かに黄色を帯び、脈及び縁紋は暗褐。腹部は平たく、各節の後縁は白色、尾端の二突起は暗灰色。腿節、脛節及び跗節の内側に黒色の一縦條を具へ、距は黄白、但し後腿の距は其の末端にて暗褐。體長二分五厘。此は札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道(札幌)。

(325) ハネナガハバチ 續千蟲四。二二四頁 (N. 924) (第十八圖 (9) (♀))

學名 *Allantus longipennis* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 224, pl. IV, f. 9, ♀, N. 983 (1912)

體は黒色。頭に粗大の縮刻多く、胸背には點刻多し。複眼の内側、額片、上唇及び觸角の附着部は黄色。觸角は暗褐、基部の三節及び大腮は赤褐。兩鬚は暗黄。小腮鬚の末端及び基部は暗褐。頰の下方、後頭兩側の一横紋、

前胸背の後縁及び翅底鱗(中央は暗褐)は黄褐。稜狀部は三稜形をなして突出す。翅は腹端よりも遙かに長く、稍や透明にして、少しく黄褐を帯び、脈は暗褐、横脈及び縁紋は黄褐、後胸側の一紋、第一腹節、第三腹節後縁の兩側、第四乃至第七腹節の後縁、第八及び第九節の大部並に各腹面節の後縁は黄色。脚は黒褐、基節及び轉節の一紋(但し後轉節は全部黄色)は黄色、腿節の末端、脛節、跗節、距及び爪は黄褐、但し距の末端は少しく暗褐を帯ぶ。體長五分。此は札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道(札幌)。

(326) マハコブハバチ 續千蟲四。二二五頁 (N. 925) (第十八圖 (10) (♀))

學名 *Selandria japonica* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl., IV, p. 225, pl. IV, f. 10, ♀, N. 984 (1912)

體は黒色、灰白の短毛を裝ひ、小點刻多し。大腮の末端は赤褐。兩鬚は暗黄。前胸背の兩側、翅底鱗、後胸背の二紋、各腹節及び各腹面節の後縁は暗黄。胸背は光澤を及び、點刻を缺き、前方には微小の縮刻あり。翅は透明、少しく黄色を帯び、脈及び縁紋は暗褐。腹部は黒褐、第五節最も廣し。脚は黄白、基節の基部、轉節、腿節(末端を除き)、脛節の末端及び跗節の大部は暗褐。體長二分五厘。此は札幌地方に稀ならず。

分布——北海道(札幌)。

(327) モイハハバチ 續千蟲四。二二六頁 (N. 926) (第十八圖 (11) (♀))

學名 *Allantus moiwasanus* Mats.

日本千蟲圖解

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 226, pl. LV, f. 11, ♂, N. 985 (1912)

體は黃褐、黃白毛多し。頭頂は黒色。額片、上唇及び兩鬚は黃白。大腮の末端は黒褐。中胸背には點刻多し。前胸背の兩側、翅底鱗、稜狀部及び後稜狀部は淡黃褐、稜狀部は少しく隆起す。翅は半透明、少しく黄色を帯び、外縁の三分の一は暗色、脈は暗褐、前縁及び縁紋は黃褐。腹部は尾端に至るに従ひ其の幅を増し、第一節の前後兩縁は少しく黒色、尾端の兩側に稍や葉狀の附屬物あり。脚は黃褐、爪の末端は暗褐。體長四分五厘。此は札幌地方に産すれども稀なり。

分布——北海道(札幌)。

(328) フジハバチ 續千蟲四。二二七頁 (N. 926) (第十八圖 (12) ♀)

學名 *Macrophya fujisana* Mats.

昆蟲學上の地位、葉蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 227, pl. LV, f. 12, ♀, N. 986 (1912)

體は黒色、光線の工合にて少しく紫藍色を現はし、灰色の短毛多く、小點刻を密布す。上唇は白色。小腮鬚は暗褐。觸角は暗褐、第三節の末端、第四及第五節は基部黃白。頭の兩側及び中央に縱溝を裝ふ。翅は透明、少しく黄色を帯び、脈及び縁紋は暗褐。腹部の中央は少しく淡色、第三及び第四節の兩側及び基部は灰白、産卵管は長し。脚は黒褐、前肢腿節の末端、脛節、跗節及び距は淡黃褐、中肢腿節の末端は黃褐。體長四分。此は富士の裾野にて捕獲せられたり。

分布——本州(富士)。

(329) フタスチヒメバチ 續千蟲四。二二八頁 (N. 927) (第十八圖 (13) ♂)

學名 *Coelichneumon bivittatus* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 228, pl. LV, f. 13, ♂, N. 987 (1912)

體は黒色、點刻を粗布し、灰色の短毛を裝ふ。複眼の周圍、前頭、大腮(兩端は暗褐)、兩鬚、前胸背の後縁、翅底鱗、其の直下の一紋、中胸背の細き二縱紋、前中兩側紋及び稜狀部の二縱紋は黃白。後胸背に網狀の隆起あり。翅は半透明、少しく灰黄を帯び、外縁は少しく暗色を呈し、脈及び縁紋は黒褐、外縁の脈は黃褐。脚は黃白、前中兩肢に於ける腿節及び脛節の外側(兩側を除き)は暗褐。後肢は黄色、基節の兩端及び轉節、腿節並に脛節の末端は黒色、第二、第三及び第四腹節の背上に縱針痕を具へ、此各節の後縁は細く赤褐なり。體長六分五厘。此は京都にて鈴木元次郎氏の採集に係るものなり。

分布——本州(京都)。

(330) ハラアカヒメバチ 續千蟲四。二三〇頁 (N. 929) (第十八圖 (16) ♀)

學名 *Amblyteles cursorius* Sm.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 230, pl. LV, f. 16, ♀, N. 989 (1912)

體は暗褐、小點刻多く、黃褐の短毛を裝ふ。複眼の内側、前頭、觸角(中央は黃白)、兩鬚、大腮(末端は暗褐)、肩部、翅底鱗、腹部及び脚の大部は赤褐、稜狀部は黄色、點刻を粗布す。後胸背は粗糙にして、網目狀の隆起を具へ、兩側に短かき棘狀突起あり。翅は稍や透明、籠甲様の黃褐を帯び、縁紋及び脈は黃褐。第一腹節は黒褐に

して、兩側に縦溝を具へ、末端に多数の細き縦皺を裝ひ、第二、第三及び第四節の後縁は暗褐。脚は黄褐、基節、轉節の外側及び腿節の上面は暗褐。體長四分五厘。此は東京地方に普通なり。

分布——本州、九州。

(331) トハダヒメバチ 續千蟲四。二二三頁 (N. 331) (第十八圖 (18)) (♂)

學名 *Proctotermes platicornis* Kriehb.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 233, pl. LV, f. 18, ♂ (non ♀), N. 301 (1912)

體は黒色、點刻を粗布し、黄褐の短毛多し。前頭、大腮(末端及び下縁は暗褐)、複眼の兩側(細く)、兩鬚、觸角柄節の前面、前胸の後縁(細く)、翅底鱗の中央、其の直下の一縦紋及び稜狀部の中央は黄色。觸角黒褐。後胸背にある網狀の隆起は高し。翅は半透明、少しく暗黄を帶び、縁紋及び脈は暗褐。第二及び第三腹節並に第二、第三及び第四腹節は赤褐、第二節基部の兩側に卵形の凹陥を具へ、第一節にある縦隆は高し。脚は黄色、前肢基節及び腿節の外側、同脛節外側の末端、中肢腿節の外側、後肢の基節、腿節及び脛節の末端並に跗節(第一節を除き)の大部は暗褐、距及び爪は黄色、爪の末端は赤褐。體長八分五厘。此は青森十和田湖畔にて捕獲せられたり。北海道にも産す。

分布——北海道、本州(青森)。

(332) ヨシダヒメバチ 續千蟲四。二三四頁 (N. 332) (第十八圖 (19)) (♂)

學名 *Tehnennon yoshidae* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 231, pl. LV, f. 19, ♂ (non ♀), N. 302 (1912)

體は黒褐、黄褐の短毛多く、點刻を密布す。前頭(但し觸角間前方の一紋及び額片の前縁は黒褐)、兩鬚、觸角柄節前方の一紋、觸角の下面、翅底鱗及び稜狀部は暗黄。後胸背にある網狀の隆起は高く、中室に縦皺あり。翅は半透明、少しく黄褐を帶び、光線の工合によりて紫藍色を現はし、脈の大部は暗褐。腹部の中央は幅廣く、第一節に縦皺多く、第二及び第三節は赤褐、第二節の凹陥は三、四の横皺を裝ふ。脚は淡黄褐、基節、轉節、中後兩腿節並に脛節の末端は黒褐、後跗節は少しく暗褐を帶ぶ。體長一寸。此は栃木縣にて吉田氏の採集に係るものなり。

分布——本州(栃木)。

(333) ウスイロヒメバチ 續千蟲四。二三五頁 (N. 333) (第十八圖 (20)) (♀)

學名 *Cobanus pallidulus* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 235, pl. LV, f. 20, ♀, N. 303 (1912)

體は淡黄褐、黄白の短毛及び微小の點刻多し。大腮の末端は黒褐、兩鬚は淡黄。觸角は暗褐、基部は淡色。稜狀部は突出し、其の兩側に縦隆あり。後胸背には網目様の隆起を裝ふ。翅は半透明、籠甲様の淡黄褐を帶び、脈及び縁紋は淡黄褐。腹部は胸部よりも少しく細く、第四節の中央紋並に第五、第六節及び第七の三節は黒藍色。

脚は淡黄褐。體長五分五厘。此はキアシドクガの幼蟲に寄生す。

分布——北海道(札幌)、本州(東京)。

(334) キバラヒメバチ 續千蟲四。二三六頁 (N. 991) (第十八圖 (21) ♀)

學名 *Proctichneumon dispar* Fed. subsp. *ventralis* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 236, pl. IV, f. 21, ♀, N. 991 (1912)

體は黒褐、黄褐の短毛及び點刻多し。複眼の兩側、額片、上唇、大腮(末端は暗褐)、兩鬚、觸角の中央、肩部、第二、第三腹節の後縁及び兩側並に第二、第三及び第四腹節は黄色。前頭は暗褐。稜狀部は隆起し、其點刻は大なり。後胸背には網狀の隆起ありて、其の點刻は大なり。翅は半透明、籠甲様の黄色を帯び、外縁は少しく暗色を呈し、縁紋及び脈は淡黄褐、前縁脈及び中脈は少しく暗褐を帯ぶ。第二腹節の基部にある凹陥は三角形をなし、尾端の四節少しく藍色を帯ぶ。脚は黄色、基節及び後肢の腿節は黒褐、中肢腿節の内側及び後肢脛節の末端は暗褐。體長五分五厘。此は札幌地方に産する普通種なり。

分布——北海道(札幌)。

(336) ヤヘアマヒメバチ 續千蟲四。二三七頁 (N. 995) (第十八圖 (22) ♀)

學名 *Proctichneumon yajeyamensis* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 237, pl. IV, f. 22, ♀, N. 995 (1912)

體は黄褐、點刻及び黄褐の短毛多し。觸角末端の半部、中胸背の兩側及び中央にある太き縦條、胸側(中胸側

の一枚は黄褐)、第一腹節の前半の兩側、第二、第三及び第四腹節の基部は暗褐。稜狀部は隆起し、基部の兩側に隆起あり。後胸背の中室は判然せるも、兩側にある縦隆は判然せず。翅は半透明、籠甲様の黄色を帯び、末端は少しく暗色を呈し、脈は暗褐、外縁脈及び縁紋は黄褐、第二腹節の凹陥は楕圓形にして深し。脚は黄褐、中後兩肢の基節及び轉節は黒褐、爪の末端は少しく暗褐を帯ぶ。體長六分。此は沖繩八重山地方に産すれども、其の數餘り多からず。黒岩恒氏の採集に係るものなり。

分布——沖繩(八重山)。

(337) ホツボヒメバチ 續千蟲四。二三八頁 (N. 996) (第十八圖 (23) ♀)

學名 *Coelichneumon hopponis* Mats.

昆蟲學上の地位、姬蜂科。Thoms. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 238, pl. IV, f. 23, ♀, N. 996 (1912)

體は黒色、點刻を粗布し、黄褐の短毛多し。頭は黄色、前頭の三角紋、額片の中央、頭頂及び後頭は黒色。觸角は暗褐、中央は黄色。大腮は栗色、基部は黄色。前胸背の後縁、翅底鱗下の一紋及び稜狀部は黄色、後胸背に粗大の點刻を裝ふ。翅半透明、少しく暗黄を帯び、光線の工合にて少しく紫色を現はし、脈及び縁紋は黒褐。第二腹節の基部に縦皺多く、凹陥は長楕圓形、産卵管は尾節と同長。脚は淡黄褐、基節(前縁は暗色)は黄色、後基節は暗褐、外側に黄紋あり。體長六分。此は臺灣地方に産すれども稀なり。

分布——臺灣(北埔)。

(338) タイワンアゲヒメバチ 續千蟲四。二三九頁 (N. 997) (第十八圖 (24) ♂)